IBM Unica Campaign バージョン 8 リリース 6 2013 年 2 月

# インストール・ガイド



#### - お願い -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、123ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Campaign バージョン 8 リリース 6 モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

- 原典: IBM Unica Campaign Version 8 Release 6 February, 2013 Installation Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター
- 第1刷 2013.4
- © Copyright IBM Corporation 1998, 2013.

## 目次

第11	章 ·	イン	ス	<u>- ا</u>	ーノ	10	D≱	퇃傭	青	•	•	•	•		•	1
Campaig	gn 砉	基本イ	ン	スト		11	のう	FI	ッ	クリ	リス	ert				1
アップ	グレ・	ードを	を行	う	場合	Ĩ,	ま	たに	は複	数	のノ	°	テ	イシ	/	
ョンを棒	構成`	する場	易合													3
IBM Ur	nica	コン	ポー	-ネ	ント	トネ	うよ	び-	それ	ιĠ	の	イン	ノス	<u>⊦</u> -	-	
ル先 .																3
前提条件	牛.															4
シス	テム	要件														4
知識	要件	÷														5
クラ	イア	ント	• 7	マシ	ン											5
アク	セス	権限														5
Mark	eting	g Plat	for	n (	の要	[件	•									6
JAV	A_H	OME	環	境刻	変数	$(\mathcal{O})$	確	忍								6
eMessag	ge と	: Can	npai	ign	の	統合	Å.									7
eMes	sage	,構成	えに	つい	12	•										7
既存	Лe	Mess	age	1	ンプ	スト		ル	済み	▶環	境(	のう	ッツ	プ	ゲ	
レー	ド															7
eMes	sage	・レオ	<u>°</u> —	トロ	D要	件										8

## 第2章 Campaign のデータ・ソースの準

備
ステップ: Campaign システム・テーブルのデータベ
ースまたはスキーマを作成する
ステップ: ODBC またはネイティブ接続を Campaign
マシン上に作成する
ステップ: JDBC ドライバーの Web アプリケーショ
ン・サーバーを構成する
ステップ: Web アプリケーション・サーバーに
JDBC 接続を作成する
JDBC 接続の情報
IBM Unica Campaign データベース情報チェックリ
スト
第3章 Campaign のインストール15
ステップ: IBM Unica インストーラーを入手する 15
Campaign での eMessage のインストールについて 16
eMessage コンポーネントがインストールされる場
所
IBM Unica Marketing インストーラーの機能 17
インストーラー・ファイルの単一ディレクトリー
要件
製品インストール・ディレクトリーの選択 18
インストール・タイプ
インストール・モード
無人モードを使用して複数回インストールする . 19
IBM Unica Campaign コンポーネントの選択 21
IBM Unica Campaign Report Package のコンポー
ネントの選択
すべての IBM Unica Marketing 製品のインストール
に必要な情報

<ul> <li>インストール・ウィザード内の移動</li> <li>IBM サイト ID</li> <li>データベース環境変数</li> <li>Campaign Report Package の「スキーマ・タイプ 選択」ウィンドウ</li> <li>インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成 する方法</li> </ul>	23 24 24 24 25 25
第 4 章 配置前の Campaign の構成 2	27
ステップ:手動で Campaign システム・テーブルを 作成してデータを追加する (必要な場合) 手動での eMessage システム・テーブルの作成と	27
データの追加 (必要な場合)	28
ステップ: Campaign を手動で登録する (必要な場合)	29
手動による eMessage の登録 (必要な場合) ステップ: Campaign 始動スクリプトにおけるデー	30
タ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)	31
テータベース環境変数およびライフラリー環境変 数 (UNIX)	31
第5音 Campaign Web アプリケーショ	
	85
Web アフリケーションのセッション・タイムアワト を変更する (オプション)	35
WebSphere Application Server での IBM Unica	55
Campaign のデプロイ	35
ルからの IBM Unica Campaign のデプロイ	~
1 0	36
WebSphere Application Server での EAR ファイル	36
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ	36 37
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置	36 37 39
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の堪合の追加ステップ	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ	36 37 39 40 40
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート Campaign サーバーを直接始動するには	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート Campaign サーバーを始動する Campaign サーバーを直接始動するには	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート Campaign サーバーを始動する Campaign サーバーを直接始動するには Campaign サーバーを Windows サービスとしてイ ンストールする方法	<ul> <li>336</li> <li>337</li> <li>339</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>42</li> </ul>
<ul> <li>WebSphere Application Server での EAR ファイルからの IBM Unica Campaign のデプロイ</li> <li>WebLogic への IBM Unica Campaign の配置</li></ul>	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>42</li> <li><b>I3</b></li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ         WebLogic への IBM Unica Campaign の配置         追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ)         WebLogic 11g の場合の追加ステップ         すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート         ステムに関するレポート         Campaign サーバーを始動する         Campaign サーバーを直接始動するには         ンストールする方法         第 6 章 配置後の Campaign の構成         ステップ: Campaign リスナーの稼働を確認する	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>42</li> <li><b>I3</b></li> <li>43</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ         WebLogic への IBM Unica Campaign の配置	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>42</li> <li><b>I3</b></li> <li>43</li> <li>43</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ WebLogic への IBM Unica Campaign の配置 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート Campaign サーバーを始動する	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>42</li> <li><b>I3</b></li> <li>43</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ	<ul> <li>36</li> <li>37</li> <li>39</li> <li>40</li> <li>40</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>41</li> <li>42</li> <li><b>I3</b></li> <li>43</li> <li>44</li> </ul>
WebSphere Application Server での EAR ファイル からの IBM Unica Campaign のデプロイ 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ) WebLogic 11g の場合の追加ステップ すべてのバージョンの WebLogic での UNIX シ ステムに関するレポート	37 39 40 40 41 41 41 41 41 41 42 <b>I3</b> 43 43 44

ステップ: 「構成」ページで必須 Campaign プロパ
ティーを設定する
ステップ: データ・ソース・プロパティーを設定
する
ステップ:追加プロパティーを設定する....47
ステップ: Campaign のユーザー・テーブルをマップ
<i>ta</i>
ステップ: Campaign インストールの確認 47
ステップ: IBM アプリケーションを統合する場合の
オプションの構成を行う
ステップ: IBM Unica Marketing Operations との
統合のためのプロパティーを設定する 48
ステップ: eMessage を統合するための起動プロセ
スを開始する
第7章 Campaign での複数のパーティ
ションの構成 51
パーティションの利点 51
パーティションのユーザー割り当て 51
パーティション・スーパーユーザー 52
パーティションのデータ・アクセス
複数のパーティションのセットアップ 52
複数のパーティションを構成する場合の前提条件 52
パーティションのデータ・ソースの準備53
パーティションのシステム・テーブルの作成とデ
ータの追加
追加パーティションごとのディレクトリー構造の
作成
テフォルト・パーティションを複製するには 53
新しいパーティション構造の作成
パーナイションのナータ・ソース・フロバナイー
ン人テム・ユーザーのセットアック
複数のパーテインヨンかめる場合の IBM Cognos レ
レホート・アーカイノ .zip ノアイルのコビーを作 世士スためのレポート パーニュンロン・コーニ
πε 9 つ Γ α) リ レ ホート・ハーティンヨノ・ユーテ
イリティーの実行
<ul> <li>ィリティーの実行</li></ul>

								~ ~						
複数	の)	°—	ティ	シэ	ンを	を使り	用す	る	場合	のり	ての	手順	İ.	

60

第	8	章	eMessage	での複数のパーティ
	_ `		推击	

ションの構成	(	61
eMessage のパーティションの作成手順		61
IBM Unica eMessage のパーティションについて.		62
eMessage のパーティションの重要な特性		62
Campaign のパーティションとの関係		63
eMessage 内の複数のパーティションに関する要件		63
Campaign の要件		63
eMessage の要件		63
ステップ: eMessage の新しいパーティションを作成		
する		64

ステップ: パーティションの eMessage システム・テ
ーブルを準備する
パーティション・スキーマ内の eMessage テーブ
ルの作成とデータの追加
手動での eMessage システム・テーブルの作成と
データの追加 (必要な場合)
パーティションのシステム・テーブルへの自動ア
クセスの構成
パーティションのシステム・テーブル特性の指定 68
ステップ: IBM Unica Hosted Services へのパーティ
ション・アクヤスを構成する 68
IBM Unica Hosted Services にアクセスするシステ
ム・ユーザーの構成 69
ステップ·新規パーティションに対応する Campaign
で eMessage を使用可能にする 69
ステップ・パーティションの RLII の場所を指定する 69
ステップ・システム・コンポーネントを再始動する 70
ステップ・パーティションの構成および接続をテスト
する 71
複数のパーティションがある場合の IBM Cognos レ
成業が、「シーマーマーマーマーマーマーマー」 ポートの構成 71
始める前に 72
eMessage レポート・アーカイブ zin ファイルの
コピーを作成するためのレポート・パーティショ
ン・ツールの実行 72
Cognos モデルのコピーの作成 73
IBM Unica の「構成」ページでのパーティション
のレポート・プロパティーの更新 74
第 9 章 Campaign のアップグレード75
すべての IBM Unica Marketing 製品のアップグレー
ド前提条件 75
アップグレードの順序 76
Campaign $\mathcal{P}_{\nu}\mathcal{P}_{\nu}\mathcal{P}_{\nu}$
eMessage $\gamma \gamma \gamma \gamma \gamma \nu \tau $
eMessage のアップグレードの進備 80
eMessage $\gamma \gamma
全受信者リストのアップロードの完了 80
アップグレード中のアウトバウンド E メール配
をたついて 11 20 21 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20

9 CCO IBM Offica Marketing 表面のアクラクレ	
ド前提条件	75
アップグレードの順序	76
Campaign アップグレード・シナリオ	77
eMessage アップグレード・シナリオ	77
eMessage のアップグレードの準備	80
eMessage アップグレードのスケジューリング	80
全受信者リストのアップロードの完了	80
アップグレード中のアウトバウンド Ε メール配	
信について	81
アップグレード中の E メール・レスポンスにつ	
いて	81
7.x より前のバージョンの Affinium Campaign から	
のアップグレード	81
IBM Unica Marketing Platform へのアップグレー	
к	82
構成設定のエクスポート (オプション)	82
Affinium Campaign の登録解除	82
インストールの準備	82
IBM Unica Campaign のインストール、配置、お	
	82
IBM Unica Campaign へのデータのマイグレーシ	
Ξン	83
Campaign 7.x バージョンからのアップグレード	83
Affinium Campaign eMessage 7x がインストール	
されている場合の Campaign のアップグレード	83
	50

構成設定のエクスポート (オプション)	84
Campaign のバックアップ ........	84
Campaign の配置解除	85
メモリーからの未使用ファイルのアンロード	
(AIX のみ)	85
Campaign アップグレードのインストール	85
Web アプリケーション・サーバーへの Campaign	
の再配置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	85
SQL アップグレード・スクリプトの確認と、必要	
に応じた変更...............	85
環境変数の設定	87
アップグレード・ツールを実行するために必要な	
情報の収集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88
アップグレード・ログについて.......	89
パーティションのアップグレードについて	89
アップグレード・ツールの実行.......	89
Campaign システム・ユーザー・パスワードの再	
入力	90
Campaign 8.x バージョンからのアップグレード	91
eMessage および Campaign のアップグレードに	
	91
構成設定のエクスポート (オプション)	92
Campaign のバックアップ	92
レスポンスおよびコンタクトのトラッカーの停止	92
Campaign の配置解除	93
メモリーからの未使用ファイルのアンロード	
(AIX のみ)	93
Campaign アップグレードのインストール	93
Web アプリケーション・サーバーへの Campaign	
	94
レスポンスおよびコンタクトのトラッカーの再始	
動	94

SQL アップグレード・スクリプトの確認と	•	必要	Ŧ	
に応じた変更...........				94
環境変数の設定				96
アップグレード・ツールを実行するために	必要	更な		
情報の収集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				97
アップグレード・ログについて				98
パーティションのアップグレードについて				98
アップグレード・ツールの実行....				98

## 付録 A. IBM Unica ユーティリティー 101

Marketing Platform ユーティリティーについて	. 101
configTool ユーティリティー	. 103
datafilteringScriptTool ユーティリティー	. 107
encryptPasswords ユーティリティー	. 109
partitionTool ユーティリティー	. 110
populateDb ユーティリティー	. 112
restoreAccess ユーティリティー	. 113
scheduler_console_client ユーティリティー .	. 115
RCT スクリプト	. 117
MKService_rct スクリプト	. 118

### 付録 B. IBM Unica 製品のアンインス

<b>トール</b>	<b>. 119</b> . 119
IBM Unica 技術サポートへの連絡	. 121
<b>特記事項</b>	<b>. 123</b> . 125

## 第1章 インストールの準備

IBM<sup>®</sup> Unica<sup>®</sup> 製品のインストールは複数のステップが関係するプロセスであり、 IBM Unica によって提供されないいくつかのソフトウェア要素およびハードウェア 要素を使って作業する必要があります。 IBM Unica 資料には IBM Unica 製品のイ ンストールに必要な特定の構成や手順に関する幾らかのガイダンスが記載されてい ますが、IBM Unica によって提供されないシステムを使った作業の詳細について は、その製品の資料を参照してください。

IBM Unica Marketing ソフトウェアのインストールを開始する前に、インストール について計画してください。それには、ビジネス目標、およびそれを支えるために 必要なハードウェアとソフトウェアの環境が含まれます。

## Campaign 基本インストールのチェックリスト

以下に、Campaign の基本インストールを実行するために必要なステップの概要を示 します。これらのステップに関する詳細は、このガイドの残りの部分で説明しま す。

#### データ・ソースの準備

1. 9ページの『ステップ: Campaign システム・テーブルのデータベースまたはス キーマを作成する』

データベース管理者と共に作業して、Campaign システム・テーブルのデータベースまたはスキーマを作成します。

2. 9ページの『ステップ: ODBC またはネイティブ接続を Campaign マシン上に作成する』

Campaign システム・テーブルおよび顧客 (ユーザー) テーブルへの ODBC 接続 またはネイティブ接続を作成します。

3. 10 ページの『ステップ: JDBC ドライバーの Web アプリケーション・サーバー を構成する』

データベース・ドライバーを Web アプリケーション・サーバーのクラスパスに 追加します。

4. 11 ページの『ステップ: Web アプリケーション・サーバーに JDBC 接続を作成 する』

必須の JNDI 名および推奨される JNDI 名を使用して、Campaign および Marketing Platform システム・テーブルへの JDBC 接続を作成します。

#### IBM Unica Campaignのインストール

1. 15 ページの『ステップ: IBM Unica インストーラーを入手する』

Campaign インストーラーおよびレポート・パッケージ・インストーラーを入手 します。 2. 必要なデータベースおよび Web アプリケーション・サーバーの情報を収集しま す。

22 ページの『すべての IBM Unica Marketing 製品のインストールに必要な情報』を参照してください。

3. 23 ページの『ステップ: IBM Unica インストーラーを実行する』

Marketing Platform がインストールされて配置され、実行されている状態で、 Campaign をインストールします。

#### 配置前の IBM Unica Campaign の構成

1. 27 ページの『ステップ: 手動で Campaign システム・テーブルを作成してデー タを追加する (必要な場合)』

Campaign インストーラーにシステム・テーブルを自動的に作成させるように選択しなかった場合、付属の SQL スクリプトを使用してシステム・テーブルを作成し、データを追加します。

2. 29 ページの『ステップ: Campaign を手動で登録する (必要な場合)』

インストーラーが Campaign を登録できない場合、Marketing Platform ユーティ リティーを使用して手動で登録します。

3. 31 ページの『ステップ: Campaign 始動スクリプトにおけるデータ・ソース変数 の設定 (UNIX のみ)』

UNIX にインストールし、システム・テーブルがあるデータベース・タイプ以外 のデータベース・タイプにアクセスできるようにする必要がある場合、起動スク リプトにデータベース環境変数およびライブラリー・パスを追加します。

#### IBM Unica Campaignの配置

- 1. 35 ページの『第 5 章 Campaign Web アプリケーションの配置』の配置のガイ ドラインに従います。
- 2. 41 ページの『Campaign サーバーを始動する』

サーバーを直接始動するか、または (Windows にインストールする場合) サーバ ーをサービスとしてオペレーティング・システムにインストールすることができ ます。

#### 配置後の IBM Unica Campaign の構成

1. 43 ページの『ステップ: Campaign リスナーの稼働を確認する』

Campaign リスナーが稼働していることを確認します。Campaign のどの機能を使用して作業を行うにも、リスナーが稼働している必要があります。

2. 43 ページの『ステップ: Campaign システム・ユーザーをセットアップする』

「**セットアップ」>「ユーザー**」領域に、データ・ソース資格情報を保有する IBM Unica システム・ユーザーをセットアップします。

3. 44 ページの『ステップ:「構成」ページでデータ・ソース・プロパティーを追加 する』 Campaign のインストール済み環境が使用するデータベースまたはスキーマごと に、該当するベンダーに適切なテンプレートをインポートします。次に、これら のテンプレートを使用して、データベースまたはスキーマごとにデータベース構 成プロパティーのセットを作成します。

4. 46 ページの『ステップ: 「構成」ページで必須 Campaign プロパティーを設定 する』

「設定」>「構成」ページで、データベース・プロパティーおよびその他の必須 プロパティーを設定します。

5. 47 ページの『ステップ: Campaign のユーザー・テーブルをマップする』

顧客 (ユーザー) テーブルをマップします。

6. 47 ページの『ステップ: Campaign インストールの確認』

キャンペーンとフローチャートが作成できることを確認してください。

## アップグレードを行う場合、または複数のパーティションを構成する場合

アップグレードを行う場合は、アップグレードの準備に関するセクションを参照し てください。

複数のパーティションを作成する計画の場合は、複数のパーティションの構成に関 するセクションを参照してください。

## IBM Unica コンポーネントおよびそれらのインストール先

次の図は、IBM Unica アプリケーションをインストールする場所についての概要を 簡潔に示しています。

このセットアップは、機能する基本的なインストールです。セキュリティーおよび パフォーマンスの特定の要件を満たすには、より複雑な分散型のインストールが必 要になる場合もあります。



## 前提条件

以下は、IBM Unica Marketing 製品のインストールのための前提条件です。

## システム要件

システム要件について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Enterprise Products Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参 照してください。

### JVM の要件

スイート内の IBM Unica Marketing アプリケーションは、専用の Java<sup>™</sup> 仮想マシ ン (JVM) に配置する必要があります。 IBM Unica Marketing 製品は、Web アプリ ケーション・サーバーによって使用される JVM をカスタマイズします。 JVM に 関連したエラーが生じた場合、IBM Unica Marketing 製品に専用の Oracle WebLogic または WebSphere<sup>®</sup> ドメインを作成しなければならないことがありま す。

### ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM Unica Marketing 製品は、クロスサイト・ スクリプティングのセキュリティー・リスクを抑えるために設計されたブラウザー 制限に準拠するために、同じネットワーク・ドメイン上にインストールする必要が あります。

### 知識要件

IBM Unica Marketing 製品をインストールするには、製品がインストールされる環 境に関する十分な知識を持っているか、あるいはその知識を持っている人とともに 作業を行う必要があります。これには、オペレーティング・システム、データベー ス、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

## クライアント・マシン

クライアント・マシンは、以下の構成要件を満たしている必要があります。

- Campaign でフローチャートと管理機能について ActiveX 制御を使用する。この フローチャートは必要なときに自動的にダウンロードされます。 Internet Explorer ブラウザーのローカル・イントラネットに対して推奨されるセキュリティー設定 は、「中低」です。具体的には、クライアント・ブラウザーで次のオプションを 有効にしておく必要があります。
  - 署名済み ActiveX 制御のダウンロード
  - ActiveX 制御とプラグインの実行
  - スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX 制御のスクリプトの実行
- ブラウザーでページをキャッシュしない。 Internet Explorer で、「ツール」>「インターネットオプション」>「全般」>「閲覧の履歴」>「設定」の順に選択し、 アクセスするたびにブラウザーがページの新しいバージョンの有無を確認するオ プションを選択します。
- ポップアップ広告ウィンドウをブロックするソフトウェアがクライアント・マシンにインストールされていると、Campaign が適切に機能しないことがあります。 最良の結果を得るために、Campaign を実行する間は、ポップアップ広告ウィンドウをブロックするソフトウェアを無効にしてください。

### アクセス権限

ご使用のネットワーク権限で本書の手順を実行することができること、および適切 な権限でログインしていることを確認してください。

適切な権限は次のとおりです。

- Web アプリケーション・サーバーの管理パスワード。
- 必要なすべてのデータベースに対する管理権限。
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーやアップグレード時のバックアップ・ディレクト リーなどの、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書 き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り/書き込み/実行権限。

- Web アプリケーション・サーバーと IBM Unica Marketing コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントには、関連ディレクトリーとサブディレクトリーに対する読み取りと書き込みのアクセス権限がなければなりません。
- UNIX の場合、Campaign と Marketing Platform をインストールするユーザー・ アカウントは、Campaign ユーザーと同じグループのメンバーでなければなりません。このユーザー・アカウントには、有効なホーム・ディレクトリーがなければならず、そのディレクトリーに対する書き込み権限も必要です。
- UNIX の場合、IBM Unica 製品のすべてのインストーラー・ファイルには完全な 実行権限 (rwxr-xr-x など) が必要です。

## Marketing Platform の要件

IBM Unica Marketing 製品をインストールする前に、Marketing Platform がインスト ールされている必要があります。

連動する製品のグループごとに、Marketing Platform を一度だけインストールする必要があります。

インストール後、Marketing Platform を使用して「設定」>「構成」ページで構成プロパティーを設定する準備ができたら、Marketing Platform を Web アプリケーション・サーバーにデプロイして実行させる必要があります。

## JAVA\_HOME 環境変数の確認

IBM Unica Marketing 製品をインストールするマシンに JAVA\_HOME 環境変数が定義 されている場合には、Sun JRE のバージョン 1.6 を指していることを確認してくだ さい。

この環境変数は IBM Unica Marketing 製品のインストールに必須ではありません が、存在する場合には Sun JRE 1.6 バージョンを指している必要があります。

JAVA\_HOME 環境変数が存在し、間違った JRE を指し示している場合には、IBM Unica Marketing インストーラーを実行する前に JAVA\_HOME 変数を設定解除する必要があります。そのためには、次のようにします。

• Windows: コマンド・ウィンドウで、次のように入力します。

set JAVA\_HOME=こちらは空のままにして、Enter キーを押します

• UNIX タイプ・システム:端末で次のコマンドを入力します。

export JAVA HOME=こちらは空のままにして、Enter キーを押します

環境変数を設定解除すると、IBM Unica Marketing インストーラーではインストー ラーにバンドルされた JRE が使用されます。

インストールが完了したら、環境変数を再設定できます。

## eMessage と Campaign の統合

IBM Unica Campaign を IBM Unica eMessage と統合すると、eMessage を使用して、高度にパーソナライズした E メール・マーケティング・キャンペーンを行えます。

eMessage は IBM によってホストされるリソースにアクセスする機能を備えている ので、顧客データマートに格納されている情報に基づいて、個別カスタマイズ・メ ッセージを設計、送信、およびモニターできます。

- Campaign で、フローチャートを使用して、Eメール受信者のリストを作成し、 各受信者のパーソナライズ・データを選択します。
- eMessage で、Eメールの設計、送信、および配信可能量に関して IBM によって ホストされるリソースを使用して、Eメール・マーケティング・キャンペーンを 行います。

## eMessage 構成について

Campaign をインストールすると、IBM Unica eMessage が自動的にインストールさ れます。ただし、Campaign のインストール・プロセスにおいて、eMessage が構成 されたり使用可能に設定されたりすることはありません。

Campaign をインストールした後に eMessage を使用するためには、ホストされた E メール・サブスクリプションを購入する必要があります。その上で、eMessage を構 成して、IBM が IBM Unica Hosted Services の一部として保守する、ホストされた E メール・リソースへのセキュア接続を確立します。これらの E メール・リソース には、IBM がサブスクリプションの一環として作成する、ホストされた E メー ル・アカウントを使用してアクセスします。

eMessage をインストールおよび構成する方法を知るには、以下の資料を参照してください。

- 「IBM Unica Campaign インストール・ガイド」では、eMessage をインストール またはアップグレードする方法について説明しています。ローカル環境にインス トールされた「オンプレミス」eMessage コンポーネントを準備する方法について も説明しています。
- 「IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド」では、ホストされた「オンデマンド」Eメール・リソースへの接続方法について説明しています。 eMessage 実装を保守およびモニターする方法についても説明しています。

## 既存の eMessage インストール済み環境のアップグレード

既に eMessage 8.x と一緒に Campaign を使用している場合、最新の 8.x バージョンの Campaign をアップグレードすると、現行の eMessage インストール済み環境 が自動的にアップグレードされます。

eMessage 8.x のアップグレードについて詳しくは、91ページの『eMessage および Campaign のアップグレードについて』を参照してください。

現在 Affinium Campaign eMessage 7.x を使用している場合は、 83 ページの 『Affinium Campaign eMessage 7.x がインストールされている場合の Campaign の アップグレード』を参照してください。

## eMessage レポートの要件

IBM Unica Marketing は、レポート機能を提供するために IBM Cognos<sup>®</sup> を統合し ます。標準の eMessage パフォーマンス・レポートを表示するには、サポートされ ているバージョンの IBM Cognos と、IBM Unica Campaign の関連レポート・パッ ケージをインストールする必要があります。標準の eMessage レポートは、 Campaign レポート・パッケージの一部としてインストールされます。

IBM Cognos をインストールまたはアップグレードする方法について詳しくは、 「*IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド*」を参照してください。

## 第2章 Campaign のデータ・ソースの準備

Campaign のデータ・ソースを準備するには、以下のステップで説明する手順を実行 します。

- 1. 『ステップ: Campaign システム・テーブルのデータベースまたはスキーマを作 成する』
- 2. 『ステップ: ODBC またはネイティブ接続を Campaign マシン上に作成する』
- 3. 10ページの『ステップ: JDBC ドライバーの Web アプリケーション・サーバー を構成する』
- 4. 11 ページの『ステップ: Web アプリケーション・サーバーに JDBC 接続を作成 する』

複数のパーティションを構成する場合は、51ページの『第7章 Campaign での複数のパーティションの構成』を読んでください。

## ステップ: Campaign システム・テーブルのデータベースまたはスキーマを 作成する

1. データベース管理者と共に作業して、Campaign システム・テーブルを格納する データベースまたはスキーマを作成します。

Campaign には、顧客 (ユーザー) テーブルも必要であることに注意してください。これらのテーブルは、あらかじめ存在していなければなりません。

2. 後にインストール処理でシステム・ユーザーに指定することになるアカウント を、データベース管理者に作成してもらいます。

このアカウントには、少なくとも CREATE、DELETE、DROP、INSERT、 SELECT、および UPDATE 権限が必要です。

3. 14 ページの『IBM Unica Campaign データベース情報チェックリスト』を印刷 します。データベースまたはスキーマの情報、およびデータベース・アカウント の情報を入手し、その情報をチェックリストに記録します。このセクションで説 明する残りのステップを実行する際にも、引き続きこのチェックリストに情報を 記入してください。この情報は、後にインストール処理で使用します。

## ステップ: ODBC またはネイティブ接続を Campaign マシン上に作成する

Campaign サーバーがインストールされたマシンには、以下にリストするデータベー スへの ODBC 接続またはネイティブ接続が必要です。

- Campaign システム・テーブルを格納するデータベースまたはスキーマ
- 顧客 (ユーザー) テーブルを格納するデータベースまたはスキーマ

これらの ODBC 接続またはネイティブ接続を作成するには、以下のガイドラインに 従ってください。

- UNIX 上のデータベースの場合:ネイティブ接続 (DB2<sup>®</sup> および Oracle データベースの場合)、または ODBC 接続 (SQL サーバー、Teradata、Netezza<sup>®</sup> など、その他のデータベースの場合)を作成します。ネイティブ・データ・ソースを作成する手順は、データ・ソースのタイプおよび UNIX のバージョンによって異なります。特定の ODBC ドライバーのインストールおよび構成方法については、データ・ソースおよびオペレーティング・システムの文書を参照してください。
- Windows 上のデータベースの場合: 「コントロール パネル」の 「管理ツール」> 「データ ソース (ODBC)」セクションで、新しい ODBC 接続を作成します。

14 ページの『IBM Unica Campaign データベース情報チェックリスト』に、ODBC 名を記録してください。

## ステップ: JDBC ドライバーの Web アプリケーション・サーバーを構成す る

Campaign に必要な JDBC 接続に対応する正しい JAR ファイルを入手する必要が あります。また、Campaign を配置する予定の Web アプリケーション・サーバーの クラスパスに、このファイルの場所を追加する必要もあります。

Campaign が複数の異なるベンダーのデータベースに接続しなければならない場合 は、データベース・タイプごとに以下の手順を実行します。Campaign に必要な JDBC 接続を特定するには、11ページの『ステップ: Web アプリケーション・サー バーに JDBC 接続を作成する』を参照してください。

- 1. IBM Unica 製品での使用がサポートされる、ベンダー提供の最新のタイプ 4 JDBC ドライバーを入手します。
  - このドライバーが、Campaign Web アプリケーションを配置する予定のマシン にない場合、ドライバーを入手してマシンにコピーします。これは、マシン上 の任意の場所にコピーできます。パスの問題が生じる可能性を回避するため に、スペースを含まないパスにドライバーをアンパックします。
  - データ・ソース・クライアントがインストールされているマシンからドライバーを入手した場合、そのバージョンが、IBM Unica 製品での使用がサポートされる最新のものであることを確認します。

以下の表に、IBM Unica Marketing のシステム・テーブルでサポートされるデー タベース・タイプに対応したドライバー・ファイルを示します。

注: サード・パーティー要件のリストは、「*IBM Unica Campaign 推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件*」の資料を参照してください。このファイルは、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/ support/entry/portal/open\_service\_request)の「資料」の下に掲載されています。または、IBM Unica Marketingで「**ヘルプ」**>「製品資料」を選択して、この資料を参照することもできます。

データベース・タイプ	JDBC ドライバー・ファイル
Oracle 11gR1, Oracle	ojdbc14.jar (JVM 1.4 の場合)
11gR2	ojdbc5.jar (JVM 1.5 の場合)
	ojdbc6.jar (JVM 1.6 の場合)

データベース・タイプ	JDBC ドライバー・ファイル
DB2	db2jcc.jar
	db2jcc_license_cu.jar (v9.5 以降にはありません)
SQL Server 2008 R2	sqljdbc.jar (JVM 1.4 または 1.5 の場合)
	sqljdbc4.jar バージョン 2 または 3 (JVM 1.6 の場合)

- 2. Campaign Web アプリケーションを配置する予定の Web アプリケーション・サ ーバーのクラスパスに、ファイル名を含めたドライバーへの絶対パスを組み込み ます。
  - サポートされるすべてのバージョンの WebLogic で、環境変数が構成される WebLogic\_domain\_directory/bin ディレクトリーの setDomainEnv スクリプト にクラスパスを設定します。

Web アプリケーション・サーバーが正しいドライバーを使用するようにする ためには、ドライバーのエントリーが CLASSPATH リストの値の中でどの既 存の値よりも前に配置される最初のエントリーでなければなりません。以下に 例を示します。

#### UNIX

CLASSPATH="/home/oracle/product/<version>/jdbc/lib/ojdbc14.jar: \${PRE\_CLASSPATH}\${CLASSPATHSEP}\${WEBLOGIC\_CLASSPATH} \${CLASSPATHSEP}\${POST\_CLASSPATH}\${CLASSPATHSEP}\${WLP\_POST\_CLASSPATH}" export CLASSPATH

#### Windows

set CLASSPATH=c:¥oracle¥jdbc¥lib¥ojdbc14.jar;%PRE\_CLASSPATH%; %WEBLOGIC\_CLASSPATH%;%POST\_CLASSPATH%;%WLP\_POST\_CLASSPATH%

- サポートされるすべてのバージョンの WebSphere で、IBM Unica Marketing 製品用の JDBC プロバイダーをセットアップする際に、管理コンソールにク ラスパスを設定します。
  - DB2 9.5 の場合、db2jcc.jar の完全な場所だけを指定します。
  - DB2 9.7 の場合、db2jcc.jar の完全な場所だけを指定します。
  - Oracle 11gR1 および 11gR2 の場合、jre 1.6 バージョンの ojdb65.jar の 完全な場所を指定します。
- 3. Web アプリケーション・サーバーを再始動して、行った変更を有効にしてくだ さい。

起動の際に、コンソール・ログをモニターして、クラスパスにデータベース・ド ライバーへのパスが含まれていることを確認します。

## ステップ: Web アプリケーション・サーバーに JDBC 接続を作成する

Campaign Web アプリケーションは、JDBC 接続を使用して、必要なデータベース と通信可能でなければなりません。これらの JDBC 接続は、Campaign を配置する 予定の Web アプリケーション・サーバーに作成します。 Campaign Web アプリケーションに作成する必要がある JDBC 接続を特定するに は、以下のリストを使用してください。このリストには、推奨される JNDI 名およ び必須の JNDI 名が記載されています。

- 1. Campaign システム・テーブルを保持するデータベースへの接続。
  - パーティションが 1 つの場合、推奨される JNDI 名は campaignPartition1DS です。
  - 複数のパーティションがある場合のベスト・プラクティスは、最初の接続には campaignPartition1DS を使用し、2 番目の接続には campaignPartition2DS を使用するというような形にすることです。

注: このプラクティスは、一例としてのみ記載しています。Campaign システム・テーブル接続には、任意の JNDI 名を指定できます。

2. Marketing Platform システム・テーブルを保持するデータベースへの接続。 UnicaPlatformDS を JNDI 名として使用します。

重要: UnicaPlatformDS は、必須の JNDI 名です。

Campaign を、Marketing Platform と同じ JVM に配置している場合は、この接続 が既にセットアップされているはずです。

JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する方法について詳しく は、WebLogic または WebSphere の資料を参照してください。

注: WebLogic を使用して、Oracle または DB2 データベースのデータ・ソースを構成する場合、「接続プール (Connection Pool)」タブの「プロパティー」セクション に、user=<DBUser> の形式でデータベース・ユーザー名を指定する必要もあります。詳しくは、WebLogic の資料を参照してください。

すべての JNDI 名を 14 ページの『IBM Unica Campaign データベース情報チェック リスト』に記録してください。

### JDBC 接続の情報

JDBC 接続を作成するとき、このセクションを参照すると、入力の必要ないくつか の値を決めるために役立ちます。データベースのデフォルト・ポート設定を使用し ない場合は、それを適切な値に変更してください。

ここに示す情報は、Web アプリケーション・サーバーで必要なすべての情報を正確 に反映してはいません。このセクションで明示的な指示が与えられていない場合に は、デフォルト値を受け入れることができます。より広範囲なヘルプが必要な場合 には、アプリケーション・サーバーの文書を参照してください。

#### WebLogic

アプリケーション・サーバーが WebLogic である場合に、以下の値を使用します。

#### SQLServer

- ドライバー: Microsoft MS SQL Server ドライバー (タイプ 4) バージョン: 2008、2008R2
- デフォルト・ポート: 1433

- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- ドライバー URL: jdbc:sqlserver://
   <your\_db\_host>:<your\_db\_port>;databaseName=<your\_db\_name>
- プロパティー: user=<your\_db\_user\_name> を追加

#### Oracle 11 および 11g

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your\_db\_host>:<your\_db\_port>:<your\_db\_service\_name>
- プロパティー: user=<your\_db\_user\_name> を追加

#### DB2

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 50000
- ・ ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ・ ドライバー URL: jdbc:db2://<your\_db\_host>:<your\_db\_port>/<your\_db\_name>
- プロパティー: user=<your\_db\_user\_name> を追加

### WebSphere

アプリケーション・サーバーが WebSphere である場合に、以下の値を使用します。

#### SQLServer

- ドライバー: 該当なし
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource
- ドライバー URL: 該当なし

「データベース・タイプ」フィールドで、「ユーザー定義」を選択します。

JDBC プロバイダーおよびデータ・ソースを作成した後に、データ・ソースのカス タム・プロパティーに移動して、プロパティーを次のように追加および変更しま す。

- serverName=<your\_SQL\_server\_name>
- portNumber =<SQL\_Server\_Port\_Number>
- databaseName=<your\_database\_name>
- enable2Phase = false

#### Oracle 11 および 11g

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver

 ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your\_db\_host>:<your\_db\_port>:<your\_db\_service\_name>

#### DB2

- ドライバー: DB2 Universal JDBC ドライバー・プロバイダー
- デフォルト・ポート: 50000
- ・ ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ・ ドライバー URL: jdbc:db2://<your\_db\_host>:<your\_db\_port>/<your\_db\_name>

## IBM Unica Campaign データベース情報チェックリスト

Campaign システム・テーブルを保管するデータベースに関する情報を記録してください。

フィールド	メモ
データベース・タイプ	
データベース名	
データベース・アカウントのユーザー名	
データベース・アカウントのパスワード	
JNDI 名	
ODBC 名	

UNIX にインストールする場合のみ、以下の追加情報を入手してください。この情報は、インストールおよび構成プロセス中に、setenv.sh ファイルを編集する際に使用します。

データベース情報	メモ
データベース・タイプが以下のいずれかである場合は、デ	
ータベースのインストール・ディレクトリーをメモしてく	
ださい。	
• DB2	
• Oracle	
データベース・タイプが以下のいずれかである場合は、	
ODBC.ini ファイルの位置をメモしてください。	
• Netezza	
• Teradata	
Campaign が Solaris、Linux、または AIX <sup>®</sup> オペレーティ	
ング・システムにインストールされている場合は、データ	
ベース・タイプにかかわらず、データベースがインストー	
ルされている環境の lib ディレクトリーの位置をメモし	
てください。	

## 第 3 章 Campaign のインストール

IBM Unica Campaign をインストールするには、オペレーティング・システムに応じた正しいインストーラー・ファイルのセットを取得し、製品をインストールする予定のシステムがアクセスできる正しい場所にこれらのファイルを配置し、すべての前提条件が満たされていることを確認してから作業を続ける必要があります。

Campaign のインストールを続ける前に、インストール・ファイルまたは IBM Unica Marketing Platform のインストール済みインスタンスが用意されている必要が あることに留意してください。そのための作業をまだ行っていない場合、「*IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド*」で詳細を確認してください。

## ステップ: IBM Unica インストーラーを入手する

DVD を入手するか、または IBM からソフトウェアをダウンロードします。

インストール・ファイルのダウンロード場所については、必要に応じて、購入時に 提供された資料を参照するか、IBM Unica の営業担当者にお問い合わせください。

**重要:**以下のインストール・ファイルのすべてを同じディレクトリーに配置しま す。これは、インストール要件です。

- IBM Unica インストーラー。
- Campaign インストーラー。

IBM Unica レポート作成機能を使用する予定がある場合、そのインストール方法に ついて「Marketing Platform インストール・ガイド」を参照してください。

注: E メール・マーケティングに IBM Unica eMessage と Campaign を共に使用す る予定でいる場合は、標準の eMessage パフォーマンス・レポートを表示するため に、IBM Unica レポート作成機能をインストールする必要があります。eMessage レ ポートは、Campaign のレポート・パッケージに含まれています。

### UNIX タイプのシステムでの権限の設定

UNIX タイプのオペレーティング・システムでは、インストール・ファイルに完全 な実行権限 (rwxr-xr-x) があることを確認してください。

### 正しいインストーラー・ファイルの選択

インストール・ファイルの名前は、製品のバージョンと、使用が想定されているオ ペレーティング・システムとに基づいて設定されます。ただし、コンソール・モー ドで実行される UNIX ファイルは、オペレーティング・システム固有ではないた め、このファイルは例外です。 UNIX では、インストール・モードが X Window またはコンソールのどちらであるかに応じて異なるファイルが使用されます。

ここに、インストール環境に基づいて選択できるインストーラーの例をいくつか示 します。 Windows - GUI およびコンソール・モード - *Product\_N.N.N.N\_*win64.exe は、バージョンが N.N.N.N で、Windows 64 ビットのオペレーティング・システムにインストールするためのものです。

**UNIX** - X-windows  $\mathcal{T}$  - *Product\_N.N.N.* solaris64.bin は、バージョンが N.N.N.N で、Solaris 64 ビットのオペレーティング・システムにインストールするた めのものです。

**UNIX** - コンソール・モード - *Product\_N.N.N.*sh は、バージョンが N.N.N.N で、すべての UNIX オペレーティング・システムにインストールするためのものです。

## Campaign での eMessage のインストールについて

IBM Unica Campaign をインストールすると、IBM Unica eMessage をサポートする ために必要なファイルが、インストーラーによって以下のように自動的に含められ ます。

- eMessage が Campaign ディレクトリー構造内にサブディレクトリーとして作成されます。
- eMessage 構成プロパティーが IBM Unica Marketing Platform でリストされます が、それらの構成プロパティーはアクティブではありません。
- eMessage 固有のデータベース表が Campaign スキーマに作成されますが、それらの表に入っているのは初期データのみです。
- メニューなど eMessage に固有の機能は、eMessage を使用可能にして構成するま で表示されません。

インストールされる eMessage コンポーネントについては、『eMessage コンポーネ ントがインストールされる場所』を参照してください。

パーソナライズされたマーケティング E メールを送信するためには、その前に、ホ ストされた E メール・アカウントをIBM に要求する必要があります。

E メール・アカウントを要求すると、IBM はコンサルテーション・プロセスを開始 します。このプロセスは、お客様に eMessage に慣れ親しんでいただくこと、ホス トされた E メール・リソースにお客様を接続すること、および主要インターネッ ト・サービス・プロバイダー (ISP) の間で正当な E メール・マーケティング担当者 としての評判を確立することを目的としています。顧客や見込み顧客へのマーケテ ィング・メッセージの配信が成功するためには、好ましい評判を確立することが非 常に重要です。

eMessage を使用可能にして構成する方法、およびホストされた E メール・アカウ ントを準備する方法について詳しくは、「*IBM Unica eMessage 起動および管理者ガ* イド」を参照してください。

## eMessage コンポーネントがインストールされる場所

eMessage には、受信者リスト・アップローダー (RLU) と、レスポンスおよびコン タクトのトラッカー (RCT) と呼ばれる特殊なコンポーネントが必要です。 受信者リスト・アップローダー (RLU) は、Campaign と連動して、E メール受信者 のリストに関連付けられたアドレス、パーソナライズ・データ、およびメタデータ を IBM Unica Hosted Services にアップロードする、eMessage プラグイン・コンポ ーネントです。

eMessage レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) は、IBM Unica Hosted Services からリンク・トラッキングおよび E メール配信通知データを取得し、 Campaign スキーマ内にある eMessage システム・テーブルに保管します。

これらのコンポーネントは、IBM Unica eMessageを使用可能にして構成した場合にのみ、作動します。 eMessage を使用可能にして RLU および RCT と連動する方法について詳しくは、「*IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド*」を参照してください。

### デフォルトでのコンポーネントのインストール場所

IBM Unica インストーラーは、Campaign J2EE アプリケーションがインストールさ れたマシン上に RLU を置きます。 RLU の場所は、構成プロパティー Campaign > partitions > partition1 > eMessage > eMessagePluginJarFile に記録されます。

インストーラーは、Campaign サーバーがインストールされたマシン上に RCT を置 きます。

J2EE コンポーネントとサーバー・コンポーネントが別々のマシンにある場合は、各 マシンでインストーラーを実行して、J2EE アプリケーションに対しては RLU を、 Campaign サーバーに対しては RCT をそれぞれインストールしてください。

### 複数のパーティションでの eMessage コンポーネント

eMessage インストール済み環境全体で、1 つの RLU のみが使用されます。インス トーラーは、partition1 (デフォルトのパーティションの eMessagePluginJarFile 構 成プロパティーのみを取り込みます。eMessage インストール済み環境で複数のパー ティションを使用している場合は、他のすべてのパーティションの RLU の場所を 手動で構成する必要があります。eMessagePluginJarFile プロパティーに指定する 場所は、すべてのパーティションで同じです。詳しくは、69 ページの『ステップ: パーティションの RLU の場所を指定する』を参照してください。

RCT は eMessage インストール済み環境全体で 1 つしかありませんが、eMessage はその場所を構成プロパティーに指定する必要はありません。RCT で受信されるレスポンスが、適切なレスポンス属性に対して該当するローカル・パーティションを 自動的に指定します。

## IBM Unica Marketing インストーラーの機能

IBM Unica Marketing インストーラーの基本機能を十分に理解していない場合は、 このセクションをお読みください。

## インストーラー・ファイルの単一ディレクトリー要件

IBM Unica エンタープライズ製品をインストールするとき、複数のインストーラー を組み合わせて使用します。

• マスター・インストーラー (ファイル名に Unica\_Installer が含まれる)

• 製品固有のインストーラー (すべてにファイル名の一部として製品名が含まれる)

IBM Unica Marketing 製品をインストールするには、マスター・インストーラーと 製品インストーラーとを同じディレクトリーに配置する必要があります。マスタ ー・インストーラーを実行すると、ディレクトリー内の製品インストール・ファイ ルが検出されます。その後、インストールする製品を選択できます。

ディレクトリー内にマスター・インストーラーと共に複数のバージョンの製品イン ストーラーがある場合、マスター・インストーラーは常に製品の最新バージョン を、インストール・ウィザードの IBM Unica 製品画面に表示します。

### パッチのインストール

IBM Unica 製品の新規インストールを実行した直後に、パッチのインストールも計 画している場合があります。その場合、基本バージョンおよびマスター・インスト ーラーのあるディレクトリーにパッチ・インストーラーを置きます。インストーラ ーを実行するときに、基本バージョンとパッチの両方を選択できます。すると、イ ンストーラーはそれら両方を正しい順序でインストールします。

## 製品インストール・ディレクトリーの選択

ネットワークでアクセス可能なシステム上の任意のディレクトリーにインストール できます。インストール・ディレクトリーは、パスを入力するか、参照して選択す るかのどちらかの方法で指定できます。

パスの前にピリオドを 1 つ入力することにより、インストーラーを実行するディレ クトリーとの相対位置でパスを指定できます。

指定したディレクトリーが存在しない場合、インストーラーはインストールを実行 しているユーザーに適切な権限があることを想定して、そのディレクトリーを作成 します。

IBM Unica インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは、IBM/Unica という名前になります。その後、製品インストーラーは Unica ディレクトリーの下のサ ブディレクトリーにインストールを行います。

## インストール・タイプ

IBM Unica Marketing インストーラーによって、以下のタイプのインストールが実行されます。

- 新規インストール:インストーラーを実行して、IBM Unica Marketing 製品がこれまでにインストールされたことがないディレクトリーを選択する場合、インストーラーは自動的に新規インストールを実行します。
- アップグレード・インストール: インストーラーを実行し、旧 バージョンの IBM Unica Marketing 製品がインストールされているディレクトリーを選択すると、イ ンストーラーは自動的にアップグレード・インストールを実行します。インスト ーラーによってデータベースが自動的に更新される製品の場合、アップグレー ド・インストールで新規テーブルが追加されますが、既存のテーブル内のデータ は上書きされません。

インストーラーによってデータベースが自動的に更新される製品の場合、データ ベースにテーブルが存在するとインストーラーはテーブルを作成しないので、ア ップグレード中にエラーが発生する可能性があります。こうしたエラーは無視し ても構いません。詳しくは、アップグレードに関する章を参照してください。

 
 ・ 再インストール: インストーラーの実行時に、同じ バージョンの IBM Unica Marketing 製品がインストールされているディレクトリーを選択した場合、インス トーラーは既存のインストールを上書きします。既存の任意のデータを保持する には、再インストールする前に、インストール・ディレクトリーとシステム・テ ーブル・データベースをバックアップしておきます。

通常、再インストールは推奨されません。

## インストール・モード

IBM Unica Marketing インストーラーは、以下のモードで実行できます。

コンソール (コマンド・ライン) モード

コンソール・モードでは、オプションは番号付きリストで表示されます。希望す るオプションを選択するには、その番号を指定します。番号を入力しないで Enter を押すと、インストーラーはデフォルト・オプションを使用します。デフォル ト・オプションは、以下のいずれかの記号によって表されます。

--> この記号が表示されている場合にオプションを選択するには、対象のオプションの番号を入力してから Enter を押します。

[X] この記号は、リストにあるオプションを 1 つでも、複数でも、全部でも選択 できることを示しています。隣に [X] 記号が表示されているオプションの番号を 入力して Enter を押すと、そのオプションがクリア、つまり選択解除されます。 現在選択されていない (隣の記号が []の)オプションの番号を入力して Enter を押すと、そのオプションが選択されます。

複数のオプションを選択解除または選択するには、番号をコンマ区切りリストの 形式で入力します。

- Windows GUI モードまたは UNIX X Window モード
- ・ ユーザーとの対話が不要な、無人つまりサイレント・モード

無人モードは、IBM Unica Marketing製品を複数回インストールする際に使用でき ます。詳しくは、『無人モードを使用して複数回インストールする』を参照して ください。

### 無人モードを使用して複数回インストールする

IBM Unica Marketing 製品を複数回インストールする必要がある場合は、ユーザー 入力が不要な無人モードで IBM Unica インストーラーを実行できます。

### 応答ファイルについて

不在モード (サイレント・モードとも呼ばれる) では、コンソール・モードまたは GUI モードの使用時にインストール・プロンプトでユーザーが入力するような情報 を提供するための 1 つのファイル、または一連のファイルが必要になります。これ らのファイルは応答ファイルと呼ばれます。 以下のいずれかのオプションを使用して、応答ファイルを作成できます。

- サンプル応答ファイルをテンプレートとして使用して、応答を直接作成することができます。サンプル・ファイルは圧縮アーカイブ ResponseFiles の製品インストーラーにあります。応答ファイルの名前は以下のとおりです。
  - IBM Unica インストーラー installer.properties
  - 製品インストーラー installer\_の後に、製品名のイニシャル。例えば、
     Campaign インストーラーの応答ファイルの名前は installer\_uc.properties
     です。
  - 製品レポート・パッケージのインストーラー installer\_の後に、製品名の イニシャルと rp。例えば、Campaign レポート・パッケージ・インストーラー の応答ファイルの名前は installer\_urpc.properties です。

必要に応じてサンプル・ファイルを編集し、インストーラーと同じディレクトリ ーに置いてください。

 無人実行をセットアップする前に、Windows GUI や UNIX X-windows モード またはコンソール・モードでインストーラーを実行して、応答ファイルの作成を 選択できます。

IBM Unica マスター・インストーラーが 1 つのファイルを作成するとともに、 インストールする各 IBM Unica 製品も 1 つ以上のファイルを作成します。

応答ファイルは .properties という拡張子を持ちます。例えば、 installer\_product.properties や、installer.properties (IBM Unica インスト ーラー自体に対するファイル)のようになります。インストーラーは、指定され たディレクトリーにこれらのファイルを作成します。

重要: セキュリティー上の理由により、インストーラーはデータベース・パスワ ードを応答ファイルに記録しません。不在モードで応答ファイルを作成する際 は、データベース・パスワードを入力するために各々の応答ファイルを編集する 必要があります。各々の応答ファイルを開き、これらの編集を行う部分を見つけ るために PASSWORD を探してください。

#### インストーラーが応答ファイルを検索する場所

インストーラーは、不在モードで実行されると、以下のように応答ファイルを探し ます。

- 最初に、インストーラーはインストール・ディレクトリーを検索します。
- 次に、インストーラーは、インストールを実行しているユーザーのホーム・ディレクトリー内を探します。

すべての応答ファイルは同じディレクトリーにある必要があります。応答ファイル の読み取りが行われる場所のパスは、コマンド・ラインに引数を追加することで変 更できます。以下に例を示します。

-DUNICA\_REPLAY\_READ\_DIR="myDirPath" -f myDirPath/installer.properties

### アンインストールする際の無人モードによる影響

不在モードを使用してインストールされた製品をアンインストールする際は、不在 モードで (ユーザーとの対話用のダイアログは表示されない) アンインストールが実 行されます。

### 無人モードとアップグレード

アップグレードの際、以前に応答ファイルを作成しており、不在モードで実行する 場合は、インストーラーは以前に設定されたインストール・ディレクトリーを使用 します。応答ファイルがないときに不在モードを使用してアップグレードする場合 は、初回のインストール時にインストーラーを手動で実行して応答ファイルを作成 し、インストール・ウィザードで現行のインストール・ディレクトリーを必ず選択 してください。

## IBM Unica Campaign コンポーネントの選択

Campaign サーバーと Web アプリケーションは、同じマシンにインストールすることも、それぞれ異なるマシンにインストールすることもできます。

以下の表は、Campaign のインストール時に選択可能なコンポーネントを示しています。

コンポーネント	説明
Campaign サーバ ー	Campaign フローチャートの設計および実行をサポートする Campaign 起動スクリプトおよびコンポーネント。プライマリー・コンポーネント は、常に実行されていなければならないリスナー (unica_aclsnr.exe) とサーバー (unica_acsvr.exe) です。リスナーは、ログインごとおよび アクティブ・フローチャートごとに、別個の unica_acsvr.exe プロセ スを spawn します。例えば、あるユーザーがログインしてフローチャ ートを開くと、リスナーは unica_acsvr.exe のインスタンスを 2 つ spawn します。
J2EE アプリケー ション	Campaign ユーザー・インターフェースを提供する Web アプリケーション。
開発者ツールキッ ト	カスタム検証を実装するために使用する検証クラス。
Campaign システ ム・テーブル DDL ファイル	Campaign システム・テーブルを作成してデータを追加する SQL スク リプト。
アップグレード・ ツール	アップグレードを完了するためのツール。

## IBM Unica Campaign Report Package のコンポーネントの選択

Campaign のレポート・パッケージには、次に示す 2 つのインストール・コンポー ネントが含まれています。

- レポート・スキーマ (Marketing Platform システムにインストールされる)。
- IBM Cognos パッケージ (IBM Cognos システムにインストールされる)。

以下の表は、Campaign のレポート・パッケージをインストールする際に選択できる コンポーネントを説明しています。

ß
)

## すべての IBM Unica Marketing 製品のインストールに必要な情報

このセクションに説明されているように、必要な情報を収集します。

#### Marketing Platform 情報

各 IBM Unica Marketing 製品のインストール・ウィザードは、製品を登録するため に、Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信可能でなければな りません。

インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データ ベースのための以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ。
- データベース・ホスト名。
- データベース・ポート。
- データベース名またはスキーマ ID。
- データベース・アカウントのユーザー名およびパスワード。

この情報は、データベースまたはスキーマを作成したときに取得したものです。

#### Web コンポーネント情報

Web アプリケーション・サーバーに配置した Web コンポーネントを持つすべての IBM Unica Marketing 製品で、以下の情報を取得する必要があります。

- Web アプリケーション・サーバーがインストールされるシステムの名前。セット アップする IBM Unica Marketing 環境に応じて、1 つまたは複数の名前となりま す。
- アプリケーション・サーバーが listen するポート。 SSL を実装する予定の場合、SSL ポートを取得します。
- 配置システムのネットワーク・ドメイン。例えば、mycompany.com。

## ステップ: IBM Unica インストーラーを実行する

IBM Unica インストーラーを実行する前に、以下の前提条件を満たしていることを 確認してください。

- IBM Unica インストーラーと、インストール予定の製品のインストーラーをダウンロードした。 IBM Unica および製品のインストーラーは、どちらも同じディレクトリーになければなりません。
- 22ページの『すべての IBM Unica Marketing 製品のインストールに必要な情報』に説明されているように、収集した情報が使用可能になっている。

他の IBM Unica 製品がインストールされているシステムでインストーラーを再実行 する場合、それらの製品を再インストールしないでください。

インストーラーについての詳細、またはウィザードでの入力に関してヘルプ情報が 必要な場合には、このセクションの他のトピックを参照してください。

ここで説明されている方法で IBM Unica インストーラーを実行し、ウィザードの指示に従います。

・ GUI または X Window System モード

Unica\_Installer ファイルを実行します。 UNIX で、.bin ファイルを使用します。

• コンソール・モード

コマンド・プロンプトを開き、IBM Unica ソフトウェアをダウンロードしたディ レクトリーから、以下のようにして Unica\_Installer 実行可能ファイルを実行し ます。

Windows では、Unica\_installer 実行可能ファイルに -i console を指定して実行します。例: Unica\_Installer\_N.N.N.N\_OS -i console

UNIX では、Unica\_installer.sh ファイルをスイッチなしで実行します。

注: Solaris では、Bash シェルからインストーラーを実行する必要があります。

• 無人モード

コマンド・プロンプトを開き、IBM ソフトウェアをダウンロードしたディレクト リーから、Unica\_Installer 実行可能ファイルに -i silent を指定して実行しま す。 UNIX の場合は、.bin ファイルを使用します。例えば、インストーラーと同 じディレクトリーに置かれた応答ファイルを指定するには、次のようにします。

Unica\_Installer\_N.N.N.N\_OS -i silent

別のディレクトリーにある応答ファイルを指定するには、 -f filepath/filename を使用します。絶対パスを使用してください。以下に例を示します。

Unica\_Installer\_N.N.N.OS -i silent -f filepath/filename

不在モードについて詳しくは、19ページの『無人モードを使用して複数回インス トールする』を参照してください。

## インストール・ウィザード内の移動

インストーラーが GUI モードで実行されているときは、「進む」、「戻る」、「キャンセル」、および「完了」ボタンを使用して移動します。

インストーラーがコンソール・モードで実行されているときは、ウィザードの各画 面のヘルプ・テキストで説明されているように、GUI モードでのボタンに対応する 番号を入力して移動します。コンソール・モードでは、追加の再表示コマンドも使 用可能です。

コンソール・モードでは、プロンプト行の末尾に 1 つの数字または文字が大括弧で 囲まれて表示されます。これは、何も入力しないで Enter キーを押した場合に出さ れるデフォルトのコマンドです。 back と入力して直前の画面に戻ることや、quit と入力してインストールをキャンセルすることもできます。

### IBM サイト ID

インストーラーは、IBM サイト ID の入力を求めるプロンプトを出すことがありま す。お客様の IBM サイト ID は、IBM ウェルカム・レター、技術サポート・ウェ ルカム・レター、ライセンス証書レター、またはソフトウェアの購入時に送られる その他の通知に記載されています。

IBM は、お客様の製品使用状況をさらに把握してカスタマー・サポートの改善を図 るために、ソフトウェアによって提供されるデータを使用することがあります。収 集されるデータには、個人を特定する情報は含まれていません。

こうした情報が収集されることを望まない場合には、Marketing Platform のインスト ール後に、管理権限を持つユーザーとして Marketing Platform にログオンします。 「設定」>「構成」ページにナビゲートし、「プラットフォーム」カテゴリー下の 「ページのタグ付けを無効にする」プロパティーを「True」に設定します。

## データベース環境変数

インストール時に、インストーラーは、使用するデータベースのタイプについての プロンプトを出すことがあります。これは、使用するデータベースのインストール に固有の環境変数の一部を、Web アプリケーションの setenv ファイルにインスト ーラーが自動的に設定できるようにするためです。サポートされているデータベー スの場合、インストーラーは自動的に値を構成できるため、インストールの完了後 にそれらを手動で設定することが不要になります。

「データベース・タイプ」画面が表示されたら、使用するデータベースのタイプを 選択します。

UNIX インストール済み環境の場合にのみ、以下に示されているように情報を入力 します。インストーラー画面にリストされないデータベース・タイプについては、 インストールの完了後に、31ページの『ステップ: Campaign 始動スクリプトにお けるデータ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)』に説明されているように setenv ファ イルを手動で構成することができます。

## データベース環境変数

データベース	入力する値
IBM DB2	• DB2 インストール・ディレクトリー
	例えば、/usr/lpp/db2_06_01 または C:¥Program Files¥IBM¥SQLLIB とします。これは、DB2DIR 環境変数として別の場所に設定すること がある値です。
	・ DB2 インスタンス・パス
	例えば、/home/db2inst1 または C:¥db2inst1 とします。
Microsoft SQL	追加の設定は不要です。
Server	
Oracle	• Oracle インストール・ディレクトリー
	例えば、/opt/oracle または C:¥oracle とします。これは、 ORACLE_BASE 環境変数として別の場所に設定することがある値です。
	• Oracle のホーム・ディレクトリー
	例えば、/home/oracle/product/11.1.0/db_1 または C:¥oracle¥ora11.1 とします。これは、ORACLE_HOME 環境変数と して別の場所に設定することがある値です。

## Campaign Report Package の「スキーマ・タイプ選択」ウィン ドウ

このウィンドウは、Campaign のスキーマ・テンプレートをインストールするときに 表示されます。Campaign には、カスタム属性が事前にパッケージ化されているため です。

オプション	説明
カスタム	カスタム属性が含まれるレポート・スキーマをインストールするには、 「カスタム」を選択します。Campaign のサンプル・レポートは、カス タム属性を使用するように構成されています。したがって、サンプル・ レポートを正しく機能させるためには、このオプションを選択する必要 があります。
ベース	カスタム属性が含まれないレポート・スキーマをインストールするに は、「ベース」を選択します。このオプションは、事前パッケージ化さ れたカスタム属性またはサンプル・レポートを一切使用しないことが分 かっている場合にのみ選択します。

## インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する方法

IBM Unica Marketing 製品をインストールした後に EAR ファイルを作成する場合 は、この手順を使用します。こけは、EAR ファイルで別の製品の組み合わせを指定 することに決めた場合などに行うことができます。

複数の WAR ファイルが、単一のディレクトリーにある必要があります。インスト ーラーは、コマンド・ラインからコンソール・モードで実行します。  コンソール・モードでインストーラーを初めて実行するときには、インストール する製品ごとに、インストーラーの .properties ファイルのバックアップ・コ ピーを作成します。

それぞれの IBM Unica 製品インストーラーによって、.properties という拡張 子を持つ 1 つ以上の応答ファイルが作成されます。これらのファイルは、イン ストーラーと同じディレクトリーにあります。 .properties 拡張子を持つすべ てのファイル (installer\_*product*.properties ファイルと、

installer.properties という名前の IBM Unica インストーラー自体に対するファイルを含む)を必ずバックアップしてください。

インストーラーを無人モードで実行する予定の場合、オリジナルの .properties ファイルは、インストーラーが無人モードで実行されるときに消去されるのでバ ックアップを作成しておく必要があります。EAR ファイルを作成するには、イ ンストーラーが初期インストールの際に .properties ファイルに書き込むため の情報が必要です。

- 2. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーをインストーラーが含まれるディ レクトリーに変更します。
- 3. インストーラーの実行可能ファイルに次のオプションを指定して実行します。

-DUNICA\_GOTO\_CREATEEARFILE=TRUE

UNIX タイプのシステムでは、.sh ファイルではなく .bin ファイルを実行します。

インストーラー・ウィザードが実行されます。

- 4. ウィザードの指示に従ってください。
- 5. 追加の EAR ファイルを作成する前に、.properties ファイル (複数の場合もある) を、初めてコンソール・モードで実行する前に作成したバックアップ・ファ イルで上書きします。

## 第4章 配置前の Campaign の構成

このセクションでは、この Web アプリケーションを配置する前に行う構成タスク について説明します。

## ステップ: 手動で Campaign システム・テーブルを作成してデータを追加 する (必要な場合)

デフォルトでは、Campaign インストーラーが自動的に、操作に必要なシステム・テ ーブルを自動的に作成してデータを追加します。ただし、データベース・ポリシー によってインストーラーがこのステップを自動的に実行できない場合、あるいは何 らかの理由でインストール時にこのステップを手動で行うことを選択した場合に は、ここで説明する手順を完了してからでないと、Campaign を使用できません。

注: eMessage を使用可能にすることを計画している場合は、eMessage システム・テ ーブルを手動で作成してデータを追加することも必要です (インストーラーによっ て自動的に行われなかった場合)。詳しくは、28ページの『手動での eMessage シス テム・テーブルの作成とデータの追加 (必要な場合)』を参照してください。

インストール時に「Campaign コンポーネント (Campaign Components)」ページで 「Campaign システム表 DDL ファイル」オプションを選択した場合、IBM インス トーラーは、Campaign システム・テーブルを作成してデータを追加するために使用 できる一連の SQL スクリプトをインストールします。これらの SQL スクリプト は、Campaign サーバーのインストール済み環境の下の ddl ディレクトリーにイン ストールされます。システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されてい る場合は、Campaign インストール済み環境の下の ddl/unicode ディレクトリー に、該当するスクリプトがあります。

SQL スクリプトを使用するには、データベース・クライアントを実行して、 Campaign システム・テーブルを格納するデータベースまたはスキーマにスクリプト を適用します。 SQL スクリプトの実行方法については、ご使用のデータベース・ ソフトウェアの資料を参照してください。

以下の表に、手動で Campaign システム・テーブルを作成してデータを追加するために提供されている SQL スクリプトをリストします。

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ac_systab_db2.sql
Microsoft SQL	ac_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ac_systab_ora.sql

表 1. Campaign システム・テーブルを作成するスクリプト

表2. Campaign システム・テーブルにデータを追加するスクリプト

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ac_populate_tables_ db2.sql
Microsoft SQL	ac_populate_tables_ sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ac_populate_tables_ ora.sql

## 手動での eMessage システム・テーブルの作成とデータの追加 (必要な場合)

eMessage を使用するためには、Campaign スキーマに追加のシステム・テーブルを 作成し、これらのテーブルに初期データを設定する必要があります。これらのテー ブルを使用するのは、eMessage のみです。

システム・テーブルを自動的に作成するオプションを選択すると、Campaign インス トーラーは、Campaign スキーマで eMessage システム・テーブルを自動的に作成 し、データを追加します。ただし、このオプションを選択しない場合は、eMessage システム・テーブルを手動で作成してデータを追加する必要があります。

データベース・クライアントを使用して、Campaign データベースに対して適切なス クリプトを実行します。ご使用のインストール済み環境に適切なスクリプトを判別 するには、以下の表を参照してください。実行する必要のあるスクリプトは、 Campaign スキーマをホストするデータベースのタイプ、および Campaign テーブル が Unicode 用に構成されているかどうかによって異なります。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

### eMessage テーブルを作成するスクリプト

IBM では、ローカル環境に eMessage テーブルを作成する ace\_op\_systab スクリ プトを提供しています。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されている場合 は、eMessage インストール済み環境の ddl/unicode ディレクトリーにある適切な スクリプトを見つけます。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されていない場合 は、eMessage インストール済み環境の dd1 ディレクトリーにある非 Unicode 用の スクリプトを使用します。

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ace_op_systab_db2.sql
	システム・テーブルが置かれるユーザー・テーブル・スペースおよびシ ステム一時テーブル・スペースには、それぞれ 16K 以上のページ・サ イズが必要です。

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
Microsoft SQL	ace_op_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ace_op_systab_ora.sql

### eMessage テーブルにデータを追加するスクリプト

IBM では、ローカル環境で eMessage テーブルにデータを追加する ace op populate systab スクリプトを提供しています。

#### スクリプトの場所

eMessage インストール済み環境の ddl ディレクトリーにあるデータ追加用のスク リプトを見つけます。IBM で用意しているデータ追加用スクリプトのバージョンは 1 つだけです。これらのスクリプトは、Unicode テーブルまたは非 Unicode テーブ ルのいずれにも使用できます。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ace_op_populate_systab_db2.sql
Microsoft SQL	ace_op_populate_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ace_op_populate_systab_ora.sql

## ステップ: Campaign を手動で登録する (必要な場合)

インストール処理の際に Campaign インストーラーが Marketing Platform システ ム・テーブルに接続できなかった場合、その失敗を通知するエラー・メッセージが 表示されます。インストール処理は続行しますが、その場合には、Campaign 情報を Marketing Platform システム・テーブルに手動でインポートする必要があります。

この手順で言及されるユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環 境の tools/bin ディレクトリーにあります。ユーティリティーの使用について詳し くは、以下を参照してください。

- 103 ページの『configTool ユーティリティー』
- 112 ページの『populateDb ユーティリティー』
- 以下のコマンド例をガイドラインとして、populateDb ユーティリティーを実行 します。これにより、セキュリティーの役割と権限がデフォルト・パーティショ ンにインポートされます。

populateDb.bat -n Campaign

 以下のコマンドをガイドラインとして、configTool ユーティリティーを実行し ます。これにより、構成プロパティーおよびメニュー項目がインポートされま す。ユーティリティーは、ファイルの数だけ実行します。

configTool -r Campaign -f
"full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥
campaign\_configuration.xml"

configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f
"full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥
campaign\_navigation.xml"

configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f
"full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥
campaign\_setup\_navigation.xml"

configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f
"full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥
campaign\_analysis\_navigation.xml"

configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f
"full\_path\_to\_Campaign\_installation\_directory¥conf¥campaign\_alerts.xml"

## 手動による eMessage の登録 (必要な場合)

デフォルトでは、Campaign インストーラーが自動的に eMessage を IBM Unica Marketing Platform に登録しますが、使用可能にはしません。場合によっては、 Campaign インストーラーが自動的に eMessage を登録する際に Marketing Platform システム・テーブルに接続しない場合があります。

インストーラーが eMessage を自動的に登録しない場合は、IBM Unica Marketing インストールに付属の configTool ユーティリティーを使用して、手動で eMessage を登録する必要があります。configTool は、Marketing Platform インストール済み 環境の tools¥bin ディレクトリーにあります。

手動で eMessage を登録するには、以下のように configTool ユーティリティーを 実行します。

configTool -r eMessage -f
"full\_path\_to\_eMessage\_installation\_directory¥conf¥emessage\_
configuration.xml"

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign インストール・ディレ クトリーのサブディレクトリーです。

eMessage の登録および構成について詳しくは、「IBM Unica eMessage 起動および 管理者ガイド」を参照してください。
## ステップ: Campaign 始動スクリプトにおけるデータ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)

Campaign のインストール中に、IBM Unica インストーラーはデータベース情報を 収集し、その情報を使用して、Campaign システム・テーブルの作成と使用に必要な データベースおよび環境変数を自動的に構成します。それらの設定は、Campaign サ ーバー・インストール済み環境下の bin ディレクトリー内にある setenv.sh ファ イルに格納されます。

システム・テーブルと同じタイプのデータベースを使用しないデータ・ソース (Campaign 顧客テーブルなど) に対するアクセスについては、『データベース環境変 数およびライブラリー環境変数 (UNIX)』に示されているデータベース環境変数とラ イブラリー環境変数を追加するために setenv.sh ファイルを手動で構成する必要が あります。

なお、Campaign サーバーが既に実行中のときにこのファイルを変更する場合は、同 サーバーを再始動した後でないと setenv ファイルの変更が認識されない点に注意し てください。詳しくは、41ページの『Campaign サーバーを始動する』を参照して ください。

setenv ファイルに追加する必要がある情報については、14ページの『IBM Unica Campaign データベース情報チェックリスト』を参照してください。

## データベース環境変数およびライブラリー環境変数 (UNIX)

以下の表に示すように、データベース (顧客テーブルと、インストール時に「手動 データベース・セットアップ」を選択した場合はシステム・テーブル) およびオペ レーティング・システムに必要なデータベース環境変数とライブラリー環境変数 を、setenv.sh ファイルにセットアップします。

#### データベース環境変数

データベース	構文および説明
DB2	DB2DIR=full_dir_path
	export DB2DIR
	DB2 インストール・ディレクトリー (例: /usr/lpp/db2_06_01)。
	. full_path_to_db2profile
	DB2 ユーザーにデータベース構成を提供 (例: /home/db2inst1/sqllib/ db2profile)。
	「.」(ピリオドの後にスペース) に注意。

データベース	構文および説明
Netezza	NZ_ODBC_INI_PATH=full_dir_path
	export NZ_ODBC_INI_PATH
	odbci.ini ファイルのディレクトリーの場所
	(例えば、/opt/odbc64v51)
	ODBCINI=full_path_and_file_name
	export ODBCINI
	odbc.ini ファイルへの絶対パス
Oracle	ORACLE_BASE=full_dir_path
	export ORACLE_BASE
	Oracle インストール・ディレクトリー
	ORACLE_HOME=full_dir_path
	export ORACLE_HOME
	Oracle のホーム・ディレクトリー (例えば、/home/oracle/OraHome1)
Teradata	ODBCINI=full_path_and_file_name
	export ODBCINI
	obdc.ini ファイルへの絶対パス

## ライブラリー環境変数

使用する UNIX オペレーティング・システムに応じて、以下のようにライブラリー 環境変数を定義します。

オペレーティン	
グ・システム	值
SunOS および	LD_LIBRARY_PATH
Linux	以下に例を示します。
	LD_LIBRARY_PATH= <campaign_home>/bin:<db lib="" ディレクトリーへのパ<br="">ス&gt;:\$LD_LIBRARY_PATH</db></campaign_home>
	export LD_LIBRARY_PATH <b>注:</b> LD_LIBRARY_PATH_64 (64 ビット・リンク用) が設定されている 場合、削除してください。 LD_LIBRARY_PATH_64 の設定時は、 LD_LIBRARY_PATH 変数が無視されます。
AIX	LIBPATH
	例: LIBPATH= <campaign_home>/bin:<db lib="" ディレクトリーへのパス<br="">&gt;:/usr/lib:\$ORACLE_HOME/lib32:\$ORACLE_HOME/lib</db></campaign_home>

オペレーティン	
グ・システム	值
HP-UX	SHLIB_PATH
	例: SHLIB_PATH= <campaign_home>/bin:<db lib="" ディレクトリーへのパス<br="">&gt;:/usr/lib:\$ORACLE_HOME/lib32:\$ORACLE_HOME/lib</db></campaign_home>

## Oracle データベースのライブラリー・ディレクトリー

Oracle のバージョンに応じて、1ib ディレクトリーの命名規則が異なります。比較 的古いバージョンの場合、32 ビットでは 1ib、64 ビットでは 1ib64 を使用しま す。比較的新しいバージョンの場合、32 ビットでは 1ib32、64 ビットでは 1ib を 使用します。

32 ビットの Campaign をインストールする場合、\$ORACLE\_HOME/1ib32 または \$ORACLE\_HOME/1ib のいずれか一方、つまり 32 ビットの Oracle ライブラリーが入 っているものを含めてください。

64 ビットの Campaign をインストールする場合、\$ORACLE\_HOME/lib または \$ORACLE\_HOME/lib64 のいずれか一方、つまり 64 ビットの Oracle ライブラリーが 入っているものを含めてください。

**注:** 32 ビットと 64 ビットの両方のライブラリーへのパスを含めないでください。 ご使用の Campaign のバージョンに合わせて使用するライブラリーへのパスのみを 含めてください。

## 第 5 章 Campaign Web アプリケーションの配置

Campaign を配置するには、このセクションのガイドラインに従ってから、Campaign サーバーを始動してください。

IBM インストーラーを実行したときに、Campaign を EAR ファイルに含めたか、 または Campaign WAR ファイルを配置するように選択した可能性があります。 Marketing Platform または他の製品を EAR ファイルに含めた場合、EAR ファイル に含めた製品の個々のインストール・ガイドに詳しく示されている、配置ガイドラ インのすべてに従う必要があります。

ここでは、Web アプリケーション・サーバーでの作業の方法は理解していると想定 します。管理コンソール内の移動などに関する詳細は、Web アプリケーション・サ ーバーの文書を参照してください。

# Web アプリケーションのセッション・タイムアウトを変更する (オプション)

セッション・タイムアウトによって、非アクティブの HTTP セッションが、期限切れになるまで開いた状態を維持できる期間が決まります。

Web アプリケーション・サーバーにセッション・タイムアウトを設定するには、次のようにします。

- WebSphere: IBM WebSphere Application Server 管理コンソールを使用して、セッション・タイムアウトを分単位で設定します。この設定は、サーバーおよびエンタープライズ・アプリケーション・レベルで調整できます。詳しくは、WebSphereの資料を参照してください。
- WebLogic: WebLogic コンソールを使用して、セッション・タイムアウトを秒単 位で設定するか、weblogic.xml ファイル内で session-descriptor 要素の TimeoutSecs パラメーター値を調整します。

#### WebSphere Application Server での IBM Unica Campaign のデプロイ

サポートされているバージョンの WebSphere Application Server で、WAR ファイ ルまたは EAR ファイルから IBM Unica Campaignをデプロイできます。

#### 始める前に

IBM Unica Campaignを単一の WAR ファイルからデプロイするか、あるいは EAR ファイルのモジュールとしてデプロイするかに応じて、該当する指示に従ってください。WebSphere Application Server についての追加情報が必要な場合は、以下のリンクを参照してください。

- WebSphere Application Server バージョン 8 の場合は、「WebSphere Application Server インフォメーション・センターへようこそ」を参照してください。
- WebSphere Application Server バージョン 7 の場合は、「WebSphere Application Server バージョン 7.0 インフォメーション・センター」を参照してください。

## WebSphere Application Server での WAR ファイルからの IBM Unica Campaign のデプロイ

WAR ファイル (EAR ファイルではない) から WebSphere Application Server へ IBM Unica Campaignアプリケーションをデプロイする場合は、次の手順に従います。

IBM Unica Campaignをデプロイする前に、以下のことを確認してください。

- 使用している WebSphere のバージョンが、必要なフィックスパックやアップグレードを含め、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料に記載された要件を満たしていること。
- データ・ソースおよびデータベース・プロバイダーが WebSphere で作成されていること。

9ページの『第2章 Campaign のデータ・ソースの準備』を参照してください。

WebSphere Application Server へ IBM Unica Campaignアプリケーション WAR ファ イルをデプロイするには、以下のステップを実行します。

1. システム・テーブルが DB2 にある場合は、データ・ソースのカスタム・プロパ ティーにアクセスします。 resultSetHoldability の値を 1 に設定します。

「resultSetHoldability」という名前のフィールドが表示されていない場合は、その名前のカスタム・プロパティーを追加し、その値を1に設定します。

2. 以下のガイドラインに従って、IBM Unica WAR ファイルをエンタープライズ・ アプリケーションとしてデプロイします。

特に明記されていない限り、デフォルト設定を受け入れることができます。

- WAR ファイルのブラウズと選択を行うフォームで「すべてのインストール・ オプションおよびパラメーターを表示する。」を選択して、「インストール・ オプションの選択」または「新規アプリケーションのインストール」ウィザー ドを実行します。
- インストール・ウィザードのステップ1で、「JavaServer Pages ファイルの プリコンパイル (Precompile JavaServer Pages files)」を選択します。
- インストール・ウィザードのステップ3で、「JDK ソース・レベル」を16
   に設定します。16 が選択できない場合は、15 を選択します。
- インストール・ウィザードのステップ8で、「コンテキスト・ルート」を /Campaign に設定します。
- サーバーの「Web コンテナー設定 (Web Container Settings)」>「セッション管理 (Session Management)」セクションで、cookie を有効にします。
- WebSphere Application Server バージョン 8 を使用している場合は、「サーバー」>「WebSphere Application Server」>「server 1」>「セッション管理」
   「Cookie」を選択し、「セッション Cookie を HTTPOnly に設定して、クロスサイト・スクリプティング・アタックを阻止します」のチェック・ボックスを非選択にします。

- WebSphere コンソールで、サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」>「Unica.war」>「セッション管理」>「Cookie を使用可能にする」>「Cookie 名」セクションを開き、固有のセッション Cookie 名を指定します。
- 6. 「セッション管理」の「**セッション管理のオーバーライド**」チェック・ボックス を選択します。
- サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」セクションで、配置した WAR ファイルを選択してから、「クラス・ロードおよび更新の検出」を選択し、「構成」タブで以下の「一般プロパティー」を設定します。
  - 「クラス・ローダー順序」には、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
  - 「WAR クラス・ローダーのポリシー (WAR class loader policy)」で、「ア プリケーション用の単一のクラス・ローダー (Single class loader for application)」を選択します。
- 8. 配置を開始します。

## WebSphere Application Server での EAR ファイルからの IBM Unica Campaign のデプロイ

Campaign が EAR ファイルを構成するモジュール (.war ファイル) である場合に、 IBM Unica Campaignアプリケーションを WebSphere Application Server にデプロイ するには、次の手順に従います。

これらの指示は、IBM Unica Marketing インストーラーの実行時に IBM Unica Campaignを EAR ファイルに組み込んだ場合に関係します。EAR ファイルのデプロ イに際しては、EAR ファイルに組み込まれる製品の各インストール・ガイドに詳述 された、配置ガイドラインのすべてに従う必要があります。

IBM Unica Campaignをデプロイする前に、以下のことを確認してください。

- 使用している WebSphere のバージョンが、必要なフィックスパックやアップグレードを含め、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料に記載された要件を満たしていること。
- データ・ソースおよびデータベース・プロバイダーが WebSphere で作成されていること。

9ページの『第2章 Campaign のデータ・ソースの準備』を参照してください。

EAR ファイルから WebSphere Application Server に IBM Unica Campaignをデプロ イするには、以下のステップを実行します。

1. システム・テーブルが DB2 にある場合は、データ・ソースのカスタム・プロパ ティーにアクセスします。 resultSetHoldability の値を 1 に設定します。

「resultSetHoldability」という名前のフィールドが表示されていない場合は、その名前のカスタム・プロパティーを追加し、その値を1に設定します。

2. 以下のガイドラインに従って、IBM Unica EAR ファイルをエンタープライズ・ アプリケーションとしてデプロイします。 特に明記されていない限り、デフォルト設定を受け入れることができます。

- EAR ファイルのブラウズと選択を行うフォームで「すべてのインストール・ オプションおよびパラメーターを表示する。」を選択して、「インストール・ オプションの選択」または「新規アプリケーションのインストール」ウィザー ドを開始します。
- インストール・ウィザードのステップ1で、「JavaServer Pages ファイルの プリコンパイル (Precompile JavaServer Pages files)」を選択します。
- インストール・ウィザードのステップ3で、「JDK ソース・レベル」を16 に設定します。16 が選択できない場合は、15を選択します。「JDK ソー ス・レベル」は、Web モジュール (.war ファイル) ごとに設定する必要があります。
- インストール・ウィザードのステップ 10 で、「コンテキスト・ルート」の値が「/Campaign」に設定されていることを確認します。「コンテキスト・ルート」は、ウィザードによって正しい値に設定されます。例えば、unica.warの場合は /unica が設定され、Campaign.warの場合は /Campaign が設定されます。
- サーバーの「Web コンテナー設定 (Web Container Settings)」>「セッション管理 (Session Management)」セクションで、cookie を有効にします。
- WebSphere Application Server バージョン 8 を使用している場合は、「サーバー」>「WebSphere Application Server」>「server 1」>「セッション管理」 >「Cookie」を選択し、「セッション Cookie を HTTPOnly に設定して、クロスサイト・スクリプティング・アタックを阻止します」のチェック・ボックスを非選択にします。
- WebSphere コンソールで、サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」>「UnicaApp」>「モジュールの管理」> [deployed\_module] >「セッション管理」>「Cookie を使用可能にする」 >「Cookie 名」セクションを開き、固有のセッション Cookie 名を指定します。
- 6. 「セッション管理」の「**セッション管理のオーバーライド**」チェック・ボックス を選択します。
- サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」セクションで、デプロイした EAR ファイルを選択し、「クラス・ロードおよび更新の検出」を選択します。「構成」タブで以下の「一般プロパティー」を設定してください。
  - クラス・ローダー順序:「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
  - WAR クラス・ローダー・ポリシー:「アプリケーションの単一クラス・ロー ダー」を選択します。
- 8. デプロイした EAR ファイル内の Campaign.war モジュールについて、以下の設 定を指定してください。
  - a. 「エンタープライズ・アプリケーション」に移動して、EAR ファイル (「UnicaApp」)を選択します。
  - b. 「モジュールの管理」ページで、Campaign.war ファイルを選択します。
  - c. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」 >「WAR」ページで、次のようにします。
    - ・「開始ウェイト」を 10000 に設定します。

- 「クラス・ローダー順序」を「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」に設定します。
- d. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」
   >「WAR」>「セッション管理」ページで、「Cookie を使用可能にする」を 選択します。
- e. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」 >「WAR」>「セッション管理」>「Cookie」ページで、次のようにします。
  - 「Cookie 名」を CMPJSESSIONID に設定します。
  - 「Cookie 最大存続期間」には、「現行のブラウザー・セッション」を選択 します。
- f. 「エンタープライズ・アプリケーション」>「EAR」>「モジュールの管理」 >「WAR」>「セッション管理」ページで、次のようにします。
  - 「オーバーフローの許可」を選択します。
  - ・「メモリー内の最大セッション・カウント」に 1000 と入力します。
  - 「セッション・タイムアウト」で「タイムアウトの設定」を選択し、30 と 入力します。
- g. EAR ファイルからデプロイする予定の他の各 .war ファイルについても、同じ設定を定義します。
- 9. 配置を開始します。

#### WebLogic への IBM Unica Campaign の配置

IBM Unica Marketing 製品を WebLogic に配置する際は、このセクションのガイド ラインに従ってください。

#### WebLogic のすべてのバージョン、すべての IBM Unica Marketing 製品

- IBM Unica Marketing 製品により、WebLogic で使用される JVM がカスタマイズ されます。 JVM 関連のエラーが発生した場合に、IBM Unica Marketing 製品専 用の WebLogic インスタンスを作成しなければならないことがあります。
- 始動スクリプト (startWebLogic.cmd) で JAVA\_VENDOR 変数を調べて、使用する WebLogic ドメイン用に選択された SDK が Sun SDK であることを確認します。 JAVA\_VENDOR=Sun に設定されている必要があります。 JAVA\_VENDOR=BEA に設定されている場合、JRockit が選択されています。 JRockit はサポートされていません。選択された SDK を変更するには、WebLogic の資料を参照してください。
- IBM Unica Marketing 製品を Web アプリケーション・モジュールとして配置します。
- UNIX システムの場合、グラフィカルなグラフを正常にレンダリングできるよう に、コンソールから WebLogic を始動する必要があります。コンソールは通常、 サーバーが稼働しているマシンにあります。しかし、Web アプリケーション・サ ーバーが別の仕方でセットアップされていることもあります。

コンソールがアクセス不能、または存在しない場合は、Exceed を使用してコンソ ールをエミュレートすることができます。ルート・ウィンドウ・モードまたはシ ングル・ウィンドウ・モードで UNIX マシンにローカル Xserver プロセスが接続 されるように Exceed を構成する必要があります。 Exceed を使用して Web ア プリケーション・サーバーを始動する場合は、バックグラウンドで Exceed を引 き続き実行させて、Web アプリケーション・サーバーが稼働し続けられるように してください。グラフのレンダリングで問題が発生した場合は、IBM Unica テク ニカル・サポートに連絡して詳細な指示を求めてください。

Telnet または SSH を介して UNIX マシンに接続すると、グラフのレンダリング で必ず問題が発生します。

- IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の資料 を調べてください。
- 実稼働環境で配置を行う場合、JVM メモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを 1024 に設定するために、setDomainEnv スクリプトに以下の行を追加してくださ い。Set MEM ARGS=-Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m

## 追加ガイドライン (WebLogic 10gR3 の場合のみ)

注: WebLogic 10gR3 を使用する場合には、CR303287 および CR310307 用の Oracle パッチを適用する必要があります。WebLogic 10.3 のパッチは、CR303287 および CR310307 と同等です。

Campaign を Marketing Platform とは異なる JVM に配置する場合、Campaign を配置する予定の WebLogic 10 ドメインで、次の手順を実行します。

- 1. WebLogic および WebLogic コンソールを開始します。
- ドメインを編集して、「Web アプリケーション」タブの「保存された実際のパ スを使用可能にする (Archived Real Path Enabled)」ボックスにチェック・マー クが付けられるようにします。

#### WebLogic 11g の場合の追加ステップ

WebLogic 11g の場合には、campaign.war ファイルで以下の変更を行います。

- campaign.war ファイルを解凍し、WEB\_INF ディレクトリー内で weblogic.xml ファイルを見つけます。
- 2. テキスト・エディターで weblogic.xml を開き、ファイルの session-descriptor セ クションに行 <cookie-http-only>false</cookie-http-only> を追加します。

例えば、完成後の session-descriptor セクションは、次のような内容になります。

```
<session-descriptor>
    <session-param>
        <param-name>CookieName<param-name>
        <param-value>CAMPAIGNSESSIONID</param-value>
        </session-param>
        <cookie-http-only>false</cookie-http-only>
</session-descriptor>
```

- 3. weblogic.xml ファイルを保存します。
- WL11g と一緒に AIX 6.1 を使用している場合のみ、xercesImpl.jar ファイル を解凍後の WEB INF/lib ディレクトリーから削除します。
- 5. campaign.war を配置する前に、この WAR ファイルをビルドして変更内容を含めます。

## すべてのバージョンの WebLogic での UNIX システムに関するレ ポート

Campaign を IBM Unica Optimize と一緒に UNIX システムにインストールした場 合、Optimize レポートにグラフを表示できるようにするために、WebLogic Web ア プリケーション・サーバーの java.awt.headless JVM プロパティーを使用可能に する必要があります。

WebLogic JVM で、最適化レポート内でのグラフ表示を使用可能にするには、以下の手順に従います。

- 1. WebLogic サーバーが既に稼働中の場合は、シャットダウンします。
- 2. WebLogic サーバーの起動スクリプト (startWebLogic.sh) を見つけて、任意の テキスト・エディターで開きます。
- 3. JAVA\_OPTIONS パラメーターを変更して以下の値を追加します。

-Djava.awt.headless=true

4. 起動スクリプトを保存した後、WebLogic サーバーを再始動します。

## Campaign サーバーを始動する

Campaign サーバーは、直接始動することも、サービスとしてインストールすること もできます。

注: Campaign サーバーを始動するときには、Marketing Platform および Campaign Web アプリケーションが配置されて、実行中である必要があります。

#### Campaign サーバーを直接始動するには

ご使用のオペレーティング・システムに対応する指示に従ってください。

#### Windows

Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリーにある cmpServer.bat ファ イルを実行することにより、Campaign サーバーを始動します。unica\_aclsnr.exe プロセスが「Windows タスク マネージャ」の「プロセス」タブに表示されていれ ば、それはサーバーが正常に始動したことを示しています。

#### UNIX

start 引数を設定した rc.unica\_ac プログラムを実行することにより、Campaign サーバーを始動します。このコマンドは、root として実行する必要があります。以下に例を示します。

./rc.unica\_ac start

unica\_aclsnr プロセスが正常に開始したかどうかを判別するには、以下のコマンド を実行します。

ps -ef | grep unica\_aclsnr

始動したサーバーのプロセス ID を判別するには、Campaign インストール済み環境 の conf ディレクトリーにある unica\_aclsnr.pid ファイルを確認します。

## Campaign サーバーを Windows サービスとしてインストールす る方法

Campaign サーバーを、Windows システムが始動すると必ず自動的に開始される Windows サービスとしてインストールするには、以下のようにします。

1. Campaign インストール・ディレクトリーの下にある bin ディレクトリーを、ユ ーザー PATH 環境変数に追加します。ユーザーの PATH 環境変数がない場合に は、作成します。

このパスを、システム PATH 変数ではなく、必ずユーザー PATH 変数に追加する ようにしてください。

Campaign bin ディレクトリーがシステム PATH 環境変数にある場合には、それ を削除します。Campaign サーバーをサービスとしてインストールするには、そ のディレクトリーがシステム PATH 環境変数にある必要はありません。

- 2. サーバーがサービスとしてインストールされている旧バージョンの Campaign か らアップグレードする場合には、サービスを停止してください。
- 3. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーを Campaign インストールの下の bin ディレクトリーに変更します。
- 次のコマンドを実行し、Campaign サーバー・サービスを作成します。 unica aclsnr -i

サービスが作成されます。

注: CAMPAIGN\_HOME がシステム環境変数として作成されたことを確認してから、 Campaign サーバー・サービスを開始します。

## 第6章 配置後の Campaign の構成

Web アプリケーションを配置した後に、このセクションで説明されている作業を実行する必要があります。

さらに、IBM Unica Marketing レポート作成機能を使用する場合には、「*IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド*」で説明されているタスクを実行する必要 があります。

注: ホストされた E メールに対して IBM Unica eMessage を使用可能にする予定で ある場合、標準の eMessage パフォーマンス・レポートを表示するには、IBM Unica Marketing レポート作成機能を使用する必要があります。

## ステップ: Campaign リスナーの稼働を確認する

ユーザーが Campaign のどの機能を使用して作業を行うにも、まず、Campaign リス ナーが稼働している必要があります。リスナーは、ログインごとおよびアクティ ブ・フローチャートごとに、別個の unica\_acsvr プロセスを自動で作成します。例 えば、あるユーザーがログインしてフローチャートを開くと、リスナーは unica\_acsvr.exe のインスタンスを 2 つ作成します。

Campaign リスナーが稼働していることを確認するには、以下の手順を使用します。 1. ご使用のオペレーティング・システムに応じた手順を使用してください。

Windows では、「Windows タスク・マネージャー」の「プロセス」タブで、 unica\_aclsnr.exe を見つけます。

UNIX では、ps コマンド (例えば、ps -ef | grep unica\_aclsnr) を使用して、 Campaign サーバーを見つけます。

2. リスナーが稼働していない場合は、再開します。

Windows の場合は、Campaign インストール済み環境の bin ディレクトリーに ある、cmpServer.bat スクリプトを実行します。

UNIX の場合は、システム・プロンプトでコマンド rc.unica\_ac startを入力します。

リスナーを自動で開始する方法など、リスナーの稼働に関する重要な詳細は、 「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

## ステップ: Campaign システム・ユーザーをセットアップする

システム・ユーザーとは、IBM Unica Marketing アプリケーションで使用するよう に構成された IBM Unica ユーザー・アカウントです。

ユーザーにログイン資格情報を求めるプロンプトを繰り返し出さないようにするためには、システム・ユーザーを1つ以上のデータ・ソースに関連付けることができ

ます。データ・ソースはそれぞれに、ユーザー名およびパスワードを指定します。 そのため、データ・ソースを参照することによって、データベースやその他の保護 リソースにアクセスするためのユーザー名およびパスワードを提供できます。複数 のデータ・ソースをシステム・ユーザー・アカウントの構成に追加することで、そ のシステム・ユーザーが複数のデータベースにアクセスできるようにすることがで きます。

Campaign では、システム・ユーザーが、システム・テーブルやその他のデータ・ソ ースにアクセスするためのログイン資格情報を保有します。

既存または新規の IBM Unica Marketing ユーザー・アカウントを使用して、以下に 説明するデータ・ソースに対する資格情報を保存します。

IBM Unica Marketing の 「**セットアップ」>「ユーザー**」領域で、IBM Unica Marketing ユーザーをセットアップして、ユーザーにデータ・ソースを割り当てま す。その方法についての説明は、オンライン・ヘルプの該当するセクションを参照 してください。

以下のデータ・ソースに対する資格情報を保有するユーザー・アカウントをセット アップします。

- Campaign システム・テーブル (UA\_SYSTEM\_TABLES)
- ・ すべての顧客 (ユーザー) テーブル

UNIX では、システム・ユーザーの「代替ログイン」属性に、Campaign の UNIX ユーザーと特権を共有するグループに属するユーザーの UNIX アカウントを入力し ます。

注: 複数のパーティションがある場合は、パーティションごとに固有のシステム・ ユーザーが必要です。複数のパーティションで同じシステム・ユーザーを使用する ことはできません。

## ステップ:「構成」ページでデータ・ソース・プロパティーを追加する

Campaign データ・ソースごとに、適切なデータ・ソース・テンプレートを使用し て、「構成」ページにデータ・ソース構成プロパティーを追加する必要がありま す。IBM Unica インストーラーを実行すると、Campaign インストーラーは Marketing Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプ レートをインポートします。

追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テンプレートが必要な場合 は、Marketing Platform configTool ユーティリティーを使用して、それらのテンプ レートを手動でインポートする必要があります。使用するデータベースの各タイプ に応じたテンプレートを、必要な数だけインポートできます。

例えば、Marketing Platform および Campaign のインストール済み環境で、以下のデ ータベースを使用しているとします。

- Oracle システム・テーブル
- DB2 顧客 (ユーザー) テーブル
- DB2 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テ ンプレートをインポートする必要があります。

Marketing Platform システム・テーブルと Campaign システム・テーブルのデータベ ースが同じデータベース・タイプである場合、インストーラーは自動的に、これら のシステム・テーブルに使用するテンプレートをインポートします (この例では、 Oracle テンプレートをインポートします)。

手順については、『データ・ソース・テンプレートをインポートするには』を参照 してください。

テンプレートから新しいカテゴリーを作成すると、新しいデータ・ソース構成プロ パティーのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ソースごとに、必 要なだけ新しいカテゴリーを作成します。上記の例では、Oracle テンプレートで 1 つの新規カテゴリーを作成し、DB2 テンプレートで 2 つの新規カテゴリーを作成 します。『データ・ソース・テンプレートを複製するには』を参照してください。

データ・ソース・プロパティーを追加した後は、テンプレートから作成したカテゴ リーのデータ・ソース構成プロパティーを設定します。

手順については、46ページの『ステップ:データ・ソース・プロパティーを設定する』を参照してください。

## データ・ソース・テンプレートをインポートするには

Campaign データ・ソース・テンプレートは、Campaign インストール済み環境の conf ディレクトリーにあります。

注: ユーザー・テーブル用にサポートされているデータベース・タイプの中には、 Campaign システム・テーブル用にはサポートされていないタイプがいくつかありま す。Campaign システム・テーブルのデータ・ソース (UA\_SYSTEM\_TABLES) は、 Oracle、DB2、および SQLServer でのみサポートされます。

テンプレートをインポートおよびエクスポートするには、Marketing Platform configTool ユーティリティーを使用します。このユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにあります。 configTool について十分に理解していない場合は、このタスクを実行する方法の詳 細について、103ページの『configTool ユーティリティー』を参照してください。

以下に、Oracle テンプレートをデフォルト・パーティション (Windows 環境) にインポートする場合に使用するコマンドの一例を示します。

configTool -i -p "Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f
full\_path\_to\_directory\_containing\_your\_Oracle\_template¥OracleTemplate.xml

## データ・ソース・テンプレートを複製するには

1. 「構成」ページで、複製するデータ・ソース・テンプレートにナビゲートします。

他のカテゴリーとは異なり、テンプレート・カテゴリーのラベルは斜体になって いて、括弧で囲まれています。 2. データ・ソース・テンプレートをクリックします。

「テンプレートからのカテゴリーの作成」ページが表示されます。

3. 「新しいカテゴリー名」フィールドに名前を入力します (必須)。

注: Campaign のシステム・テーブルのデータ・ソース・カテゴリー名は、 UA\_SYSTEM\_TABLES であることが必須です。

- 必要に応じて、新しいカテゴリーに含まれるプロパティーを編集します。また、 これを後で行うこともできます。
- 5. 「保存と終了」をクリックして、新規の構成を保存します。

新規カテゴリーがナビゲーション・ツリーに表示されます。

次のステップで、『ステップ: データ・ソース・プロパティーを設定する』で説明しているプロパティーを設定します。

## ステップ:「構成」ページで必須 Campaign プロパティーを設定する

このセクションでは、Campaign の基本インストールで「構成」ページに設定する必要のある最低限の構成プロパティーについて説明します。これらの必須プロパティーを、このセクションで説明されているように設定します。

Campaign の「構成」ページには、オプションで調整可能な重要な機能を実行するためのプロパティーもあります。

#### ステップ: データ・ソース・プロパティーを設定する

Campaign データ・ソースごとに、このセクションにリストするプロパティーを設定 する必要があります。これらのデータ・ソースは、Campaign システム・テーブル・ データベース、および Campaign で使用する予定のすべての顧客 (ユーザー) データ ベースです。

注: Campaign のシステム・テーブルのデータ・ソース・カテゴリー名は、 UA SYSTEM TABLES であることが必須です。

値の設定について詳しくは、これらのプロパティーのコンテキスト・ヘルプを参照 するか、「IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。

- ASMUserForDBCredentials。このプロパティーには、43ページの『ステップ: Campaign システム・ユーザーをセットアップする』で Campaign システム・ユ ーザーとして既に作成したユーザーを設定する必要があります。
- DSN。SQL サーバーの場合、このプロパティーには、作成した DSN (データ・ソ ース名)を設定します。Oracle および DB2 の場合、このプロパティーにはデー タベース名または SID (サービス)名を設定します。
- JndiName。このプロパティーには、アプリケーション・サーバーに作成した、この特定のデータ・ソースに接続するための JNDI を設定します。
- SystemTableSchema。SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソースの場合、 このプロパティーには、接続先とするデータベースのユーザーを設定します。

OwnerForTableDisplay。SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソースの場合、このプロパティーには、接続先とするデータベースのユーザーを設定します。

## ステップ:追加プロパティーを設定する

Campaign の基本インストールでは、データ・ソース・プロパティーを作成して設定 する他に、「構成」ページに以下のプロパティーを設定する必要があります。

- Campaign > unicaACListener > serverHost
- Campaign > unicaACListener > serverPort
- デフォルト・パーティションには、Campaign > partitions > partition1 のカテ ゴリーに、必要に応じた値を設定します。

これらの 2 つのプロパティーのいずれかを変更した場合は、常に Campaign リスナーを再始動してからでないと、変更が適用されないことに注意してください。

#### ステップ: Campaign のユーザー・テーブルをマップする

ユーザー・テーブルのマッピングは、外部データ・ソースを Campaign で利用でき るようにするプロセスです。一般に、ユーザー・テーブルには、企業の顧客、見込 み顧客、あるいは製品に関する情報が格納されます。データベース表または ASCII フラット・ファイルをデータ・ソースとして使用できます。構成したデータ・ソー スのデータをフローチャート内のプロセスで利用できるようにするには、それらの データ・ソースをすべてマップする必要があります。

ユーザー・テーブルをマップする方法についての説明は、「*Campaign 管理者ガイ* ド」を参照してください。

注: ユーザー・テーブルは、システム・テーブルとは異なります。大半の Campaign システム・テーブルは、システム・テーブル・データ・ソース名 UA\_SYSTEM\_TABLES が使用されていれば、初回のインストールと構成のときに自 動的にマップされます。接続の問題により、システム・テーブルを手動でマップし なければならない場合は、一度 Campaign をログアウトし、テーブルをマップして から、再びログインしてください。

## ステップ: Campaign インストールの確認

データ・ソースの準備、Campaign のインストールと構成、Web アプリケーション のデプロイ、デプロイ後の Campaign の構成が完了したら、次はインストールの検 証を行います。

Campaign 管理者の役割を持つユーザー (asm\_admin など) としてログインしていな ければ、管理者の役割を持つユーザーで IBM Unica Marketing にログインしてくだ さい。「設定」>「ユーザー」で、新規ユーザーに少なくとも 1 つのセキュリティ ーの役割 (例えば、グローバル・ポリシー/管理) を割り当てます。役割を割り当て ると、その新規ユーザーで Campaign にログインできるようになります。

インストール済み環境を確認するには、次の手順に従ってください。

1. IBM Unica Marketing にログインします。

- 「設定」>「キャンペーン設定」>「テーブル・マッピングの管理」ウィンドウ で、すべてのシステム・テーブルがあることを確認します。
- キャンペーンを作成し、そのキャンペーンにフローチャートを作成してください。

## ステップ: IBM アプリケーションを統合する場合のオプションの構成を行う

IBM Unica Campaign は、さまざまな IBM アプリケーションを統合します。このセ クションでは、統合を確立するために必要な構成およびプロセスについて説明しま す。

## ステップ: IBM Unica Marketing Operations との統合のための プロパティーを設定する

Campaign を Marketing Operations と統合するには、

「Campaign」>「partitions」> 「partition[n]」> 「server」> 「internal」> 「MO\_UC\_integration」プロパティーを「Yes」に設定します。

さらに、MO\_UC\_BottomUpTargetCells、IBM Marketing Operations - Offer integration、および UC\_CM\_integration というプロパティーを調整します。詳し くは、「*IBM Unica Marketing Operations および Campaign 統合ガイド*」を参照し てください。

Affinium Campaign 7.x で作成され、Affinium Plan 7.x プロジェクトにリンクされ たキャンペーン (すなわち、レガシー・キャンペーン) にアクセスできるようにする には、 「Campaign」>「partitions」> 「partition1」> 「server」> 「internal」> 「Legacy\_campaigns」プロパティーを「**Yes**」に設定します。

Campaign インストール済み環境に複数のパーティションがある場合、統合を有効に する各パーティションで、これらのプロパティーを設定します。

## ステップ: eMessage を統合するための起動プロセスを開始する

IBM Unica eMessage が Campaign と統合することにより、マーケティング・デー タベースの情報を使用して、顧客および見込み顧客に合わせて個人別にパーソナラ イズしたマーケティングの E メール・メッセージを作成、送信、および追跡できま す。 必要な E メール送信用および追跡用のリソースは、IBM がホストします。顧 客レコードは、Campaign を使用してローカルで管理します。

Campaign インストール済み環境に eMessage を統合する場合は、ホストされた E メール・アカウントの設定および IBM Unica Hosted Services への接続の構成を IBM に依頼する必要があります。IBM は、ホストされた E メール・アカウントを プロビジョンし、主要なインターネット・サービス・プロバイダーの間で E メー ル・マーケティングの評判を確立するための起動プロセスの間、お客様を支援しま す。起動プロセスの間に、IBM Unica Marketing Platform および Campaign の構成 を変更する必要があります。ホストされた E メールの起動プロセス、および実行し なければならない構成について詳しくは、7ページの『eMessage と Campaign の続 合』および「*IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド*」を参照してください。

#### eMessage の起動プロセスの概要

IBM Unica Campaign で E メール機能をアクティブにすることで、ターゲットを絞 り込み、追跡可能な E メール・マーケティング・キャンペーンを行うことができま す。Campaign は米国および英国のデータ・センターでホストされているリソースを 介して、IBM Unica eMessage から提供される E メール機能を使用します。これら のリソースにアクセスするためのアカウントは、eMessage サブスクリプションに含 まれます。

IBM は、ホストされた E メール・アカウントを作成した後に、起動プロセスを開始します。IBM は、お客様が eMessage を十分に理解し、ホストされた E メール・リソースに接続し、主要なインターネット・サービス・プロバイダー (ISP) の間で正当な E メール・マーケティング担当者としての評判を確立できるよう支援します。

プロセスは、3 つのフェーズで進められます。IBM Unica 専門サービス・チームお よび E メール・アカウント・サービス・チームが、この過程を案内します。



起動プロセスの期間中は、専門サービス・コンサルタントが IBM との主な連絡窓 口となります。アカウント起動プロセスが完了すると、専門サービス・コンサルタ ントが主要なサポートとしての役割を IBM Unica 製品サポート・チームに渡しま す。

担当の E メール・アカウント・サービス (EAS) コンサルタントは、E メール関連 の問題を専門に支援を提供します。E メール・マーケティング・キャンペーンが対 象受信者に常に届けられるようにするためには、主要なインターネット・サービ ス・プロバイダー (ISP) の間で好ましい E メールの評判を確立することが重要で す。メーリングの実行を開始する際に、EAS コンサルタントはメーリングの配信可 能量パフォーマンスを検討し、E メールの評判を着実に構築していくために最適な 方法を提案します。

## 第7章 Campaign での複数のパーティションの構成

Campaign 製品ファミリーでは、複数のパーティションを使用して、異なるユーザ ー・グループに関連付けられているデータを保護する方法が確保されています。

複数のパーティションで作業を行うように Campaign または関連する IBM Unica Marketing アプリケーションを構成すると、各パーティションはアプリケーションの 異なるインスタンスのようにアプリケーション・ユーザーには見えます。他のパー ティションが同じシステム上に存在するということは分かりません。

IBM Unica Marketing アプリケーションを Campaign と一緒に操作する場合、アプ リケーションを構成できるのは、Campaign インスタンスが既に構成されているパー ティションの中だけです。各パーティション内のアプリケーション・ユーザーがア クセスできるのは、同じパーティション内で Campaign 用に構成されている Campaign 機能、データ、顧客テーブルだけです。

## パーティションの利点

各パーティションには固有の Campaign システム・テーブルのセットがあるため、 複数のパーティションがあると、ユーザーのグループの間に強力なセキュリティー をセットアップするのに役立ちます。ユーザーのグループがデータを共有する必要 がある場合は、複数のパーティションの使用は推奨されません。

各パーティションには固有の構成設定があるため、ユーザーのグループごとに Campaign をカスタマイズできます。ただし、すべてのパーティションは同じインス トール・バイナリーを共有します。したがって、複数のインストールを個別に行う 場合と比べ、インストールおよびアップグレードの作業は最小限になります。

## パーティションのユーザー割り当て

パーティションへのアクセスは、Marketing Platform グループのメンバーシップによって管理されます。ユーザーをパーティションのメンバーにするには、ユーザーを そのパーティションに割り当てられたグループのメンバーにします。

パーティションのスーパーユーザーを除き、各 IBM ユーザーは、1 つのパーティ ションにのみ属することができます。複数のパーティションへのアクセスが必要な ユーザーは、パーティションごとに個別の IBM ユーザー・アカウントが必要で す。

Campaign パーティションが 1 つしかない場合、Campaign に対するアクセス権限を 持たせるために、ユーザーをそのパーティションに明示的に割り当てる必要はあり ません。

## パーティション・スーパーユーザー

Marketing Platform のユーザー全体でセキュリティーを管理するには、システム内の すべてのセキュリティー設定およびユーザー・アカウントにアクセスできるユーザ ー・アカウントが存在していなければなりません。

デフォルトでは、このユーザー・アカウントは platform\_admin です。このユーザ ー・アカウントは、特定の 1 つのパーティションには属さず、すべてのパーティシ ョン内のすべてのユーザー・アカウントにアクセスできます。

IBM Unica 管理者は、同じアクセス・レベルを持つ追加ユーザーを作成できます。 パーティション・スーパーユーザーになるためには、アカウントが Marketing Platform に対する管理アクセス権限を持ち、「ユーザー」、「ユーザー・グルー プ」、および「ユーザーの権限」ページに対するフルアクセス権限を持つ必要があ ります。パーティション・スーパーユーザーには、製品固有のセキュリティー・ペ ージ (Campaign セキュリティー・ページなど) に対するアクセス権限は不要です。

## パーティションのデータ・アクセス

複数のパーティションを使用した構成では、パーティションに以下のセキュリティ ー特性が備わります。

- ユーザーは、パーティションに割り当てられたグループのメンバーでなければ、 そのパーティションにはアクセスできません。
- あるパーティションのユーザーは、他のいずれのパーティションのデータも表示 したり、変更したりすることはできません。
- Campaign の参照ダイアログ・ボックスから、ユーザーがパーティションのルート・ディレクトリーより上位のファイル・システムにナビゲートすることはできません。例えば、partition1 と partition2 という名前の 2 つのパーティションがあり、ユーザーが partition1 に関連付けられたグループに属しているとします。この場合、このユーザーは、ダイアログ・ボックスから partition2 のディレクトリー構造をナビゲートすることはできません。

## 複数のパーティションのセットアップ

このセクションでは、Campaign に追加のパーティションを構成するために実行する 必要があるタスクについて説明します。

#### 複数のパーティションを構成する場合の前提条件

Campaign に追加のパーティションを構成する前に、構成するパーティションごとに 以下のタスクを実行します。

- 9ページの『ステップ: Campaign システム・テーブルのデータベースまたはスキ ーマを作成する』
- 9ページの『ステップ: ODBC またはネイティブ接続を Campaign マシン上に作成する』
- 11 ページの『ステップ: Web アプリケーション・サーバーに JDBC 接続を作成 する』

#### パーティションのデータ・ソースの準備

システム・テーブル・データベース、およびパーティションに必要な他のすべての データ・ソースを作成します。その後、データ・ソースにアクセスするために必要 な JDBC および ODBC 接続またはネイティブ接続を構成します。データ・ソース の準備については、9ページの『第 2 章 Campaign のデータ・ソースの準備』を参 照してください。

## パーティションのシステム・テーブルの作成とデータの追加

パーティションごとに、システム・テーブルを格納するための異なるスキーマをデ ータベースに作成します。

システム・テーブルを作成してデータを追加するには、Campaign に同梱されている データベース固有のスクリプトを使用します。

#### 追加パーティションごとのディレクトリー構造の作成

この手順では、ファイル・システム内にパーティション・ディレクトリーを作成す る方法を説明します。

注: バックアップとして機能するように、元の partition1 ディレクトリーのままのコピーを保存してください。

- Campaign インストール済み環境の partitions ディレクトリーで、追加するパ ーティションごとに、すべてのサブディレクトリーが含まれるようにデフォルト partition1 ディレクトリーの複製を作成します。
- 2. 各パーティション・ディレクトリーに一意の名前を付けます。後で「構成」ページでパーティションの構成ツリーを作成するときには、ここで設定する名前と完全に同じ名前をパーティションに使用します。

例えば、2 番目のパーティションを作成するために、Campaign/partitions/ partition2 という名前のディレクトリーを作成した場合、「構成」ページで構 成ツリーを作成するときには、名前「partition2」を使用して、このパーティショ ンを識別しなければなりません。

3. 複製パーティション・サブディレクトリー内に存在するすべてのファイルを削除 します。

#### デフォルト・パーティションを複製するには

以下の手順で、-s オプションを設定して partitionTool ユーティリティーを使用す る方法を説明します。このオプションを使用しない場合は、この手順を実行する前 に、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを停止 する必要があります。

- JAVA\_HOME 環境変数を、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトに設定するか、または partitionTool ユーティリティーを実行するコマンド・ライン・ウィンドウで設定します。
- コマンド・ライン・ウィンドウを開き、Marketing Platform インストール済み環 境の tools/bin ディレクトリーからユーティリティーを実行します。適切なコ マンドおよびオプション (「Marketing Platform 管理者ガイド」で説明)を使用 して、目的の結果を達成します。

以下に例を示します。

partitionTool -c -s partition1 -n partition2

- 3. 作成する必要のある新しいパーティションごとに、この手順を繰り返します。
- 4. 完了したら、Marketing Platform が配置されているアプリケーション・サーバー を停止して再始動し、作成されたグループを確認します。

このユーティリティーの使用方法について詳しくは、110ページの『partitionTool ユ ーティリティー』を参照してください。

#### 新しいパーティション構造の作成

新しいパーティションごとに、「構成」ページで New partitionTemplate を使用してパーティション構造を作成します。

 「構成」ページで、「キャンペーン」>「パーティション」にナビゲートして、 (partitionTemplate) をクリックします。

リストに (partitionTemplate) プロパティーが表示されていない場合には、 configTool ユーティリティーで以下のようなコマンドを使用して、パーティシ ョン・テンプレートをインポートしてください。

configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions"
 -f <CAMPAIGN\_HOME>/conf/partitionTemplate.xml

<CAMPAIGN\_HOME> は、Campaign インストール済み環境への実際のパスで置き換えます。

configTool ユーティリティーは、IBM Unica Marketing Platform インストール 済み環境の tools ディレクトリーにあります。このユーティリティーについて 詳しくは、「*IBM Unica Marketing Platform* 管理者ガイド」を参照してくださ い。

右側のペインに、「新しいカテゴリー名」フィールドが空の状態で 「partitionTemplate」ペインが表示されます。

- 新しいパーティションの名前を入力します。この名前には、53ページの『追加 パーティションごとのディレクトリー構造の作成』でファイル・システムにパー ティションのディレクトリーを作成したときと同じ名前を使用します。
- 3. 「変更の保存」をクリックします。

パーティション・テンプレートと同じカテゴリーとプロパティーを持つ新しいパ ーティション構造が表示されます。

#### パーティションのデータ・ソース・プロパティーの構成

作成するパーティションごとに、そのパーティションのデータ・ソース・プロパティーを「構成」ページで構成する必要があります。

#### ステップ: 「構成」ページでデータ・ソース・プロパティーを追加す る

Campaign データ・ソースごとに、適切なデータ・ソース・テンプレートを使用して、「構成」ページにデータ・ソース構成プロパティーを追加する必要がありま

す。IBM Unica インストーラーを実行すると、Campaign インストーラーは Marketing Platform データベースに指定されたデータベース・タイプに応じたテンプ レートをインポートします。

追加のデータベース・タイプに他のデータ・ソース・テンプレートが必要な場合 は、Marketing Platform configTool ユーティリティーを使用して、それらのテンプ レートを手動でインポートする必要があります。使用するデータベースの各タイプ に応じたテンプレートを、必要な数だけインポートできます。

例えば、Marketing Platform および Campaign のインストール済み環境で、以下のデ ータベースを使用しているとします。

- Oracle システム・テーブル
- DB2 顧客 (ユーザー) テーブル
- DB2 追加の顧客 (ユーザー) テーブル

この場合は、2 セットの顧客 (ユーザー) テーブルに対応した DB2Template.xml テ ンプレートをインポートする必要があります。

Marketing Platform システム・テーブルと Campaign システム・テーブルのデータベ ースが同じデータベース・タイプである場合、インストーラーは自動的に、これら のシステム・テーブルに使用するテンプレートをインポートします (この例では、 Oracle テンプレートをインポートします)。

手順については、45ページの『データ・ソース・テンプレートをインポートするに は』を参照してください。

テンプレートから新しいカテゴリーを作成すると、新しいデータ・ソース構成プロ パティーのセットが作成されます。それぞれのタイプのデータ・ソースごとに、必 要なだけ新しいカテゴリーを作成します。上記の例では、Oracle テンプレートで 1 つの新規カテゴリーを作成し、DB2 テンプレートで 2 つの新規カテゴリーを作成 します。45 ページの『データ・ソース・テンプレートを複製するには』を参照して ください。

データ・ソース・プロパティーを追加した後は、テンプレートから作成したカテゴ リーのデータ・ソース構成プロパティーを設定します。

手順については、46ページの『ステップ:データ・ソース・プロパティーを設定する』を参照してください。

#### ステップ: データ・ソース・プロパティーを設定する

Campaign データ・ソースごとに、このセクションにリストするプロパティーを設定 する必要があります。これらのデータ・ソースは、Campaign システム・テーブル・ データベース、および Campaign で使用する予定のすべての顧客 (ユーザー) データ ベースです。

注: Campaign のシステム・テーブルのデータ・ソース・カテゴリー名は、 UA\_SYSTEM\_TABLES であることが必須です。

値の設定について詳しくは、これらのプロパティーのコンテキスト・ヘルプを参照 するか、「*IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

- ASMUserForDBCredentials。このプロパティーには、43ページの『ステップ: Campaign システム・ユーザーをセットアップする』で Campaign システム・ユ ーザーとして既に作成したユーザーを設定する必要があります。
- DSN。SQL サーバーの場合、このプロパティーには、作成した DSN (データ・ソ ース名)を設定します。Oracle および DB2 の場合、このプロパティーにはデー タベース名または SID (サービス)名を設定します。
- JndiName。このプロパティーには、アプリケーション・サーバーに作成した、この特定のデータ・ソースに接続するための JNDI を設定します。
- SystemTableSchema。SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソースの場合、 このプロパティーには、接続先とするデータベースのユーザーを設定します。
- OwnerForTableDisplay。SQL サーバーには不要です。他のデータ・ソースの場合、このプロパティーには、接続先とするデータベースのユーザーを設定します。

## システム・ユーザーのセットアップ

システム・ユーザーとは、IBM Unica Marketing アプリケーションで使用するよう に構成された IBM Unica Marketing ユーザー・アカウントです。IBM Unica Marketing アプリケーションには、以下の属性を使用して構成されたシステム・ユー ザー・アカウントが必要になる場合があります。

- システム・テーブルやその他のデータ・ソースにアクセスするためのログイン資格情報。
- システム内でオブジェクトを作成、変更、および削除するための特定の権限。

ユーザーにログイン資格情報を求めるプロンプトを繰り返し出さないようにするためには、システム・ユーザーを1つ以上のMarketing Platform データ・ソースに関連付けることができます。データ・ソースはそれぞれに、ユーザー名およびパスワードを指定します。そのため、データ・ソースを参照することによって、データベースやその他の保護リソースにアクセスするためのユーザー名およびパスワードを提供できます。複数のデータ・ソースをシステム・ユーザー・アカウントの構成に追加することで、そのシステム・ユーザーが複数のデータベースにアクセスできるようにすることができます。

IBM Unica Marketing アプリケーションのシステム・ユーザーをセットアップする には、このセクションの情報を使用してください。

新規ユーザーのセットアップおよびユーザーへのデータ・ソースの割り当てに関する一般手順については、「IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。

#### Campaign システム・ユーザー

既存または新規のユーザー・アカウントを使用して、以下のデータ・ソースに対す る資格情報を保存します。

- Campaign システム・テーブル
- ・ すべての顧客 (ユーザー) テーブル

UNIX では、システム・ユーザーの「**代替ログイン**」属性に、Campaign の UNIX ユーザーと特権を共有するグループに属するユーザーの UNIX 名を入力します。

注: 複数のパーティションがある場合は、パーティションごとに固有のシステム・ ユーザーが必要です。複数のパーティションで同じシステム・ユーザーを使用する ことはできません。

## 複数のパーティションがある場合の IBM Cognos レポートの構成

複数のパーティションで Campaign、eMessage、および Interact、あるいはこれらの いずれかを使用している場合、パーティションごとに IBM Cognos レポート・パッ ケージを構成する必要があります。このプロセスを支援するために、 partition tool.sh というユーティリティーが用意されています。

partition\_tool.sh ユーティリティーを実行すると、以下のことが行われます。

- 元のレポート zip アーカイブから XML ファイルをコピーします。
- xml ファイル内のパッケージ参照を、指定した新規フォルダーにある新しいパッ ケージの参照に置き換えます。
- 新規ファイルを新しい zip アーカイブに圧縮し、新規パーティション名をファイ ル名の末尾に追加します。

partition\_tool.sh ユーティリティーを実行した後、指定した名前を使って Cognos Connection にフォルダーを作成し、そのフォルダーに新しいアーカイブをインポートします。最後に、元のプロジェクト・ファイル (モデルが含まれるファイル) をコピーします。これで、新規パーティションを指すようにデータ・ソースを変更してから、新しいフォルダーにモデルを発行できます。

このセクションでは、複数のパーティションに対応して IBM Cognos レポートを構成する方法を説明します。

#### 始める前に

レポート・パーティション・ユーティリティーは、partition\_tool.sh という名前 の UNIX シェル・スクリプトです。作業を開始する前に、以下のことを実行してく ださい。

#### 入力パラメーターの値の決定

レポート・パーティション・ツールには、2 つの入力パラメーターがあります。1 つはパーティション・フォルダーの名前、もう 1 つはコピーするレポート・アーカ イブの場所です。

- Cognos で各パーティション最上位のレポート・フォルダーに使用する名前を決定 します。例えば、「Partition2」とします。
- 元のレポート・アーカイブへのパスをメモに記録します。例: IBM¥Unica¥ReportsPacksCampaign¥cognos<*version*>¥Unica Reports for Campaign.zip

## Windows のみ: シェル・スクリプト・シミュレーターを入手します。

IBM Cognos が Windows で稼働している場合、Cygwin などのシェル・スクリプト・シミュレーターをダウンロードしてインストールしてから、そのシミュレーター・インターフェースでスクリプトを実行します。

Cognos Content Manager を実行しているマシンにまだシェル・スクリプト・シミュ レーターがインストールされていない場合は、今の時点でダウンロードしてインス トールしてください。

#### zip ユーティリティーがインストールされていることを確認します。

レポート・パーティション・ツールは、新しいパーティションの zip アーカイブを 作成します。この機能は、Cognos システムに zip ユーティリティーがインストール されていないと使用できません。

Cognos Content Manager を実行しているマシンにまだ zip ユーティリティーがイン ストールされていない場合は、今の時点でダウンロードしてインストールしてくだ さい。

## レポート・アーカイブ .zip ファイルのコピーを作成するためのレ ポート・パーティション・ユーティリティーの実行

- シェルまたはシェル・シミュレーターで、 IBM¥Unica¥Platform¥tools¥cognos<*version*>¥bin ディレクトリーにナビゲート します。
- 2. パーティション名およびアーカイブ・パスに値を指定して、ユーティリティーを 実行します。

パラメーター値にスペースが含まれる場合、以下の例に示すように、引用文字を 使用して値を囲む必要があります。

partition\_tool.sh Partition2 "IBM\Unica\ReportsPacksCampaign\
cognos<version>\IBM EMM Reports for Campaign.zip"

3. 新しい zip ファイルを Cognos 配置ディレクトリーにコピーします。

上記の例に示したパーティション名を使用した場合、新しい zip ファイルの名前 は、IBM EMM Reports for Campaign\_Partition2.zip となります。

- 4. Cognos Connection を開きます。
- 5. 「共有フォルダー (Public Folders)」の下に、新規レポート・アーカイブ用のフォ ルダーを作成します。

例えば、Campaign Partition2 とします。

6. 新規 zip アーカイブをインポートし、インポート・ウィザードのステップ 5 で ターゲットの場所として作成したフォルダーを選択します。

この例に従った場合、ターゲットは Campaign Partition2 フォルダーです。

## Cognos モデルのコピーの作成

このタスクでは、新しい Campaign レポート用に IBM Unica Cognos データ・モデ ルのコピーを作成し、そのモデルが正しいデータ・ソース名を参照していることを 確認します。

 該当するパーティションの IBM Cognos データ・ソースを作成したことを確認 します。このパーティションのデータ・ソースをまだ作成していない場合は、 「Marketing Platform インストール・ガイド」の『IBM Unica アプリケーション 用の Cognos データ・ソースの作成 (Create the Cognos datasource for the Unica application)』で説明している手順を参照してください。

- Framework Manager を使用して、Campaign プロジェクト (cpf ファイル)の CampaignModel.cpf ファイルを開きます。
- 3. 「名前を付けて保存」を使用して CampaignModel プロジェクトをコピーして、 このコピーを使用するパーティションを示す新しい名前を指定します。例えば、 CampaignModelPartition2 とします。
- 4. 「プロジェクト・ビューアー (Project Viewer)」で、「データ・ソース」ノード を展開し、「CampaignDS」を選択します。 (「プロパティー」ペインがデフォ ルトで表示されない場合は、「表示」>「プロパティー」を選択します)。
- 5. 「名前」フィールドをクリックし、値をデフォルトのデータ・ソース (CampaignDS) から、この Campaign パーティションの正しいデータ・ソース名に 変更します。
- 「Content Manager データ・ソース (Content Manager Datasource)」フィール ドをクリックし、値をデフォルトのデータ・ソース (CampaignDS) から、前のス テップで指定した値に変更します。
- 7. 変更を保存します。
- パッケージをコンテンツ・ストアに公開します。公開ウィザードに「場所のタイ プの選択 (Select Location Type)」ウィンドウが表示されたら、前のタスクで Cognos Connection にレポート・アーカイブをインポートしたフォルダーにナビ ゲートし、そのフォルダーを指定します。つまり、「Campaign Partition 2」フォ ルダーです。

## IBM Unica の「構成」ページでのパーティションのレポート・プ ロパティーの更新

パーティションごとに、レポート・フォルダーの場所を指定するレポート・プロパ ティーのセットがあります。これらのレポート・プロパティーの値が、フォルダー の実際のパスを反映するように、それぞれのプロパティーの値を編集して、新しい 最上位のパーティション・フォルダーを識別する文字列を挿入する必要がありま す。 Cognos Connection 内の新しいパーティション・フォルダーの名前が

「Campaign Partition 2」である場合、以下の文字列を挿入して、パスを修正します。

folder[@name='Campaign Partition 2']/

例えば、offerAnalysisTabCachedFolder プロパティーを更新するには、値を以下の ように変更します。変更前:

/content/folder[@name='Affinium Campaign - Object Specific Reports']/folder[@name='offer']/folder[@name='cached']

変更後:

/content/folder[@name='Campaign Partition 2']/folder[@name='Affinium Campaign - Object Specific Reports']/folder[@name='offer']/ folder[@name='cached']

1. IBM Unica Marketing に platform\_admin ユーザーとしてログインします。

- 2. 「設定」>「構成」を選択します。
- 3. 「**Campaign**」>「**partitions**」> *partitionName* >「**reports**」を展開します。
- 4. このセクションの各プロパティーの値を上記で説明したように編集して、レポート・フォルダーへの実際のパスを反映させます。
- 5. 変更を保存します。
- 6. パーティションごとに、ステップ3から5を繰り返します。

#### 複数のパーティションを使用する場合の次の手順

Campaign に構成したパーティションを使用可能にするには、以下の管理タスクを完 了する必要があります。

- 各パーティションの管理ユーザーに役割を割り当てる partitionTool ユーティリティーは、作成するパーティションごとに、デフォルトの管理ユーザーを作成します。「ユーザーの役割と権限」ページで、新規ユーザーに少なくとも1つのセキュリティーの役割(例えば、グローバル・ポリシー/管理)を割り当てます。新規ユーザーに役割を割り当てた後、その新規ユーザーとして Campaign パーティションにログインできます。
- 各パーティションにグループを割り当てる 各パーティションに割り当てるグ ループを決定します。詳しくは、「Marketing Platform 管理者ガイド」を参照し てください。

複数の Campaign パーティションで IBM Unica eMessage を使用可能にする予定の 場合は、Campaign パーティションごとに対応する eMessage パーティションを構成 する必要があります。 eMessage の追加パーティションの作成について詳しくは、  $61 \, ^{-i}$ の『第 8 章 eMessage での複数のパーティションの構成』を参照してくだ さい。

## 第8章 eMessage での複数のパーティションの構成

eMessage をインストールすると、Marketing Platform に eMessage のデフォルト・ パーティションが作成されます。eMessage の追加のパーティションを構成できま す。eMessage に作成する各パーティションは、Campaign に作成されたパーティシ ョンと連動します。

注: eMessage に複数のパーティションを構成するには、それぞれに対応するパーテ ィションを Campaign に構成する必要があります。 eMessage に新しいパーティションを追加するには、eMessage および Campaign の

重要: eMessage および Campaign の構成を変更したら、Campaign をホストする Web アプリケーション・サーバーを再始動し、レスポンスおよびコンタクトのトラ ッカー (RCT) を再始動する必要があります。Campaign リスナーを再始動しなけれ ばならない場合もあります。

変更を加える前に、既存の構成をバックアップしておいてください。

Marketing Platform 構成に変更を加える必要があります。

## eMessage のパーティションの作成手順

eMessage の新しいパーティションを作成する前に、Campaign および eMessage の パーティションに関するすべての 63 ページの『eMessage 内の複数のパーティショ ンに関する要件』を満たしたことを確認します。Marketing Platform の構成には、 eMessage に追加するパーティションと完全に同じ名前を使用する Campaign のパー ティションが存在している必要があります。

eMessage の新規パーティションを作成するには、以下の手順に従います。

- 1. 64 ページの『ステップ: eMessage の新しいパーティションを作成する』
- 2. 65 ページの『ステップ: パーティションの eMessage システム・テーブルを準備 する』
- 3. 68 ページの『ステップ: IBM Unica Hosted Services へのパーティション・アク セスを構成する』
- 4. 69 ページの『ステップ:新規パーティションに対応する Campaign で eMessage を使用可能にする』
- 5. 69 ページの『ステップ:パーティションの RLU の場所を指定する』
- 6. 70ページの『ステップ:システム・コンポーネントを再始動する』
- 7. 71 ページの『ステップ:パーティションの構成および接続をテストする』

#### IBM Unica eMessage のパーティションについて

eMessage のパーティションを作成することで、異なるユーザーのグループごとにデ ータを分離して保護できます。各パーティションは、eMessage の個別のインスタン スとしてユーザーに表示されます。同じシステムに他のパーティションが存在する ことを示すものはありません。各パーティションは、それぞれに固有の構成プロパ ティーのセットを持つため、ユーザーのグループごとに eMessage をカスタマイズ できます。

各パーティション内のユーザーは、そのパーティションに構成されている機能、デ ータ、および顧客テーブルにのみアクセスすることができます。例えば、 partition1 および partition2 という名前のパーティションを作成した場合、 partition1 内で作業している eMessage ユーザーは、partition1 内に構成されて いる顧客テーブルから E メール受信者を選択することはできますが、partition2 内に構成されている E メール受信者を選択することはできません。IBM は、ユー ザーがデータを共有する必要がある場合には、複数のパーティションを作成するこ とを推奨していません。

複数のパーティションで作業する場合は、eMessage のパーティションに固有の特性、および eMessage のパーティションが Campaign のパーティションにどのよう に関係するかを理解する必要があります。また、eMessage の複数のパーティション を作成して構成する際のワークフローを十分に理解する必要もあります。

#### eMessage のパーティションの重要な特性

eMessage に新しいパーティションを作成して構成するときには、以下の点に注意してください。

• eMessage のパーティションを作成する方法は、Campaign のパーティションを作成する方法とは異なります。

eMessage に新しいパーティションを作成するには、Marketing Platform の eMessage 構成プロパティーで使用可能なパーティション・テンプレートを使用し ます。

- 各 eMessage パーティションの名前は、対応する Campaign パーティションの名前と完全に一致している必要があります。
- eMessage に作成する各パーティションは、IBM Unica Hosted Services に接続可 能でなければなりません。

パーティションごとに個別の IBM Unica Hosted Services アカウントを要求する 必要があります。アカウントに関連付けられたユーザー名とパスワードが、IBM Unica から提供されます。eMessage が IBM Unica Hosted Services に接続する際 に、これらのアクセス資格情報を自動的に提供できる Marketing Platform デー タ・ソースを構成する必要があります。

アカウントの要求方法について詳しくは、「IBM Unica eMessage 起動および管理 者ガイド」を参照してください。

## Campaign のパーティションとの関係

eMessage の各パーティションは、Marketing Platform で Campaign に対して作成さ れた特定のパーティションと連動します。Campaign パーティションは、以下を提供 します。

- eMessage システム・テーブルを格納する Campaign スキーマ
- パーティション内の Campaign のファイル構造。これには、eMessage が受信者リ ストを作成および処理するために使用するディレクトリーも含まれます。
- パーティション内での受信者リストの作成、および eMessage の使用可能化に関 連する構成プロパティー

eMessage は、特定のパーティション内の Campaign と連動するため、eMessage と Campaign のパーティション構造が同じ名前を指定していなければなりません。パー ティション名は、完全に一致する必要があります。

## eMessage 内の複数のパーティションに関する要件

eMessage のパーティションの作成および構成を開始する前に、eMessage および Campaign で要件を満たす必要があります。

#### Campaign の要件

eMessage に複数のパーティションを作成するには、Campaign を対象とした以下の 作業を完了する必要があります。

eMessage に作成するパーティションと連動するパーティションを Campaign に作成します。

パーティションの名前を記録します。

- Campaign パーティション内に Campaign システム・テーブルを作成します。
- パーティション内のシステム・テーブルにアクセスするシステム・ユーザーを構成します。

複数のパーティションがある場合は、パーティションごとに固有のシステム・ユ ーザーが必要です。複数のパーティションで同じシステム・ユーザーを使用する ことはできません。

#### eMessage の要件

eMessage 内の複数のパーティションの作成を開始する前に、以下の作業を完了する 必要があります。

• パーティションの IBM Unica Hosted Services アカウントを要求します。

パーティションごとに、個別のアカウントとアクセス権限の資格情報が必要で す。IBM Unica サポートに連絡して、アカウントと資格情報を要求します。詳し くは、「*IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド*」を参照してください。

 パーティションの Campaign スキーマに作成する予定の eMessage システム・テ ーブルにアクセス可能なシステム・ユーザーを作成します。 Campaign パーティション用に作成したシステム・ユーザーを更新して、そのユー ザーも eMessage システム・テーブルにアクセスできるようにすることが可能で す。

## ステップ: eMessage の新しいパーティションを作成する

IBM インストーラーは、初期インストール時に eMessage 構成プロパティーとデフ ォルト・パーティションを登録します。デフォルト・パーティションには、追加パ ーティションを作成するためにコピーできるテンプレートが組み込まれています。

eMessage の新規パーティションを作成するには、次のようにします。

- 「eMessage」>「partitions」>「(partition)」にナビゲートして、パーティション・テンプレートを複製します。
- 2. 新しいパーティションに名前を付けます。

注: eMessage では、作成後のパーティションの削除をサポートしていません。

#### パーティション・テンプレートの識別

「構成」ページでは、デフォルト・パーティションのナビゲーション・ツリーに eMessage パーティション・テンプレートが表示されます。ツリー内でパーティショ ン・テンプレートを識別できるように、パーティション・テンプレートのラベルは 括弧で囲まれた斜体となっています。

#### 新規パーティションの命名

新しいパーティションに名前を付ける際には、以下の制約が適用されます。

- 名前は、ツリー内で兄弟となっているカテゴリー (つまり、同じ親カテゴリーを 共有するカテゴリー)の間で一意でなければなりません。
- パーティション名をピリオドで開始することはできません。さらに、パーティション名に以下の文字を使用することはできません。



注: eMessage は特定のパーティション内の Campaign と連動するため、eMessage と Campaign のパーティションは同じパーティション名を指定していなければなり ません。

## ステップ: パーティションの eMessage システム・テーブルを準備する

eMessage に作成するパーティションごとに、そのパーティションが Campaign スキ ーマ内で使用する eMessageシステム・テーブルを作成してデータを追加し、構成す る必要があります。

パーティションの eMessage システム・テーブルを準備するには、以下のタスクを 行います。

- 1. 『パーティション・スキーマ内の eMessage テーブルの作成とデータの追加』
- 2. 67 ページの『パーティションのシステム・テーブルへの自動アクセスの構成』
- 3. 68ページの『パーティションのシステム・テーブル特性の指定』

## パーティション・スキーマ内の eMessage テーブルの作成とデー タの追加

パーティションの eMessage システム・テーブルを作成してデータを追加するに は、Campaign パーティションがあるデータベースに対して SQL スクリプトを実行 します。 SQL スクリプトについて詳しくは、28 ページの『手動での eMessage システム・ テーブルの作成とデータの追加 (必要な場合)』の参照表でスクリプト名および場所 を確認してください。

1. eMessage システム・テーブルを作成します。

データベース・クライアントで、システム・テーブルを作成 する SQL スクリ プトを Campaign データベースに対して実行します。

2. 作成したテーブルにデータを追加します。

データベース・クライアントを使用して、テーブルにデータを追加 するスクリ プトを Campaign データベースに対して実行します。

## 手動での eMessage システム・テーブルの作成とデータの追加 (必要な場合)

eMessage を使用するためには、Campaign スキーマに追加のシステム・テーブルを 作成し、これらのテーブルに初期データを設定する必要があります。これらのテー ブルを使用するのは、eMessage のみです。

システム・テーブルを自動的に作成するオプションを選択すると、Campaign インス トーラーは、Campaign スキーマで eMessage システム・テーブルを自動的に作成 し、データを追加します。ただし、このオプションを選択しない場合は、eMessage システム・テーブルを手動で作成してデータを追加する必要があります。

データベース・クライアントを使用して、Campaign データベースに対して適切なス クリプトを実行します。ご使用のインストール済み環境に適切なスクリプトを判別 するには、以下の表を参照してください。実行する必要のあるスクリプトは、 Campaign スキーマをホストするデータベースのタイプ、および Campaign テーブル が Unicode 用に構成されているかどうかによって異なります。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

#### eMessage テーブルを作成するスクリプト

IBM では、ローカル環境に eMessage テーブルを作成する ace\_op\_systab スクリ プトを提供しています。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されている場合 は、eMessage インストール済み環境の dd1/unicode ディレクトリーにある適切な スクリプトを見つけます。

Campaign システム・テーブルが Unicode を使用するように構成されていない場合 は、eMessage インストール済み環境の dd1 ディレクトリーにある非 Unicode 用の スクリプトを使用します。
データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ace_op_systab_db2.sql
	システム・テーブルが置かれるユーザー・テーブル・スペースおよびシ ステム一時テーブル・スペースには、それぞれ 16K 以上のページ・サ イズが必要です。
Microsoft SQL	ace_op_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ace_op_systab_ora.sql

#### eMessage テーブルにデータを追加するスクリプト

IBM では、ローカル環境で eMessage テーブルにデータを追加する ace op populate systab スクリプトを提供しています。

#### スクリプトの場所

eMessage インストール済み環境の ddl ディレクトリーにあるデータ追加用のスク リプトを見つけます。IBM で用意しているデータ追加用スクリプトのバージョンは 1 つだけです。これらのスクリプトは、Unicode テーブルまたは非 Unicode テーブ ルのいずれにも使用できます。

注: eMessage インストール・ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内のサ ブフォルダーです。

データ・ソース・	
タイプ	スクリプト名
IBM DB2	ace_op_populate_systab_db2.sql
Microsoft SQL	ace_op_populate_systab_sqlsvr.sql
Server	
Oracle	ace_op_populate_systab_ora.sql

# パーティションのシステム・テーブルへの自動アクセスの構成

eMessage は、Marketing Platform で構成されたシステム・ユーザーを使用して、パ ーティションのシステム・テーブルにアクセスします。このシステム・ユーザーに 追加された Marketing Platform データ・ソースが、必要なアクセス資格情報を提供 します。eMessage システム・テーブルはパーティションの Campaign スキーマ内に 存在するため、Campaign スキーマにアクセスするために作成したシステム・ユーザ ーを使用して、パーティションの eMessage システム・テーブルにアクセスするこ とができます。

eMessage 構成で、パーティションに以下の構成プロパティーを設定し、パーティションの Campaign システム・ユーザーに対して構成したユーザー名およびプラット フォーム・データ・ソースを指定します。

 eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > asmUserForDBCredentials  eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > amDataSourceForDBCredentials

# パーティションのシステム・テーブル特性の指定

eMessage には、パーティションのシステム・テーブルについて説明する情報が必要 です。この情報を提供するには、パーティションの構成プロパティーで以下のプロ パティーを更新します。

- eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > type
- eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > schemaName
- eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcBatchSize
- eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcClassName
- eMessage > partitions > partition [n] < dataSources > systemTables > jdbcURI

構成プロパティーの設定について詳しく学ぶには、各プロパティーの Marketing Platform オンライン・ヘルプを参照してください。

これらの構成プロパティーおよび eMessage の構成についての追加情報は、「IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド」を参照してください。

# ステップ: IBM Unica Hosted Services へのパーティション・アクセスを 構成する

パーティション内の IBM Unica eMessage コンポーネントは、IBM Unica Hosted Services との通信を試みる際に、有効なログイン資格情報を自動的に提供できるようになっていなければなりません。そのためには、Marketing Platform ユーザーに IBM Unica Hosted Services ログイン資格情報を追加する必要があります。このユー ザーは、eMessage システム・ユーザーになります。

IBM Unica Hosted Services 資格情報を格納するプラットフォーム・データ・ソース を、eMessage システム・ユーザーに追加できます。このユーザーは、パーティショ ン内の Campaign システム・テーブルにアクセスするシステム・ユーザーと同じで あっても構いません。

パーティションのシステム・ユーザーを構成するためのステップは、eMessage の初 期インストール時に、最初のパーティションを作成するために従ったステップと同 じです。IBM Unica Hosted Services ログイン資格情報をシステム・ユーザーに追加 する方法について詳しくは、「*IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド*」を参 照してください。

IBM Unica Hosted Services にアクセスするために必要な資格情報は、最初の起動プロセスで IBM から提供されるユーザー名とパスワードです。

重要: 追加するパーティションごとに、個別のユーザー名およびパスワードを IBM に要求する必要があります。

#### IBM Unica Hosted Services にアクセスするシステム・ユーザーの構成

IBM Unica eMessage コンポーネントは、ログイン資格情報の手動入力を必要とせず に、IBM Unica Hosted Services と通信できなければなりません。自動ログインを確 立するには、IBM Unica Marketing Platform に、必要なアクセス資格情報を提供で きるシステム・ユーザーを定義します。

ユーザー管理およびトラブルシューティングを単純にするために、既存のシステム・ユーザーがホスト・サービスおよびローカル・システム・テーブルにアクセス するように変更することができます。複数のシステムに資格情報を提供する単一の システム・ユーザーを構成できます。例えば、Campaign システム・ユーザーの構成 を変更することで、IBM Unica Hosted Services および Campaign スキーマの eMessage システム・テーブルに自動的にアクセスできる単一のユーザーを作成しま す。

IBM Unica Hosted Services にアクセスするために必要な資格情報は、49ページの 『eMessage の起動プロセスの概要』で IBM から提供されるユーザー名とパスワー ドです。使用する資格情報は、IBM の米国のデータ・センターに接続するか、IBM が英国で保守しているデータ・センターに接続するかによって異なります。どちら のデータ・センターを使用するかを決定するには、IBM にご相談ください。

IBM Unica Hosted Services と通信するシステム・ユーザーの構成方法に関する具体 的な情報については、「*IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド*」を参照して ください。

システム・ユーザーおよびデータ・ソースの作成方法に関する一般情報については、「*IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

# ステップ: 新規パーティションに対応する Campaign で eMessage を使 用可能にする

新規パーティションのユーザーが Campaign で eMessage 機能にアクセスできるようにするには、新規パーティションに対応する Campaign パーティションで eMessage を使用可能にする必要があります。例えば、eMessage メール配信タブ は、Campaign 構成で eMessage を使用可能にするまでは、Campaign インターフェ ースに表示されません。

パーティションで eMessage を使用可能にするには、Campaign パーティションに対応する eMessageInstalled 構成プロパティーを更新します。

Marketing Platform 構成で、「Campaign | partitions | partition[n] | server | internal」にナビゲートして、eMessageInstalled プロパティーを yes に設定します。

# ステップ: パーティションの RLU の場所を指定する

eMessage を使用可能にするパーティションごとに、受信者リスト・アップローダー (RLU) の場所を指定する必要があります。

初期インストール時に、IBM インストーラーは自動的に RLU の場所をデフォル ト・パーティション (partition1) の構成に追加します。ただし、新しいパーティショ ンを環境に追加するときには、新しいパーティションのすべてが正しい場所を参照 するように手動で構成する必要があります。eMessage のインストールごとに RLU は 1 つしか存在しないので、すべてのパーティションは、Campaign Web アプリケ ーションをホストするマシンのローカル・ファイル・システムに置かれた同じプラ グイン・ファイルにアクセスします。

 Campaign インストール済み環境の partition1 の構成で、「Campaign」> 「partitions」>「partition1」>「eMessage」>「eMessagePluginJarFile」 にナビゲートします。

このプロパティーの値は、RLU として機能するプラグイン・ファイル (emessageplugin.jar)の絶対パスです。

例: C:¥IBM¥Unica¥eMessage¥plugin¥emessageplugin.jar

- 2. eMessagePluginJarFile プロパティーの値をコピーします。
- 3. 新しいパーティションの eMessagePluginJarFile にナビゲートし、partition1 か らコピーしたパスを入力します。

すべてのパーティションは、RLU に対して同じ場所を使用する必要があります。

# ステップ:システム・コンポーネントを再始動する

Campaign および eMessage の構成を変更した後は、レスポンスおよびコンタクトの トラッカー (RCT) と、Campaign をホストする Web アプリケーション・サーバー を再始動する必要があります。さらに、Campaign リスナーも再始動する必要があり ます。

#### Campaign の Web アプリケーション・サーバーの再始動

再始動手順の説明については、ご使用の Web アプリケーション・サーバーの資料 を参照してください。

サーバーが始動したことを検査するには、IBM Unica Marketing インストール済み 環境にログインし、Campaign にアクセスして、既存のメールを開けることを確認し ます。

#### RCT の再始動

RCT を再始動するには、eMessage ソフトウェア・ダウンロードの一部として提供 されているスクリプトを実行します。

#### 手動による RCT の再始動

RCT を手動で再始動するには、eMessage インストール済み環境の bin ディレクト リーで、以下のようにして rct スクリプトを実行します。

rct start

このスクリプトについて詳しくは、117 ページの『RCT スクリプト』を参照してく ださい。

#### サービスとしての RCT の再始動

RCT を自動的に再始動するには、RCT サービスを再始動する必要があります。

注: RCT サービスを再始動する場合、1 回目は手動で RCT を再始動する必要があります。

Campaign リスナーも必ず再始動してください。

## ステップ:パーティションの構成および接続をテストする

重要: Campaign または eMessage の構成を変更した場合は、作業を開始する前に、 Campaign をホストする Web アプリケーション・サーバーを再始動したことと、レ スポンスおよびコンタクトのトラッカーを再始動したことを確認してください。

eMessage には、パーティションの構成と、その IBM Unica Hosted Services への接 続を検証するために使用できるスクリプトが用意されています。 IBM は、パーテ ィションからのメール配信インターフェースへのアクセスを確認することもお勧め します。

パーティションのテスト方法について詳しくは、「IBM Unica eMessage 起動および 管理者ガイド」を参照してください。

## 複数のパーティションがある場合の IBM Cognos レポートの構成

複数のパーティションで Campaign、eMessage、および Interact、あるいはこれらの いずれかを使用している場合、パーティションごとに IBM Cognos レポート・パッ ケージを構成する必要があります。このプロセスを支援するために、 partition tool.sh というユーティリティーが用意されています。

partition tool.sh ユーティリティーを実行すると、以下のことが行われます。

- 元のレポート zip アーカイブから XML ファイルをコピーします。
- xml ファイル内のパッケージ参照を、指定した新規フォルダーにある新しいパッ ケージの参照に置き換えます。
- 新規ファイルを新しい zip アーカイブに圧縮し、新規パーティション名をファイ ル名の末尾に追加します。

partition\_tool.sh ユーティリティーを実行した後、指定した名前を使って Cognos Connection にフォルダーを作成し、そのフォルダーに新しいアーカイブをインポートします。最後に、元のプロジェクト・ファイル (モデルが含まれるファイル) をコピーします。これで、新規パーティションを指すようにデータ・ソースを変更してから、新しいフォルダーにモデルを発行できます。

このセクションでは、複数のパーティションに対応して IBM Cognos レポートを構成する方法を説明します。

#### 始める前に

レポート・パーティション・ユーティリティーは、partition\_tool.sh という名前 の UNIX シェル・スクリプトです。作業を開始する前に、以下のことを実行してく ださい。

#### 入力パラメーターの値の決定

レポート・パーティション・ツールには、2 つの入力パラメーターがあります。1 つはパーティション・フォルダーの名前、もう 1 つはコピーするレポート・アーカ イブの場所です。

- Cognos で各パーティション最上位のレポート・フォルダーに使用する名前を決定 します。例えば、「Partition2」とします。
- 元のレポート・アーカイブへのパスをメモに記録します。例: IBM¥Unica¥ReportsPacksCampaign¥cognos<*version*>¥Unica Reports for Campaign.zip

# Windows のみ: シェル・スクリプト・シミュレーターを入手します。

IBM Cognos が Windows で稼働している場合、Cygwin などのシェル・スクリプト・シミュレーターをダウンロードしてインストールしてから、そのシミュレーター・インターフェースでスクリプトを実行します。

Cognos Content Manager を実行しているマシンにまだシェル・スクリプト・シミュ レーターがインストールされていない場合は、今の時点でダウンロードしてインス トールしてください。

#### zip ユーティリティーがインストールされていることを確認します。

レポート・パーティション・ツールは、新しいパーティションの zip アーカイブを 作成します。この機能は、Cognos システムに zip ユーティリティーがインストール されていないと使用できません。

Cognos Content Manager を実行しているマシンにまだ zip ユーティリティーがイン ストールされていない場合は、今の時点でダウンロードしてインストールしてくだ さい。

# eMessage レポート・アーカイブ .zip ファイルのコピーを作成す るためのレポート・パーティション・ツールの実行

- シェルまたはシェル・シミュレーターで、 IBM¥Unica¥Platform¥tools¥cognos<*version*>¥bin ディレクトリーにナビゲート します。
- パーティション名およびアーカイブ・パスのパラメーターに値を指定して、ユー ティリティーを実行します。以下に例を示します。

partition\_tool.sh Partition2
"IBM¥Unica¥ReportsPackseMessage¥cognos<version>¥Unica Reports for
eMessage.zip"

注: アーカイブ名のパラメーター値にスペースが含まれる場合、上記の例に示す ように、引用文字を使用して値を囲む必要があります。

- 3. 新しい zip ファイルを Cognos 配置ディレクトリーにコピーします。上記の例に 示したパーティション名を使用した場合、新しい zip ファイルの名前は、Unica Reports for eMessage Partition2.zip となります。
- 4. Cognos Connection を開きます。
- Campaign レポートが複数のパーティション用に構成されている場合、「共有フォルダー (Public Folders)」の下で、このパーティション用に作成したフォルダーの名前を特定します。 Campaign レポートの手順で提案した名前の例を使用した場合、これは「Campaign Partition 2」です。
- 新規 zip アーカイブをインポートし、インポート・ウィザードのステップ 5 で ターゲットの場所として識別したフォルダーを選択します。例えば、「Campaign Partition 2」フォルダーです。

## Cognos モデルのコピーの作成

このタスクでは、新しい eMessage レポート用に IBM Cognos データ・モデルのコ ピーを作成し、そのモデルが正しいデータ・ソース名を参照していることを確認し ます。

- 該当するパーティションの IBM Cognos データ・ソースを作成したことを確認 します。このパーティションのデータ・ソースをまだ作成していない場合は、 「Marketing Platform インストール・ガイド」の『IBM アプリケーション用の Cognos データ・ソースの作成 (Create the Cognos datasource for the Unica application)』で説明している手順を参照してください。
- Framework Manager を使用して、eMessage プロジェクト・ファイルの eMessageModel.cpf を開きます。
- 3. 「名前を付けて保存」を使用して eMessageModel プロジェクトをコピーして、 このコピーを使用するパーティションを示す新しい名前を指定します。例えば、 eMessageModelPartition2 とします。
- 4. 「プロジェクト・ビューアー (Project Viewer)」で、「データ・ソース」ノード を展開し、「eMessageTrackDS」を選択します。 (「プロパティー」ペインがデ フォルトで表示されない場合は、「表示」>「プロパティー」を選択します)。
- 5. 「名前」フィールドをクリックし、値をデフォルトのデータ・ソース (eMessageTrackDS) から、この eMessage パーティションの新しいデータ・ソー ス名 (例えば、eMessageTrackDS\_partition2) に変更します。
- 「Content Manager データ・ソース (Content Manager Datasource)」フィール ドをクリックし、値をデフォルトのデータ・ソース (eMessageTrackDS) から、前 のステップで指定した値 (この例では、eMessageTrackDS\_partition2) に変更し ます。
- 7. 変更を保存します。
- パッケージをコンテンツ・ストアに公開します。公開ウィザードに「場所のタイ プの選択 (Select Location Type)」ウィンドウが表示されたら、前のタスクで Cognos Connection にレポート・アーカイブをインポートしたフォルダーにナビ ゲートし、そのフォルダーを指定します。つまり、「Campaign Partition 2」フォ ルダーです。

# IBM Unica の「構成」ページでのパーティションのレポート・プ ロパティーの更新

パーティションごとに、レポート・フォルダーの場所を指定するレポート・プロパ ティーのセットがあります。これらのプロパティーの大半は、そのパーティション のキャンペーン・レポートが構成されるときに設定されます。ただし、eMessage レ ポート・プロパティーの campaignAnalysisTabEmessageOnDemandFolder について は、フォルダーの実際のパスを反映するように値を編集する必要があります。それ には、新しい最上位のパーティション・フォルダーを識別する文字列を挿入しま す。

Cognos Connection 内の新しいパーティション・フォルダーの名前が「Campaign Partition 2」である場合、以下の文字列を挿入して、パスを修正します。

folder[@name='Campaign Partition 2']/

つまり、値を以下のように変更します。変更前:

/content/folder[@name='Affinium Campaign']/folder[@name='eMessageReports']

変更後:

/content/folder[@name='Campaign Partition 2']/folder[@name='Affinium Campaign']/folder[@name='eMessage Reports']

- 1. IBM Unica Marketing に platform\_admin ユーザーとしてログインします。
- 2. 「設定」>「構成」を選択します。
- 3. 「**Campaign**」>「**partitions**」> *partitionName* >「**reports**」を展開します。
- 4. それぞれの campaignAnalysisTabEmessageOnDemandFolder の値を上記で説明し たように編集して、レポート・フォルダーへの実際のパスを反映させます。

5. 変更を保存します。

# 第9章 Campaign のアップグレード

Campaign をアップグレードする前に、以下の情報をお読みください。

- 『すべての IBM Unica Marketing 製品のアップグレード前提条件』
- 現行バージョン (7.x より前、7.x、または 8.x) に固有のトピック
- eMessage に固有のトピック

重要: バージョン 8.5 からアップグレードする場合、インストール中に「自動デー タベース・セットアップ」を選択しないでください。8.5 より前のバージョンからア ップグレードする場合は、「自動データベース・セットアップ」を選択してくださ い。この設定は、eMessage のシステム・テーブルの作成に影響します。現在インス トールされている Campaign および eMessage のバージョンに合わせて、本書の該 当するセクションに記載されているアップグレード・ステップをすべて行ってくだ さい。Campaign と eMessage のバージョンごとに、必要なアップグレード・ステッ プが異なります。

# すべての IBM Unica Marketing 製品のアップグレード前提条件

どの IBM Unica Marketing 製品をアップグレードする場合にも、4ページの『前提 条件』の下の『インストールの準備』の章でリストされている前提条件すべてを満 たしている必要があります。

それに加えて、このセクションでリストされている前提条件も満たしている必要が あります。

#### 以前のインストールによって生成された応答ファイルの削除

インストーラーを実行して 8.6.0 より前のバージョンからアップグレードを行う前 に、以前のインストールによって生成された応答ファイルをすべて削除する必要が あります。

インストーラーの動作と応答ファイルの形式に変更が加えられているため、以前の 応答ファイルには 8.6.0 以降のインストーラーとの互換性がありません。

以前の応答ファイルを削除しないと、インストーラーの実行時にインストーラー・ フィールドに正しくないデータが事前に取り込まれていたり、あるいは、インスト ーラーによっていくつかのファイルがインストールされなかったり、構成ステップ がスキップされたりする可能性があります。

応答ファイルの名前は installer\_product.properties です。ただし、IBM Unica インストーラー自体のファイルの場合はこれとは異なり、installer.properties と いう名前です。インストーラーは、これらのファイルをインストーラーが置かれて いるディレクトリーに作成します。

#### ユーザー・アカウント要件 (UNIX のみ)

UNIX の場合、製品をインストールしたものと同じユーザー・アカウントがアップ グレードを実行する必要があります。

#### 32 ビットから 64 ビットへのバージョンアップ

32 ビットから 64 ビットに IBM Unica Marketing 製品をバージョンアップする場合、以下の条件が満たされていることを確認してください。

- 製品のデータ・ソースのデータベース・クライアント・ライブラリーも 64 ビッ トである
- 関連するすべてのライブラリー・パス (例えば、開始スクリプトまたは環境スク リプト)が 64 ビット・バージョンのデータベース・ドライバーを正しく参照し ている

#### 知識要件

この指示では、アップグレード実行担当者が以下について理解していることを前提 としています。

- 17ページの『IBM Unica Marketing インストーラーの機能』で説明されている、 IBM Unica インストーラーの基本機能。
- 一般的な IBM Unica Marketing 製品機能およびコンポーネント (ファイル・シス テムの構造を含む)
- ソース製品バージョンおよび新規バージョンのインストールと構成のプロセス
- ソース・システムおよびターゲット・システムでの構成プロパティーの保守
- ・ レポートのインストールと構成のプロセス (そのレポートを使用している場合)

## アップグレードの順序

アップグレードを行う際には、1 つの例外を除いて、6ページの『Marketing Platform の要件』で説明されているものと同じ考慮事項が適用されます。

Interact 8.x ランタイムは、Interact 7.x 配置を実行することができます。したがって、設計環境より前にランタイム環境をアップグレードする必要があります。

Marketing Platform は他の IBM Unica Marketing 製品のアップグレードより前かそ れと同時に正常にアップグレードする必要があることも認識しておいてください。 Marketing Platform を互換性のあるリリースにアップグレードしないと、IBM Unica Marketing 製品をアップグレードすることができません。

# Campaign アップグレード・シナリオ

Campaign のアップグレードに関する以下のガイドラインに従います。

ソース・バージョン	アップグレード・パス
5.1+ または 6.x のいずれ かのバージョン	1. 新しい Campaign のインストールを新しい場所で実行しま す。
	<ol> <li>データ・マイグレーション・スクリプトを実行して、ソー ス・バージョンの Campaign から構成設定、ファイル、およ びデータを移行します。詳しくは、「IBM Unica Campaign データ・マイグレーション・ガイド」を参照してください。</li> </ol>
7.0.x から 7.3.x までのい ずれかのバージョン	<ol> <li>ソース・バージョンに対して Campaign のインプレース・インストールを実行します。現行のインストール済み環境と同じ場所を選択します。これにより、インストーラーは自動的にアップグレード・モードで実行します。</li> </ol>
	<ol> <li>アップグレード・ツールを実行して、Campaignのソース・ バージョンの構成設定、ファイル、およびデータをアップグ レードします。さらに、ソース・バージョンのリリース移行 に導入された構成プロパティーを追加するために、手動によ る構成が必要になる場合があります。</li> </ol>
	3. これらのバージョンの Campaign でのレポートは、Affinium Reports (バージョン 7.0.x から 7.2.x) によって提供されて いました。 Affinium Reports 7.2.1 から IBM Unica Marketing のレポートへのアップグレード・パスはありませ ん。したがって、これらのバージョンの Affinium Campaign からアップグレードした後に、「 <i>IBM Unica Marketing</i> <i>Platform インストール・ガイド</i> 」で説明されている手順に従 って、新規レポートを構成します。
7.5.x または 8.x のいずれ かのバージョン	<ol> <li>ソース・バージョンに対して Campaign のインプレース・インストールを実行します。現行のインストール済み環境と同じ場所を選択します。これにより、インストーラーは自動的にアップグレード・モードで実行します。</li> </ol>
	<ol> <li>アップグレード・ツールを実行して、Campaign のソース・ バージョンの構成設定、ファイル、およびデータをアップグ レードします。さらに、ソース・バージョンのリリース移行 に導入された構成プロパティーを追加するために、手動によ る構成が必要になる場合があります。</li> </ol>
	<ol> <li>「IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド」で 説明されている手順に従って、レポートをアップグレードし ます。</li> </ol>

# eMessage アップグレード・シナリオ

現在インストールされているバージョンの Campaign をアップグレードするとき に、インストーラーはファイル・システムの同じ親フォルダー内に既存の IBM Unica eMessage のインスタンスがあるかどうかを判別します。また、インストーラ ーは、現在インストールされている eMessage のバージョンも判別します。次の例 を考えてみましょう。

- Campaign は現在 C:¥IBM\_Unica¥Campaign にインストールされています。
- インストーラーは、同じ親フォルダー内を調べます。この例の場合、そのフォル ダーは C:¥IBM\_Unica です。
- 前のバージョンの eMessage がインストールされている場合、それは C:¥IBM\_Unica¥eMessage にあります。
- IBM Unica インストーラーは、親フォルダー内に現在存在する Campaign および eMessage のバージョンに応じて、異なる方法でアップグレードを行います。詳し くは、以下のガイドラインを参照してください。

インストーラーは、Campaign アップグレードの一環として自動的に eMessage をイ ンストールまたはアップグレードします。 eMessage を別途アップグレードしない でください。アップグレードが完了すると、eMessage は、Campaign の下にサブフ ォルダーとしてインストールされます (C:¥IBM\_Unica¥Campaign¥eMessage)。

Campaign をアップグレードするときには、eMessage のアップグレードに関する以下のガイドラインに従います。

現在インストールされているも	
Ø	アップグレード・ワークフロー
Affinium Campaign 7.x	Affinium Campaign eMessage 7.x から eMessage 8.x への インプレース・アップグレードは利用できません。
Affinium Campaign eMessage	
7.x	Campaign 7.x から Campaign 8.x にアップグレードする際 の eMessage の使用について詳しくは、83ページの
	『Affinium Campaign eMessage 7.x がインストールされて
	いる場合の Campaign のアップグレード』を参照してくだ
	さい。

現在インストールされているも	
Ø	アップグレード・ワークフロー
Campaign 8.x eMessage は未インストール (Campaign 8.5 より前は、 eMessage のインストールはオ	<ol> <li>現在インストールされているバージョンに対して Campaignのインプレース・インストールを実行しま す。現行のインストール済み環境と同じ場所を選択しま す。これにより、インストーラーはアップグレード・モ ードで実行します。</li> </ol>
フションでした。)	<ul> <li>インストーラーは、アップグレード後の Campaign ディレクトリーに新しい eMessage インストールをサブフォルダーとして作成し、Campaign スキーマ内に eMessage システム・テーブルを作成します。</li> <li>2. 自動データベース・セットアップを選択した場合は、アップグレード・ツールを実行して、現在インストールされている Campaign のバージョンの構成設定、ファイル、およびデータをアップグレードします。</li> <li>3. オプションで、Campaign の現行インスタンスのバック スップの担託を選択します。</li> </ul>
	アッフの場所を選択します。 インストーラーが終了すると、必要なすべての eMessage ファイルはインストールされていますが、eMessage は使用 可能にされていません。eMessage を使用して E メールを 送信するには、IBM に連絡してホストされた E メール・ サブスクリプションを購入する必要があります。
	E メール・サブスクリプションを購入した後の eMessage の構成方法について詳しくは、「 <i>IBM Unica eMessage 起</i> 動および管理者ガイド」を参照してください。
Campaign 8.x eMessage 8.x	<ol> <li>現在インストールされているバージョンに対して Campaignのインプレース・インストールを実行しま す。現行のインストール済み環境と同じ場所を選択しま す。これにより、インストーラーはアップグレード・モ ードで実行します。</li> <li>バージョン 8.5 からアップグレードする場合、イ ンストール中に「自動データベース・セットアップ」を 選択しないで ください。8.5 より前のバージョンから アップグレードする場合は、「自動データベース・セッ トアップ」を選択してください。この設定は、eMessage のシステム・テーブルの作成に影響します。</li> </ol>
	<ol> <li>アップグレード・ツールを実行して、現在インストール されている Campaign バージョンの構成設定、ファイ ル、およびデータをアップグレードします。アップグレ ード・ツールは、必要に応じて eMessage テーブルを更 新します。</li> <li>オプションで、Campaign の現行インスタンスおよび eMessage の現行インスタンスのバックアップの場所を 選択します。</li> <li>すべてのホストされた E メール・アカウントのアカウン ト設定は引き続き有効です。したがって、メール配信を再</li> </ol>
	開するために他に必要なアクションはありません。

## eMessage のアップグレードの準備

eMessage インストール済み環境のアップグレードを予定している場合、eMessage と、IBM が提供するホストされた E メール環境のアップグレードを処理する際に 固有の追加の問題を考慮してください。

アップグレードする前に、オペレーティング・システム、ハードウェアとソフトウ ェア、およびネットワーク・リソースとデータベース・リソースが、eMessage の現 行バージョンを含め、インストールされているすべての IBM Unica Marketing アプ リケーションの現行の要件を満たすことを確認します。具体的な現行の要件につい ては、Customer Central に用意されている「*IBM Unica Campaign Supported Software Environments and Minimum System Requirements*」を参照してください。 eMessage の要件は別のセクションに記載されており、Campaign の要件とは異なる 場合があることに注意してください。

アップグレードの計画には、以下の考慮事項を含めてください。

- 『eMessage アップグレードのスケジューリング』
- 『全受信者リストのアップロードの完了』
- 81 ページの『アップグレード中のアウトバウンド E メール配信について』
- 81ページの『アップグレード中の E メール・レスポンスについて』

#### eMessage アップグレードのスケジューリング

eMessage をアップグレードするためには、システム・コンポーネントを停止し、イ ンターフェースをオフラインにする必要があります。また、アップグレードは IBM Unica Hosted Services との間のデータのアップロードおよびダウンロードに支障を きたします。問題を回避するために、システム上の要求が最小になる時間帯に合わ せてアップグレードをスケジュールしてください。以下に例を示します。

- マーケティング・ユーザーが受信者リストおよび受信者データを更新しなければ ならない時間帯には、アップグレードを避けます。
- 標準メール配信または綿密なモニターを必要とするメール配信をマーケティング・ユーザーが実行する必要がある時間帯には、アップグレードを避けます。
- スケジュールされたメール配信が実行されるように構成されている時間帯には、 eMessage インストール済み環境をアップグレードしないでください。
- IBM Marketing Platform のアップグレード直後に行われるようにアップグレード をスケジュールしてください。
- いつアップグレードを開始する予定であるかを、時間に余裕を持って全ユーザー に事前通知してください。

## 全受信者リストのアップロードの完了

eMessage プロセスが含まれる Campaign フローチャートを実行すると、Campaign が自動的に受信者リスト・データを (出力リスト・テーブル (OLT) として) IBM Unica Hosted Services にアップロードします。ただし、OLT のアップロードが、アップグレード・アクティビティーによって妨げられる可能性があります。

OLT のアップロード問題を回避するために、IBM では、受信者リスト・データを アップロードする必要がない時間帯にアップグレードをスケジュールすることを推 奨しています。eMessage のアップグレードを開始する前に、eMessage プロセスが 含まれる Campaign フローチャートのすべてが実行を完了していることを確認して ください。

進行中の受信者リスト構成作業を維持するには、アップグレードを開始する前に作 業内容を保存し、すべてのローカル・ファイルおよびデータベースをバックアップ します。(メール配信構成は IBM Unica Hosted Services に保存されるため、アップ グレードによる影響を受けません。) 必要なローカル・バックアップの実行につい て詳しくは、84 ページの『Campaign のバックアップ』を参照してください。

## アップグレード中のアウトバウンド E メール配信について

アップグレード中は、eMessage メール配信インターフェースが使用不可になりま す。新しいメール配信を構成または開始することはできません。既に開始したメー ル配信は実行されますが、これらのメール配信をモニター、一時停止、または停止 することはできません。

## アップグレード中の E メール・レスポンスについて

eMessage をアップグレードするには、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を一時的に停止する必要があります。

アップグレード中に、メール・レスポンス・データの可用性に多少の遅延が生じる 場合があります。この情報は失われません。IBM Unica Hosted Services は、RCT が停止されている間、レスポンスおよびコンタクト・データをキューに入れます。 RCT を再始動すると、RCT は累積されたすべての情報をダウンロードします。

アップグレードの間、前のメール配信中に E メールを受信した個人には、その E メールに含まれているリンクの可用性、リンクのクリックに対するレスポンス速 度、または Web サイトの要求に、アップグレード・アクティビティーによる変化 は感じられません。これらの機能は、IBM が IBM Unica Hosted Services で保守さ れるリソースを使用してサポートします。

# 7.x より前のバージョンの Affinium Campaign からのアップグレード

5.1+ または 6.x バージョンの Affinium Campaign には、Campaign へのインプレー ス・アップグレードを利用できません。既存のインストール済み環境とは異なる場 所に新しく Campaign をインストールしてから、データ・マイグレーション・スク リプトをインストールおよび実行して、構成設定、ファイル、およびデータを Affinium Campaign インストール済み環境 (ソース・システム) から Campaign (タ ーゲット・システム) に移行します。アップグレード・ツールは実行しません。

このセクションで詳しく説明するタスクを実行してから、「*Campaign データ・マイ グレーション・ガイド*」で詳しく説明されているデータ・マイグレーションを行っ てください。

## IBM Unica Marketing Platform へのアップグレード

Campaign には、Marketing Platform が必要です。8.x より前のバージョンの Affinium Campaign を IBM Unica Campaign にアップグレードする前に、まず、 Affinium Manager から Marketing Platform へのアップグレードを行う必要がありま す。詳しくは、「*IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド*」を参照し てください。

## 構成設定のエクスポート (オプション)

新しい Campaign インストール済み環境に、前の Campaign インストール済み環境 のいずれかの構成設定が必要な場合は、アップグレードの前に、IBM Unica configTool ユーティリティーを実行して Campaign 構成パラメーターをエクスポー トします。configTool ユーティリティーが作成する exported.xml ファイルの固有 のファイル名と場所を指定し、アップグレード・プロセス後にそのファイルを見つ けられるように、メモに記録します。

configTool ユーティリティーの構文、コマンド、およびオプションについては、 103 ページの『configTool ユーティリティー』を参照してください。

#### Affinium Campaign の登録解除

Marketing Platform の「構成」ページで、構成ツリーに Campaign ノードが存在する かどうかを確認します。存在する場合には、Marketing PlatformconfigTool ユーティ リティーを使用して登録解除することにより、Campaign ノードを構成ツリーから削 除します。

configTool ユーティリティーの構文、コマンド、およびオプションについては、 103 ページの『configTool ユーティリティー』を参照してください。

## インストールの準備

Campaign をインストールする前に、Campaign 環境が以下の要件を満たしているこ とを確認します。さらに、ソース・システムとターゲット・システムのシステム互 換性およびアクセス可能性の要件について、75ページの『すべての IBM Unica Marketing 製品のアップグレード前提条件』を参照してください。

- Campaign のソース・インストールとターゲット・インストールの両方を同時に実行できなければなりません (例えば、新しいバージョンの Campaign を、Web アプリケーション・サーバーの別のインスタンス、または別のドメインで、異なるマシンにインストールします)。
- ソースの Affinium Campaign インストール済み環境に、移行対象とする複数のパ ーティションがある場合、Campaign に同じ数のパーティションが存在する必要が あります。移行プロセスでは、新しいパーティションが自動的に Campaign に作 成されることはありません。ソース・システムのデータをターゲット・システム にマイグレーションする前に、これらのパーティションを作成します。

## IBM Unica Campaign のインストール、配置、および構成

Campaign をインストール、配置、および構成するには、このガイドの手順に従って ください。インストール中にインストールの場所を求めるプロンプトが出された ら、インストーラーが自動的に新規インストールを実行できるように、ソースの Campaign システムとは異なる場所を選択します。

#### 構成設定のインポート (オプション)

Campaign をインストールした後、「構成」ページでデフォルトの Campaign 構成設 定を受け入れるか、必要に応じて設定を変更することができます。Affinium Campaign のソース・バージョンでのいずれかの設定を使用する場合、ソース・バー ジョンからエクスポートした構成パラメーターが含まれる XML ファイルを参照し て、必要な設定を取得します。

「構成」ページで構成の変更を手動で入力するか、configTool ユーティリティーを 使用して設定をインポートすることができます。大量の値を変更する必要がある場 合は、configTool ユーティリティーの使用を検討してください。

「構成」ページの使用についての詳細は、「IBM Unica Marketing Platform 管理者 ガイド」を参照してください。

configTool ユーティリティーの使用についての詳細は、103ページの『configTool ユーティリティー』を参照してください。

# IBM Unica Campaign へのデータのマイグレーション

Campaign のインストール、配置、および構成を完了し、データ・マイグレーショ ン・ユーティリティーをインストールした後、Affinium Campaign のソース・バー ジョンから Campaign のターゲット・インストール済み環境にデータを移行しま す。データ・マイグレーション・タスクの実行について詳しくは、「*Campaign デー* タ・マイグレーション・ガイド」を参照してください。

## Campaign 7.x バージョンからのアップグレード

Campaign 7.x バージョンを新しいバージョンの Campaign にアップグレードするに は、このセクションで詳しく説明しているタスクを実行します。

# Affinium Campaign eMessage 7.x がインストールされている場 合の Campaign のアップグレード

Affinium Campaign eMessage 7.x から IBM Unica eMessage 8.x へのインプレース・アップグレードは利用できません。

最初に IBM Unica Marketing へのアップグレードを開始して、IBM Unica インスト ーラーがターゲット・インストール・ディレクトリーに Affinium Campaign eMessage 7.x がインストールされていることを検出した場合には、アップグレード を続行できなくなります。

現行の eMessage 7.x のメール配信に対する受信者レスポンスの収集および管理を続けるには、引き続き eMessage 7.x インストール済み環境を運用する必要があります。

現在 eMessage 7.x を使用している場合には、以下のオプションがあります。

Affinium Campaign eMessage 7.x をアンインストールして、Campaign をアップグレードします。

**重要:** eMessage をアンインストールすると、現行の eMessage 7.x のデータ、構成、およびメール配信のすべてが削除されます。

• IBM と協力して、eMessage 7.x インストール済み環境を新しい eMessage 8.x インストール済み環境に移行するための戦略を考案します。

IBM と協力して Affinium Campaign eMessage 7.x を IBM Unica eMessage 8.x に 移行するには、製品技術サポートにお問い合わせください。コンタクト情報につい ては、121ページの『IBM Unica 技術サポートへの連絡』を参照してください。

## 構成設定のエクスポート (オプション)

新しい Campaign インストール済み環境に、前の Campaign インストール済み環境 のいずれかの構成設定が必要な場合は、アップグレードの前に、IBM Unica configTool ユーティリティーを実行して Campaign 構成パラメーターをエクスポー トします。configTool ユーティリティーが作成する exported.xml ファイルの固有 のファイル名と場所を指定し、アップグレード・プロセス後にそのファイルを見つ けられるように、メモに記録します。

configTool ユーティリティーの構文、コマンド、およびオプションについては、 103 ページの『configTool ユーティリティー』を参照してください。

# Campaign のバックアップ

Campaign のアップグレード・インストールを開始する前に、必ず以下の情報をバッ クアップしてください。

1. Campaign インストール・ディレクトリーと、(インストールされている場合) eMessage インストール・ディレクトリーをバックアップします。

Campaign のアップグレード・プロセスでは、Campaign と eMessage の両方を実 行するために必要なファイルがすべてインストールされます。さらに、既存の eMessage インストール済み環境がある場合は、そのインストール済み環境も Campaign と一緒にアップグレードされます。

IBM Unica インストーラーは、アップグレード・プロセス中にインストール済み ファイルのバックアップを自動的に行うためのオプションも提示することに注意 してください。その時点でバックアップ・ステップを手動で行うか、インストー ル中に自動的に行うか、あるいはその両方を行うことができます。

2. 既存の Campaign インストール済み環境および eMessage (インストールされて いる場合) が使用するシステム・テーブル・データベースをバックアップしま す。

データのバックアップを作成する手順については、ご使用のデータベースの資料 を参照してください。

これらのバックアップ・ステップを完了すると、アップグレード・プロセス中に問 題が発生した場合に、既知の作動状態に復元する手段が用意されることになりま す。

## Campaign の配置解除

アップグレードを開始する前に、アップグレードするシステム上にある Campaign.war ファイルの既存のロックがすべて解除されるように Web アプリケー ション・サーバーを構成します。これにより、アップグレードによって新しいバー ジョンの Campaign が Marketing Platform に登録されます。

- 1. Web アプリケーション・サーバーの指示に従って、Campaign.war ファイルを配 置解除し、すべての変更を保存するかアクティブにします。
- 2. Campaign を配置解除した後、Web アプリケーション・サーバーをシャットダウ ンして再始動し、Campaign.war のロックが解除されていることを確認します。

## メモリーからの未使用ファイルのアンロード (AIX のみ)

AIX にインストールする場合、インストーラーをアップグレード・モードで実行す る前に、AIX インストールに組み込まれている slibclean コマンドを実行して、メ モリーから未使用のライブラリーをアンロードします。この目的のためには、root として slibclean コマンドを実行しなければならないことに注意してください。

## Campaign アップグレードのインストール

Campaign にアップグレードをインストールするには、23ページの『ステップ: IBM Unica インストーラーを実行する』の指示に従ってください。

インストールの場所を求めるプロンプトが出されたら、既存の Campaign インスト ール・ディレクトリーの親ディレクトリーを指定します。指定した親ディレクトリ ーの下の Campaign フォルダーに、ソフトウェアがインストールされます (例え ば、parent\_directory¥Campaign)。

インストーラーは、Campaign の既存のバージョンを検出し、アップグレードを確認 するよう求めるプロンプトを出します。アップグレードを確認すると、インストー ラーは自動的にアップグレード・モードでインストールを実行します。

アップグレードのインストールによって、既存の登録情報が、新しいバージョンの Campaign に合わせて更新されます。

#### Web アプリケーション・サーバーへの Campaign の再配置

新しくインストールしたバージョンの Campaign を Web アプリケーション・サー バーに再配置します。完了したら、Campaign リスナー (サーバーとも呼ばれる) を 必ず再始動してください。手順については、35ページの『第 5 章 Campaign Web アプリケーションの配置』を参照してください。

## SQL アップグレード・スクリプトの確認と、必要に応じた変更

Campaign をアップグレードするには、データベースの SQL アップグレード・スク リプトを変更しなければならない場合があります。以下の 2 つの事例では、変更が 必要です。

 Campaign に組み込まれているデフォルトのデータ定義言語 (DDL) スクリプトを 変更した Campaign システム・テーブルに対するカスタマイズ (例えば、カスタ ム・オーディエンス・レベルや、フィールド名の変更) が Campaign 環境に含ま れる場合、そのカスタマイズに合わせてデータベースのデフォルト SQL アップ グレード・スクリプトを変更する必要があります。

8.x より前のソース・バージョンの場合のみ: Campaign は、テキストのカスタム・キャンペーン属性の値を、UA\_CampAttribute テーブルの StringValue 列に保管します。デフォルトでは、この列は varchar(1024) に設定されます。Campaign バージョン 7.5.x 以前では、このような文字列のキャンペーン属性は、UA\_CampaignExtAttr テーブルにさらに列を追加して保管されていました。Campaign のソース・バージョンで、UA\_CampaignExtAttr テーブルに 1024 バイトを超えるカスタム属性が含まれる場合、これらの属性を変更するか、データが収まるように UA\_CampAttribute テーブルの StringValue 列を変更する必要があります。

重要: インストールに必要なこれらの変更は、Campaign アップグレード・ツールを 実行する前にすべて完了しておかなければなりません。

アップグレード・スクリプトは、アップグレード・ツールをインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.x ディレクトリーにインストールされます。データ ベース・タイプに応じた適切なスクリプトを使用してください。

• ac\_upgrade\_db2.sql — DB2 アップグレード・スクリプト (非 Unicode)

ac\_upgrade\_db2\_unicode.sql — DB2 アップグレード・スクリプト (Unicode)

• ac\_upgrade\_oracle.sql — Oracle アップグレード・スクリプト (非 Unicode)

ac\_upgrade\_oracle\_unicode.sql — Oracle アップグレード・スクリプト (Unicode)

• ac\_upgrade\_sqlsvr.sql — MS SQL Server アップグレード・スクリプト (非 Unicode)

ac\_upgrade\_sqlsvr\_unicode.sql — MS SQL Server アップグレード・スクリプ ト (Unicode)

#### SQL アップグレード・スクリプトに対する変更の例

以下の 2 つの例で、それぞれのシナリオで SQL アップグレード・スクリプトに対して行う必要がある変更を説明します。

#### 例 1: オーディエンス・レベルに関連付けられたフィールド名の変更

既存の Campaign 環境で、UA\_ContactHistory テーブルの CustomerID フィールドが ID に変更されています。

このフィールド名の変更に対応するには、アップグレード・スクリプト内のすべての CustomerID の出現箇所を ID に変更する必要があります。

#### 例 2: 追加オーディエンス・レベル

既存の Campaign 環境に、Household という名前の追加オーディエンス・レベルが 含まれています。このオーディエンス・レベルをサポートするために、データベー スに HH\_ContactHistory、HH\_ResponseHistory および HH\_DtlContactHist という 名前のテーブルがあります。 1 次キーは HouseholdID です。 Household オーディエンス・レベルを新しい Campaign インストール済み環境でサ ポートするには、Customer オーディエンス・レベルのレスポンス履歴および処理サ イズを更新する SQL アップグレード・スクリプト内のコードを見つけ、Household オーディエンス・レベルに複製します。これらのステートメント内のテーブル名 を、Household オーディエンス・レベルで適切な名前に変更し、CustomerID へのす べての参照を HouseholdID に変更します。

以下のサンプル SQL ステートメントは、Household オーディエンス・レベルが含ま れる、SQL Server データベースの ac\_upgrade\_sqlsvr.sql スクリプトで必要な追 加を示しています。 Household オーディエンス・レベルをサポートするように変更 されているテキストは太字で示されています。

```
-- ResponseHistory update "template"
ALTER TABLE HH_ResponseHistory ADD DirectResponse int NULL
go
```

-- Update the treatment sizes

```
update ua_treatment
set treatmentsize=(select count(DISTINCT HouseholdID)
from HH_ContactHistory
where HH_ContactHistory.CellID = ua_treatment.CellID
AND HH_ContactHistory.PackageID = ua_treatment.PackageID
and ua_treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua_treatment.HasDetailHistory = 0)
```

where exists

```
(select * from hh_contacthistory
where hh_contacthistory.CellID = ua_treatment.CellID
AND hh_contacthistory.PackageID = ua_treatment.PackageID
and ua_treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua_treatment.HasDetailHistory = 0)
go
```

```
update ua_treatment
set treatmentsize=(select count(DISTINCT HouseholdID)
from HH_DtlContactHist
where HH_DtlContactHist.TreatmentInstID = ua_treatment.TreatmentInstID
and ua_treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua_treatment.HasDetailHistory = 1)
```

where exists

```
(select * from hh_dtlcontacthist
  where hh_dtlcontacthist.TreatmentInstID = ua_treatment.TreatmentInstID
  and ua_treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua_treatment.HasDetailHistory = 1)
go
```

データベース表およびオーディエンス・レベルの管理について詳しくは、 「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

#### 環境変数の設定

setenv ファイルを編集して、アップグレード・ツールに必要な環境変数を設定しま す。 UNIX では setenv.sh という名前、Windows では setenv.bat という名前の このファイルは、アップグレード・ツールをインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.6 ディレクトリーにあります。

1. 任意のテキスト・エディターを使用して setenv ファイルを開きます。

UNIX では setenv.sh という名前、Windows では setenv.bat という名前のこ のファイルは、アップグレード・ツールをインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.6 ディレクトリーにあります。

2. setenv ファイル自体に含まれる指示のコメントに従って、インストールに関連 する値を入力します。

すべての Campaign アップグレードで、以下の変数を設定する必要があります。

必須変数	説明
JAVA_HOME	Campaign インストールによって使用される JDK のルート・ディレクトリー。
	WebLogic 10gR3 以上では JDK1.6 を使用す るため、JAVA_HOME パスに JDK1.6 を指定す る必要があります。JAVA_HOME に JDK1.6 以 外のものを指定すると、アップグレード・ツ ール・ユーティリティーが失敗します。
JDBCDRIVER_CLASSPATH	.jar ファイルを含む JDBC ドライバーの絶対 パス。
	Weblogic および WebSphere の場合、どちら もこのパスに .jar ファイルを含める必要が あります。
	DB2 9.1 の場合、db2jcc.jar および db2jcc_license_cu.jar を指定する必要があ ります。
IS_WEBLOGIC_SSL	ターゲット・システム・テーブルに Weblogic
BEA_HOME_PATH	サーバーを介して接続し、SSL を使用してい る場合、IS_WEBLOGIC_SSL=YES を設定してか
SSL_TRUST_KEYSTORE_FILE_PATH	ら、BEA_HOME_PATH および SSL_TRUST_KEYSTORE_FILE_PATH を設定する 必要があります。詳しくは、setenv ファイ ル内の指示を参照してください。

このほかにも、多くの設定可能な変数があります。例えば、Unicode スクリプト を実行するには、IS\_UNICODE\_SCRIPT = Y を設定します。他のすべての値につい て、setenv ファイル内の指示に従います。

## アップグレード・ツールを実行するために必要な情報の収集

acUpgradeTool を実行する前に、Campaign インストール済み環境に関する以下の情報を収集します。

- UNICA\_PLATFORM\_HOME のディレクトリー・パス
- CAMPAIGN HOME のディレクトリー・パス
- 複数のパーティションをアップグレードする場合は、アップグレードするパーティションの名前
- ターゲット Campaign システムの接続情報 (URL およびポート)
- ・ 接続タイプ (WebLogic または JDBC) および JAR ファイルの場所

- JDBC ドライバーの Java クラス名
- JDBC URL
- JDBC ドライバーに必要な追加プロパティー (ある場合)
- ターゲット・システム・テーブル・データベースのユーザー名とパスワード
- ターゲット・システム・テーブルのカタログ (またはデータベース)
- ターゲット・システム・テーブルのスキーマ
- アップグレード前の Campaign のバージョン
- Campaign 構成ファイル (campaign\_configuration.xml) の絶対パスまたは相対パス。このファイルは、Campaign インストール済み環境の conf ディレクトリーにあります。

## アップグレード・ログについて

アップグレード・ツールを実行すると、処理の詳細、警告、またはエラーがログ・ ファイルに書き込まれます。

デフォルトでは、ログは ac\_upgrade.log という名前で、Campaign インストール・ ディレクトリーの logs ディレクトリーに置かれます (例えば、/IBM/Unica/ Campaign/logs/ac\_upgrade.log)。

ログの場所と詳細レベルは、アップグレード・ツールと同じディレクトリーにある setenv スクリプト・ファイルで指定されます。アップグレード・ツールを実行する 前に、このスクリプト・ファイルを必要に応じて変更できます。アップグレード・ ログで警告およびエラーを確認し、すべてのエラーを修正してから、アップグレー ドを完了します。

注: 同じ場所には、CHRH.log も生成されます。このログ・ファイルは、サイズが 0 KB なので、無視して構いません。

## パーティションのアップグレードについて

複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに対してアップグ レード・ツールを 1 回実行します。

#### アップグレード・ツールの実行

アップグレード・ツールに必要な環境に関する情報を使用して setenv ファイルを カスタマイズします (この作業をまだ行っていない場合)。詳しくは、87ページの 『環境変数の設定』を参照してください。

また、アップグレード・ツールを実行するシステムに、アップグレード・ツールを インストールする必要もあります。セットアップが分散されている場合、これらの ツールを、Campaign Web アプリケーションがインストールされているシステムに インストールする必要があります。

Campaign のインストール処理中に、インストーラーが表示する、インストールする コンポーネントのチェックリストに、「アップグレード・ツール」がリストされて いました。インストール中にそのオプションを選択しなかった場合、以下の手順に 従う前に、「アップグレード・ツール」オプションのみを選択してインストーラー を再実行することで、アップグレード・ツールをインストールできます。 Campaign の新しいバージョンを再配置した後、アップグレード・ツールを実行して、Campaign システム・テーブルを更新する必要があります。複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに合わせてアップグレード・ツールを構成し、各パーティションに対して1回実行する必要があります。

重要: Campaign システム・テーブルのデータ・ソース用の該当するデータベース・ クライアント実行可能プログラム (db2、osql、または sqlplus) は、アップグレー ド・ツールを実行するユーザーの PATH パスからアクセス可能でなければなりませ ん。

- 1. アップグレード・ツールを実行する前に、以下の手順を完了します。
  - a. ターゲット・システムの Web アプリケーション・サーバーおよび IBM Unica Marketing Web アプリケーションを始動します。
  - b. 以下のサーバーをシャットダウンします。
    - ソース・システムとターゲット・システム上の Campaign リスナー
    - ソース・システムとターゲット・システム上の UDI サーバー
- 2. Campaign をインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.x ディレクト リー (8.x は、現在アップグレードしているターゲットのバージョン) にある、 アップグレード・ツール (acUpgradeTool) を実行します。

要求される情報をプロンプトで入力し、新規バージョンの Campaign 用にシステ ム・テーブルをアップグレードします。

ツールが正常に完了したら、アップグレード・プロセスは完了です。

アップグレード・ツールの実行中にメモリー・エラーが表示された場合は、setenv ファイルでさらに大きい Java ヒープ・メモリー・サイズを (JAVA\_OPTIONS 環境 変数に) 指定してから、ツールの実行を再試行します。詳しくは、87ページの『環 境変数の設定』を参照してください。

# Campaign システム・ユーザー・パスワードの再入力

アップグレード・ツールを実行した後、Campaign サーバーを始動する前に、 UA\_SYSTEM\_TABLES データ・ソースにアクセスするための Campaign システム・ユー ザーの既存のパスワードを再入力する必要があります。これは、システム・テーブ ルが自動的にマッピングを行うために必要です。Campaign システム・ユーザーのパ スワードを再入力しないと、データベース認証が失敗し、アップグレード後にシス テム・テーブルを手動でマップしなければならないことになります。

Campaign システム・ユーザーのパスワードは、Marketing Platform の「ユーザー」 ページで再入力します。Campaign システム・ユーザーは、「構成」ページの Campaign > partitions > partition[n]> dataSources > UA\_SYSTEM\_TABLES デー タ・ソースの ASMUserForDBCredentials プロパティーに指定されています。

## Campaign 8.x バージョンからのアップグレード

Campaign バージョン 8.x インストール済み環境からのアップグレードは、常にイ ンプレース・アップグレードと見なされます。インプレース・アップグレードで は、現行のインストール済み環境と同じディレクトリーにインストールする必要が あります。8.x のいずれかのバージョンのインストール済み環境を新しいバージョン の Campaign にアップグレードするには、ここで説明する手順に従います。

## eMessage および Campaign のアップグレードについて

注: ホストされた E メールの送信に eMessage を使用しない場合は、このセクショ ンをスキップしてもかまいません。

#### 現在 eMessage 8.x を使用している場合

バージョン 8.5 からアップグレードする場合、インストール中に「自動データベー ス・セットアップ」を選択しないで ください。8.5 より前のバージョンからアップ グレードする場合は、インストール中に「自動データベース・セットアップ」を選 択してください。この設定は、eMessage のシステム・テーブルの作成に影響しま す。アップグレード・インストーラーが完了したなら、次の主要なステップとし て、SQL アップグレード・スクリプトを変更して(必要な場合)アップグレード・ ツール (acUpgradeTool)を実行します。このガイドに記載されているステップをす べて行ってください。

アップグレード・インストーラーの実行後、eMessage は引き続き使用可能にされる ため、アップグレードによって、現行のホストされた E メール・アカウント設定や eMessage システム・テーブルが影響されることはありません。アップグレードに eMessage システム・テーブルに対する変更が含まれる場合には、IBM がスキー マ・アップグレード・スクリプトを提供します。

他のバージョンの Campaign および eMessage について詳しくは、77 ページの 『eMessage アップグレード・シナリオ』を参照してください。

# 現在 eMessage を使用していないが、アップグレード後に使用を開始する予定の場合

現在 eMessage を使用していない場合、IBM Unica インストーラーは、アップグレ ード後の Campaign ディレクトリーに、新しい eMessage インストールをサブフォ ルダーとして作成します。アップグレード時に「自動 DB セットアップ」を選択し なかった場合は、eMessage システム・テーブルの作成とテーブルへのデータの追加 を行う必要があります。eMessage テーブルの作成について詳しくは、27 ページの 『ステップ: 手動で Campaign システム・テーブルを作成してデータを追加する (必 要な場合)』を参照してください。

アップグレード・インストーラーを実行したら、27ページの『第 4 章 配置前の Campaign の構成』で説明されている、eMessage に関連する配置前の構成手順に従います。

eMessage は、ホストされた E メールのサブスクリプションを購入して、ホストさ れた E メールの起動プロセスを完了するまで、使用可能になりません。ホストされ た E メール・アカウントの構成、およびホストされた E メールを送信するための eMessage の使用の開始に必要な手順を完了する方法について詳しくは、「IBM Unica eMessage 起動および管理者ガイド」を参照してください。

## 構成設定のエクスポート (オプション)

新しい Campaign インストール済み環境に、前の Campaign インストール済み環境 のいずれかの構成設定が必要な場合は、アップグレードの前に、IBM Unica configTool ユーティリティーを実行して Campaign 構成パラメーターをエクスポー トします。configTool ユーティリティーが作成する exported.xml ファイルの固有 のファイル名と場所を指定し、アップグレード・プロセス後にそのファイルを見つ けられるように、メモに記録します。

configTool ユーティリティーの構文、コマンド、およびオプションについては、 103 ページの『configTool ユーティリティー』を参照してください。

# Campaign のバックアップ

Campaign のアップグレード・インストールを開始する前に、必ず以下の情報をバックアップしてください。

1. Campaign インストール・ディレクトリーと、(インストールされている場合) eMessage インストール・ディレクトリーをバックアップします。

Campaign のアップグレード・プロセスでは、Campaign と eMessage の両方を実 行するために必要なファイルがすべてインストールされます。さらに、既存の eMessage インストール済み環境がある場合は、そのインストール済み環境も Campaign と一緒にアップグレードされます。

IBM Unica インストーラーは、アップグレード・プロセス中にインストール済み ファイルのバックアップを自動的に行うためのオプションも提示することに注意 してください。その時点でバックアップ・ステップを手動で行うか、インストー ル中に自動的に行うか、あるいはその両方を行うことができます。

 既存の Campaign インストール済み環境および eMessage (インストールされて いる場合) が使用するシステム・テーブル・データベースをバックアップしま す。

データのバックアップを作成する手順については、ご使用のデータベースの資料 を参照してください。

これらのバックアップ・ステップを完了すると、アップグレード・プロセス中に問 題が発生した場合に、既知の作動状態に復元する手段が用意されることになりま す。

## レスポンスおよびコンタクトのトラッカーの停止

現在 eMessage を使用している場合に限り必要です。

IBM Unica eMessage を使用している場合、アップグレードを開始する前に、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を停止する必要があります。RCT をサービスとして登録した場合は、そのサービスを停止する必要があります。

注: アップグレード完了後に RCT を再始動する必要があります。 RCT または RCT サービスは、アップグレード後に自動的に再始動しません。

#### 手動による RCT の停止

rct スクリプトを実行して、RCT を停止します。このスクリプトは、eMessage インストール済み環境の bin ディレクトリーにあります。このスクリプトを以下のように実行します。

rct stop

このスクリプトについて詳しくは、117 ページの『RCT スクリプト』を参照してく ださい。

#### サービスとして登録された RCT の停止

サービスとしての RCT を削除すると、アップグレード中にオペレーティング・シ ステムを再始動するときに、RCT が自動的に再始動しなくなります。

サービスの管理用にオペレーティング・システムに用意されているコマンドを使用 して、RCT サービスを停止してください。

## Campaign の配置解除

アップグレードを開始する前に、アップグレードするシステム上にある Campaign.war ファイルの既存のロックがすべて解除されるように Web アプリケー ション・サーバーを構成します。これにより、アップグレードによって新しいバー ジョンの Campaign が Marketing Platform に登録されます。

- 1. Web アプリケーション・サーバーの指示に従って、Campaign.war ファイルを配 置解除し、すべての変更を保存するかアクティブにします。
- 2. Campaign を配置解除した後、Web アプリケーション・サーバーをシャットダウ ンして再始動し、Campaign.war のロックが解除されていることを確認します。

#### メモリーからの未使用ファイルのアンロード (AIX のみ)

AIX にインストールする場合、インストーラーをアップグレード・モードで実行す る前に、AIX インストールに組み込まれている slibclean コマンドを実行して、メ モリーから未使用のライブラリーをアンロードします。この目的のためには、root として slibclean コマンドを実行しなければならないことに注意してください。

## Campaign アップグレードのインストール

Campaign にアップグレードをインストールするには、23ページの『ステップ: IBM Unica インストーラーを実行する』の指示に従ってください。

インストールの場所を求めるプロンプトが出されたら、既存の Campaign インスト ール・ディレクトリーの親ディレクトリーを指定します。指定した親ディレクトリ ーの下の Campaign フォルダーに、ソフトウェアがインストールされます (例え ば、parent\_directory¥Campaign)。

インストーラーは、Campaign の既存のバージョンを検出し、アップグレードを確認 するよう求めるプロンプトを出します。アップグレードを確認すると、インストー ラーは自動的にアップグレード・モードでインストールを実行します。 アップグレードのインストールによって、既存の登録情報が、新しいバージョンの Campaign に合わせて更新されます。

## Web アプリケーション・サーバーへの Campaign の再配置

新しくインストールしたバージョンの Campaign を Web アプリケーション・サー バーに再配置します。完了したら、Campaign リスナー (サーバーとも呼ばれる) を 必ず再始動してください。手順については、35ページの『第 5 章 Campaign Web アプリケーションの配置』を参照してください。

#### レスポンスおよびコンタクトのトラッカーの再始動

eMessage を使用する場合は、アップグレード後にレスポンスおよびコンタクトのト ラッカー (RCT) を再始動する必要があります。

#### 手動による RCT の再始動

RCT を手動で再始動するには、rct start コマンドを使用します。 RCT スクリプトは、eMessage インストール済み環境の bin ディレクトリーにあります。詳しくは、117ページの『RCT スクリプト』を参照してください。

#### サービスとしての RCT の再始動

RCT がインストールされているマシンのオペレーティング・システムを再始動する たびに RCT を再始動するには、RCT をサービスとして追加します。手順について は、118 ページの『MKService\_rct スクリプト』を参照してください。

注: RCT をサービスとして再始動する場合、1 回目は手動で RCT を再始動する必要があります。

## SQL アップグレード・スクリプトの確認と、必要に応じた変更

Campaign をアップグレードするには、データベースの SQL アップグレード・スク リプトを変更しなければならない場合があります。以下の 2 つの事例では、変更が 必要です。

- Campaign に組み込まれているデフォルトのデータ定義言語 (DDL) スクリプトを 変更した Campaign システム・テーブルに対するカスタマイズ (例えば、カスタ ム・オーディエンス・レベルや、フィールド名の変更) が Campaign 環境に含ま れる場合、そのカスタマイズに合わせてデータベースのデフォルト SQL アップ グレード・スクリプトを変更する必要があります。
- 8.x より前のソース・バージョンの場合のみ: Campaign は、テキストのカスタム・キャンペーン属性の値を、UA\_CampAttribute テーブルの StringValue 列に保管します。デフォルトでは、この列は varchar(1024) に設定されます。Campaign バージョン 7.5.x 以前では、このような文字列のキャンペーン属性は、UA\_CampaignExtAttr テーブルにさらに列を追加して保管されていました。Campaign のソース・バージョンで、UA\_CampaignExtAttr テーブルに 1024 バイトを超えるカスタム属性が含まれる場合、これらの属性を変更するか、データが収まるように UA\_CampAttribute テーブルの StringValue 列を変更する必要があります。

重要: インストールに必要なこれらの変更は、Campaign アップグレード・ツールを 実行する前にすべて完了しておかなければなりません。

アップグレード・スクリプトは、アップグレード・ツールをインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.x ディレクトリーにインストールされます。データ ベース・タイプに応じた適切なスクリプトを使用してください。

• ac\_upgrade\_db2.sql — DB2 アップグレード・スクリプト (非 Unicode)

ac\_upgrade\_db2\_unicode.sql — DB2 アップグレード・スクリプト (Unicode)

• ac\_upgrade\_oracle.sql — Oracle アップグレード・スクリプト (非 Unicode)

ac\_upgrade\_oracle\_unicode.sql — Oracle アップグレード・スクリプト (Unicode)

• ac\_upgrade\_sqlsvr.sql — MS SQL Server アップグレード・スクリプト (非 Unicode)

ac\_upgrade\_sqlsvr\_unicode.sql — MS SQL Server アップグレード・スクリプ ト (Unicode)

#### SQL アップグレード・スクリプトに対する変更の例

以下の 2 つの例で、それぞれのシナリオで SQL アップグレード・スクリプトに対して行う必要がある変更を説明します。

#### 例 1: オーディエンス・レベルに関連付けられたフィールド名の変更

既存の Campaign 環境で、UA\_ContactHistory テーブルの CustomerID フィールドが ID に変更されています。

このフィールド名の変更に対応するには、アップグレード・スクリプト内のすべての CustomerID の出現箇所を ID に変更する必要があります。

#### 例 2: 追加オーディエンス・レベル

既存の Campaign 環境に、Household という名前の追加オーディエンス・レベルが 含まれています。このオーディエンス・レベルをサポートするために、データベー スに HH\_ContactHistory、HH\_ResponseHistory および HH\_DtlContactHist という 名前のテーブルがあります。 1 次キーは HouseholdID です。

Household オーディエンス・レベルを新しい Campaign インストール済み環境でサ ポートするには、Customer オーディエンス・レベルのレスポンス履歴および処理サ イズを更新する SQL アップグレード・スクリプト内のコードを見つけ、Household オーディエンス・レベルに複製します。これらのステートメント内のテーブル名 を、Household オーディエンス・レベルで適切な名前に変更し、CustomerID へのす べての参照を HouseholdID に変更します。

以下のサンプル SQL ステートメントは、Household オーディエンス・レベルが含ま れる、SQL Server データベースの ac\_upgrade\_sqlsvr.sql スクリプトで必要な追 加を示しています。 Household オーディエンス・レベルをサポートするように変更 されているテキストは太字で示されています。

```
-- ResponseHistory update "template"
ALTER TABLE HH ResponseHistory ADD DirectResponse int NULL
qo
-- Update the treatment sizes
update ua treatment
set treatmentsize=(select count(DISTINCT HouseholdID)
 from HH_ContactHistory
where HH ContactHistory.CellID = ua treatment.CellID
 AND HH_ContactHistory.PackageID = ua treatment.PackageID
 and ua treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua treatment.HasDetailHistory = 0)
where exists
(select * from hh contacthistory
where hh contacthistory.CellID = ua treatment.CellID
AND hh_contacthistory.PackageID = ua_treatment.PackageID
and ua treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua treatment.HasDetailHistory = 0)
qo
update ua treatment
set treatmentsize=(select count(DISTINCT HouseholdID)
 from HH DtlContactHist
where HH_DtlContactHist.TreatmentInstID = ua treatment.TreatmentInstID
and ua_treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua_treatment.HasDetailHistory = 1)
where exists
(select * from hh_dtlcontacthist
where hh_dtlcontacthist.TreatmentInstID = ua treatment.TreatmentInstID
and ua treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 and ua treatment.HasDetailHistory = 1)
ao
```

```
データベース表およびオーディエンス・レベルの管理について詳しくは、
「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。
```

#### 環境変数の設定

setenv ファイルを編集して、アップグレード・ツールに必要な環境変数を設定しま す。 UNIX では setenv.sh という名前、Windows では setenv.bat という名前の このファイルは、アップグレード・ツールをインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.6 ディレクトリーにあります。

1. 任意のテキスト・エディターを使用して setenv ファイルを開きます。

UNIX では setenv.sh という名前、Windows では setenv.bat という名前のこ のファイルは、アップグレード・ツールをインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.6 ディレクトリーにあります。

2. setenv ファイル自体に含まれる指示のコメントに従って、インストールに関連 する値を入力します。

すべての Campaign アップグレードで、以下の変数を設定する必要があります。

必須変数	説明
JAVA_HOME	Campaign インストールによって使用される JDK のルート・ディレクトリー。
	WebLogic 10gR3 以上では JDK1.6 を使用す るため、JAVA_HOME パスに JDK1.6 を指定す る必要があります。JAVA_HOME に JDK1.6 以 外のものを指定すると、アップグレード・ツ ール・ユーティリティーが失敗します。
JDBCDRIVER_CLASSPATH	.jar ファイルを含む JDBC ドライバーの絶対 パス。
	Weblogic および WebSphere の場合、どちら もこのパスに .jar ファイルを含める必要が あります。
	DB2 9.1 の場合、db2jcc.jar および db2jcc_license_cu.jar を指定する必要があ ります。
IS_WEBLOGIC_SSL	ターゲット・システム・テーブルに Weblogic
BEA_HOME_PATH	サーバーを介して接続し、SSL を使用してい る場合、IS_WEBLOGIC_SSL=YES を設定してか
SSL_TRUST_KEYSTORE_FILE_PATH	ら、BEA_HOME_PATH および SSL_TRUST_KEYSTORE_FILE_PATH を設定する 必要があります。詳しくは、setenv ファイ ル内の指示を参照してください。

このほかにも、多くの設定可能な変数があります。例えば、Unicode スクリプト を実行するには、IS\_UNICODE\_SCRIPT = Y を設定します。他のすべての値につい て、setenv ファイル内の指示に従います。

## アップグレード・ツールを実行するために必要な情報の収集

acUpgradeTool を実行する前に、Campaign インストール済み環境に関する以下の情報を収集します。

- UNICA PLATFORM HOME のディレクトリー・パス
- CAMPAIGN HOME のディレクトリー・パス
- 複数のパーティションをアップグレードする場合は、アップグレードするパーティションの名前
- ターゲット Campaign システムの接続情報 (URL およびポート)
- 接続タイプ (WebLogic または JDBC) および JAR ファイルの場所
- JDBC ドライバーの Java クラス名
- JDBC URL
- JDBC ドライバーに必要な追加プロパティー (ある場合)
- ターゲット・システム・テーブル・データベースのユーザー名とパスワード
- ターゲット・システム・テーブルのカタログ (またはデータベース)
- ターゲット・システム・テーブルのスキーマ

- アップグレード前の Campaign のバージョン
- Campaign 構成ファイル (campaign\_configuration.xml) の絶対パスまたは相対パス。このファイルは、Campaign インストール済み環境の conf ディレクトリーにあります。

# アップグレード・ログについて

アップグレード・ツールを実行すると、処理の詳細、警告、またはエラーがログ・ ファイルに書き込まれます。

デフォルトでは、ログは ac\_upgrade.log という名前で、Campaign インストール・ ディレクトリーの logs ディレクトリーに置かれます (例えば、/IBM/Unica/ Campaign/logs/ac\_upgrade.log)。

ログの場所と詳細レベルは、アップグレード・ツールと同じディレクトリーにある setenv スクリプト・ファイルで指定されます。アップグレード・ツールを実行する 前に、このスクリプト・ファイルを必要に応じて変更できます。アップグレード・ ログで警告およびエラーを確認し、すべてのエラーを修正してから、アップグレー ドを完了します。

**注:** 同じ場所には、CHRH.log も生成されます。このログ・ファイルは、サイズが 0 KB なので、無視して構いません。

## パーティションのアップグレードについて

複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに対してアップグ レード・ツールを 1 回実行します。

# アップグレード・ツールの実行

アップグレード・ツールに必要な環境に関する情報を使用して setenv ファイルを カスタマイズします (この作業をまだ行っていない場合)。詳しくは、87ページの 『環境変数の設定』を参照してください。

また、アップグレード・ツールを実行するシステムに、アップグレード・ツールを インストールする必要もあります。セットアップが分散されている場合、これらの ツールを、Campaign Web アプリケーションがインストールされているシステムに インストールする必要があります。

Campaign のインストール処理中に、インストーラーが表示する、インストールする コンポーネントのチェックリストに、「アップグレード・ツール」がリストされて いました。インストール中にそのオプションを選択しなかった場合、以下の手順に 従う前に、「アップグレード・ツール」オプションのみを選択してインストーラー を再実行することで、アップグレード・ツールをインストールできます。

Campaign の新しいバージョンを再配置した後、アップグレード・ツールを実行して、Campaign システム・テーブルを更新する必要があります。複数のパーティションがある場合は、それぞれのパーティションに合わせてアップグレード・ツールを構成し、各パーティションに対して1回実行する必要があります。

重要: Campaign システム・テーブルのデータ・ソース用の該当するデータベース・ クライアント実行可能プログラム (db2、osq1、または sqlplus) は、アップグレー ド・ツールを実行するユーザーの PATH パスからアクセス可能でなければなりませ ん。

- 1. アップグレード・ツールを実行する前に、以下の手順を完了します。
  - a. ターゲット・システムの Web アプリケーション・サーバーおよび IBM Unica Marketing Web アプリケーションを始動します。
  - b. 以下のサーバーをシャットダウンします。
    - ソース・システムとターゲット・システム上の Campaign リスナー
    - ソース・システムとターゲット・システム上の UDI サーバー
- 2. Campaign をインストールしたパスの /tools/migration/5.1+To8.x ディレクト リー (8.x は、現在アップグレードしているターゲットのバージョン) にある、 アップグレード・ツール (acUpgradeTool) を実行します。

要求される情報をプロンプトで入力し、新規バージョンの Campaign 用にシステム・テーブルをアップグレードします。

ツールが正常に完了したら、アップグレード・プロセスは完了です。

アップグレード・ツールの実行中にメモリー・エラーが表示された場合は、setenv ファイルでさらに大きい Java ヒープ・メモリー・サイズを (JAVA\_OPTIONS 環境 変数に) 指定してから、ツールの実行を再試行します。詳しくは、 87 ページの『環 境変数の設定』を参照してください。

# 付録 A. IBM Unica ユーティリティー

このセクションでは、Campaign をインストールするときに使用しなければならない 可能性があるユーティリティーについて説明します。

Campaign にも、複数の管理ユーティリティーが組み込まれています。これらのユー ティリティーについて詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

## Marketing Platform ユーティリティーについて

このセクションでは、Marketing Platform ユーティリティーの概要を説明します。こ の説明には、ユーティリティーのすべてに適用される詳細が含まれます。これらの 詳細は、個々のユーティリティーの説明には記載しません。

#### ユーティリティーの場所

Marketing Platform ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにあります。

#### ユーティリティーのリストおよび説明

Marketing Platform は、以下のユーティリティーを提供します。

- 103 ページの『configTool ユーティリティー』 製品の登録を含め、構成設定 をインポート、エクスポート、および削除します。
- 107 ページの『datafilteringScriptTool ユーティリティー』 データ・フィルター を作成します。
- 109 ページの『encryptPasswords ユーティリティー』 パスワードを暗号化して 保管します。
- 110ページの『partitionTool ユーティリティー』 パーティションのデータベース・エントリーを作成します。
- 112 ページの『populateDb ユーティリティー』 Marketing Platform データベー スにデータを追加します。
- 113ページの『restoreAccess ユーティリティー』 platformAdminRole 役割を持 つユーザーを復元します。
- 115ページの『scheduler\_console\_client ユーティリティー』 トリガーを listen するように構成された IBM Unica スケジューラー・ジョブをリストまたは開始 します。

#### Marketing Platform ユーティリティーを実行するための前提条件

以下は、すべての Marketing Platform ユーティリティーの実行に関する前提条件です。

 すべてのユーティリティーは、そのユーティリティーが置かれているディレクト リー (デフォルトでは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリー) から実行します。  UNIX でのベスト・プラクティスは、Marketing Platform が配置されているアプリ ケーション・サーバーを実行するユーザー・アカウントと同じユーザー・アカウ ントでユーティリティーを実行することです。別のユーザー・アカウントでユー ティリティーを実行する場合は、platform.log ファイルに設定されたアクセス許 可を調整して、そのユーザー・アカウントがこのファイルに書き込めるようにし ます。アクセス許可を調整しなければ、ユーティリティーがログ・ファイルに書 き込むことができないため、エラー・メッセージが表示される場合があります。 ただし、その場合でもツールは正常に機能します。

#### 接続問題のトラブルシューティング

Marketing Platform ユーティリティーがタスクを正常に完了できない場合、以下の情報を参考にすることで、問題の解決に役立つ可能性があります。

- encryptPasswords を除くすべての Marketing Platform ユーティリティーは、 Marketing Platform システム・テーブルと対話します。システム・テーブル・デー タベースに接続するために、これらのユーティリティーは以下の接続情報を使用 します。これらの情報は、インストーラーが Marketing Platform のインストール 時に提供された情報を使用して設定します。
  - JDBC ドライバー名
  - JDBC 接続 URL (ホスト、ポート、およびデータベース名が組み込まれま す。)
  - データ・ソース・ログイン
  - データ・ソース・パスワード (暗号化済み)

上記の情報は、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある、jdbc.properties ファイルに保管されています。このファイルで 値を調べて、ご使用の環境に正しい値であることを確認します。

 さらに、Marketing Platform ユーティリティーは、Marketing Platform インストー ル済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプト、またはコマ ンド・ラインのいずれかで設定される、JAVA\_HOME 環境変数に依存します。

Marketing Platform インストーラーは、この変数を setenv スクリプトに自動的に 設定しているはずですが、ユーティリティーの実行に問題がある場合には、 JAVA\_HOME 変数が設定されていることを確認することをお勧めします。 JDK は Sun バージョンでなければなりません (例えば、WebLogic で使用可能な JRockit JDK であってはなりません)。

設定されている場合、JAVA\_HOME 環境変数は 1.6 バージョンの Sun JRE を指している必要があります。

JAVA\_HOME 環境変数が正しくない JRE を指している場合には、JAVA\_HOME 変数を 設定解除してから、IBM Unica インストーラーを実行してください。そのために は、次のようにします。

- Windows: コマンド・ウィンドウに次のコマンドを入力します。

set JAVA\_HOME= を空のままにして、Return キーを押します。 - \*NIX タイプのシステム:端末で次のコマンドを入力します。

export JAVA HOME= を空のままにして、Return キーを押します。
この作業を行ってから、実行する必要のある Marketing Platform ユーティリティ ーを呼び出します。

### 特殊文字

オペレーティング・システムで予約文字として指定されている文字は、エスケープ する必要があります。予約文字のリストおよびエスケープする方法については、オ ペレーティング・システムの資料を参照してください。

### Marketing Platform ユーティリティーでの標準オプション

以下のオプションは、すべての Marketing Platform ユーティリティーで選択可能です。

-l logLevel

コンソールに表示されるログ情報のレベルを設定します。オプションは、high、 medium、および low です。デフォルトは low です。

-L

コンソール・メッセージのロケールを設定します。デフォルト・ロケールは en\_US です。選択可能なオプションの値は、Marketing Platform が翻訳されている言語によ って決まります。ロケールを指定するには、ISO 639-1 および ISO 3166 に従った ICU ロケール ID を使用します。

-h

コンソールに使用法に関する簡単なメッセージを表示します。

-m

コンソールに、このユーティリティーのマニュアル・ページを表示します。

-V

コンソールに、実行の詳細を表示します。

# configTool ユーティリティー

「構成」ページのプロパティーと値は、Marketing Platform システム・テーブルに格 納されます。 configTool ユーティリティーは、構成設定を Marketing Platform シ ステム・テーブルにインポート、またはそこからエクスポートします。

### configTool をいつ使用するか

以下の理由で configTool を使用することがあります。

- Campaign に付属のパーティションおよびデータ・ソース・テンプレートをインポートする場合。このテンプレートは、「構成」ページを使用して変更したり複製したりできます。
- 製品インストーラーが自動的にプロパティーをデータベースに追加できない場合 に、IBM Unica Marketing 製品を登録 (構成プロパティーをインポート) する。

- バックアップ用、または IBM Unica Marketing の他のインストール済み環境への インポート用に、XML バージョンの構成設定をエクスポートする。
- 「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリーを削除する。これを行うには、 configTool を使用して構成をエクスポートしてから、カテゴリーを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して編集済み XML をインポートしま す。

重要: このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データベ ースの usm\_configuration テーブルと usm\_configuration\_values テーブルを変更 します。これらのテーブルには、構成プロパティーとそれらの値が入っています。 最良の結果を得るため、これらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、 または configTool を使用して既存の構成をエクスポートし、その結果得られたフ ァイルをバックアップします。こうして、configTool を使用してインポートする際 に誤りがあった場合でも構成を復元することができます。

### 有効な製品名

configTool ユーティリティーでは、このセクションで後述する、製品の登録と登録 抹消を行うコマンドで、製品名をパラメーターとして使用します。 IBM Unica Marketing の 8.0.0 リリースでは、多くの製品名が変更されました。しかし、 configTool で認識される名前は変更されませんでした。 configTool で使用するた めの有効な製品名を、現在の製品名と共に以下にリストします。

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Optimize	Optimize
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
NetInsight	NetInsight
PredictiveInsight	Model
Leads	Leads

# 構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
configTool -r productName -f registrationFile [-o]
configTool -u productName
```

### コマンド

#### -d -p "elementPath"

構成プロパティー階層内のパスを指定して、構成プロパティーとそれらの設定を削 除します。

要素パスでは、カテゴリーとプロパティーの内部名を使用する必要があります。これらを取得するには、「構成」ページに移動し、対象のカテゴリーまたはプロパティーを選択し、右ペインで括弧内に表示されているパスを確認します。 | 文字を使用して構成プロパティーの階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドを使用して削除できるのは、アプリケーション全体ではなく、アプリケーション内のカテゴリーとプロパティーのみです。アプリケーション全体の登録を抹消するには、-u コマンドを使用してください。
- 「構成」ページで「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリーを削除するには、-0オプションを使用してください。

### -i -p "parentElementPath" -f importFile

指定された XML ファイルから、構成プロパティーとそれらの設定をインポートします。

インポートするには、親要素へのパスを指定します。この親要素の下に、カテゴリ ーがインポートされます。 configTool ユーティリティーは、パスに指定されたカ テゴリーの下 にプロパティーをインポートします。

最上位より下のいずれのレベルでもカテゴリーを追加できますが、最上位カテゴリ ーと同じレベルではカテゴリーを追加できません。

親要素パスでは、カテゴリーとプロパティーの内部名を使用する必要があります。 これらを取得するには、「構成」ページに移動し、対象のカテゴリーまたはプロパ ティーを選択し、右ペインで括弧内に表示されているパスを確認します。 | 文字を 使用して構成プロパティーの階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

tools/bin ディレクトリーからのインポート・ファイルの相対位置を指定できま す。あるいは、ディレクトリーの絶対パスを指定できます。相対パスを指定する か、またはパスを指定しない場合、configTool はまず、tools/bin ディレクトリー からの相対位置にあるファイルを探します。

デフォルトではこのコマンドで既存のカテゴリーは上書きされませんが、-o オプションを使用して強制的に上書きすることができます。

#### -x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前の XML ファイルに、構成プロパティーとそれらの設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティーをエクスポートできます。あるいは、構成プロパティー 階層内のパスを指定することで、特定のカテゴリーに限定してエクスポートするこ ともできます。 要素パスでは、カテゴリーとプロパティーの内部名を使用する必要があります。こ れらを取得するには、「構成」ページに移動し、対象のカテゴリーまたはプロパテ ィーを選択し、右ペインで括弧内に表示されているパスを確認します。 | 文字を使 用して構成プロパティーの階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからのエクスポート・ファイルの相対位置を指定できます。あるいは、ディレクトリーの絶対パスを指定できます。ファイル指定に区切り文字 (Unix では / Windows では / または ¥) が含まれない場合、configTool は Marketing Platform インストール済み環境下の tools/bin ディレクトリーにファイ ルを書き込みます。 xml 拡張子を付けなかった場合、configTool がそれを付加します。

#### -r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。登録ファイルの場所は、tools/bin ディレクトリーからの相対位置か、絶対パスにすることができます。デフォルトではこのコマンドで既存の構成は上書きされませんが、-o オプションを使用して強制的に上書きすることができます。 productName パラメーターは、上記にリストされたものの 1 つでなければなりません。

次のことに注意してください。

-r オプションを使用する場合、登録ファイルには XML 内の 1 番目のタグとして <application> が含まれていなければなりません。

Marketing Platform データベースへの構成プロパティーの挿入に使用できる他のファイルが、製品と共に提供されることがあります。それらのファイルについては、-i オプションを使用します。 <application> タグが 1 番目のタグとして含まれるファイルのみ、-r オプションと共に使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルは Manager\_config.xml という名前で、1 番目のタグは <Suite> です。新規インストールでこのファイルを登録するには、 「*IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド*」に説明されているよう に populateDb ユーティリティーを使用するか、または Marketing Platform イン ストーラーを再実行します。
- 初回インストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、 configTool を -r オプションおよび -o と共に使用して、既存のプロパティーを 上書きします。

#### -u productName

productName によって指定されたアプリケーションの登録を抹消します。製品カテ ゴリーへのパスを含める必要はありません。製品名で十分です。 productName パラ メーターは、上記にリストされたものの 1 つでなければなりません。これにより、 製品のすべてのプロパティーと構成設定が削除されます。

### オプション

#### -0

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリーまたは製品の登録 (ノード) が 上書きされます。 -d と共に使用すると、「構成」ページで「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴ リー (ノード)を削除できます。

## 例

 Marketing Platform インストール済み環境下の conf ディレクトリーに置かれた Product\_config.xml という名前のファイルから、構成設定をインポートします。

configTool -i -p "Affinium" -f Product\_config.xml

 提供されている Campaign データ・ソース・テンプレートの 1 つを、デフォルト の Campaign パーティションである partition1 にインポートします。この例で は、Oracle データ・ソース・テンプレートである OracleTemplate.xml が、 Marketing Platform インストール済み環境下の tools/bin ディレクトリーに置か れているとします。

configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f OracleTemplate.xml

すべての構成設定を、D:¥backups ディレクトリーに置かれた myConfig.xml という名前のファイルにエクスポートします。

configTool -x -f D:¥backups¥myConfig.xml

 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーを伴う) をエク スポートし、partitionTemplate.xml という名前のファイルに保存し、Marketing Platform インストール済み環境下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーに保 管します。

configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f
partitionTemplate.xml

Marketing Platform インストール済み環境下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーに置かれた、app\_config.xml という名前のファイルを使用して、productName という名前のアプリケーションを手動で登録し、このアプリケーションの既存の登録を強制的に上書きします。

configTool -r product Name -f app\_config.xml -o

• productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

configTool -u productName

# datafilteringScriptTool ユーティリティー

datafilteringScriptTool ユーティリティーは、XML ファイルを読み取って、 Marketing Platform システム・テーブル・データベース内のデータ・フィルター・テ ーブルにデータを追加します。

XML をどのように作成するかによって、このユーティリティーは 2 つの方法で使 用できます。

• XML 要素の 1 つのセットを使用して、フィールド値の固有の組み合わせを基 に、データ・フィルターを自動生成できます (固有の組み合わせごとに、1 つの データ・フィルター)。 • XML 要素のわずかに異なるセットを使用して、ユーティリティーが作成する各 データ・フィルターを指定できます。

XML の作成について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド*」を 参照してください。

### どのような場合に datafilteringScriptTool を使用するか

新しいデータ・フィルターを作成するときには、datafilteringScriptTool を使用 する必要があります。

# 前提条件

Marketing Platform が配置され、実行されている必要があります。

### SSL での datafilteringScriptTool の使用

Marketing Platform が片方向 SSL を使用して配置されている場合は、 datafilteringScriptTool スクリプトを変更して、ハンドシェークを実行する SSL オプ ションを追加する必要があります。スクリプトを変更するには、以下の情報が必要 です。

- トラストストア・ファイル名およびパス
- トラストストアのパスワード

テキスト・エディターで、datafilteringScriptTool スクリプト (.bat または .sh) を 開き、以下のような行を見つけます (Windows バージョンの例です)。

:callexec

"%JAVA\_HOME%¥bin¥java" -DUNICA\_PLATFORM\_HOME="%UNICA\_PLATFORM\_HOME%"

com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %\*

これらの行を、以下のように編集します (新しいテキストは太字になっています)。 myTrustStore.jks および myPassword を、ご使用のトラストストアのパスとファイ ル名およびトラストストアのパスワードで置き換えます。

:callexec

SET SSL OPTIONS=-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"

-Djavax.net.ssl.trustStore="C:¥security¥myTrustStore.jks"

#### -Djavax.net.ssl.trustStorePassword=myPassword

"%JAVA\_HOME%¥bin¥java" -DUNICA\_PLATFORM\_HOME="%UNICA\_PLATFORM\_HOME%"
%SSL OPTIONS%

com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %\*

### 構文

datafilteringScriptTool -r pathfile

# コマンド

-r path\_file

指定された XML ファイルからデータ・フィルター仕様をインポートします。ファ イルがインストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにない場合、*path\_*file パラメーターにパスを指定して二重引用符で囲みます。

### 例

 C:¥unica¥xml ディレクトリーにある collaborateDataFilters.xml という名前の ファイルを使用して、データ・フィルター・システム・テーブルにデータを追加 します。

datafilteringScriptTool -r "C:¥unica¥xml¥collaborateDataFilters.xml"

# encryptPasswords ユーティリティー

encryptPasswords ユーティリティーは、Marketing Platform が使用する以下の 2 つのパスワードのいずれかを暗号化し、保管するために使用します。

- Marketing Platform がそのシステム・テーブルにアクセスするために使用するパス ワード。ユーティリティーは、既存の暗号化されたパスワード (Marketing Platform インストール済み環境の tools¥bin ディレクトリーにある、 jdbc,properties ファイルに保管されています)を新しいパスワードで置き換え ます。
- Marketing Platform が、Marketing Platform または Web アプリケーション・サーバーに付属のデフォルトの証明書以外の証明書を使って SSL を使用するように構成されている場合に使用する鍵ストア・パスワード。この証明書は、自己署名証明書または認証局からの証明書のいずれかです。

# どのような場合に encryptPasswords を使用するか

encryptPasswords は、次のような目的で使用します。

- Marketing Platform システム・テーブル・データベースにアクセスするために使用 するアカウントのパスワードを変更する場合。
- 自己署名証明書を作成したか、認証局から証明書を入手した場合。

### 前提条件

- encryptPasswords を実行する前に、新しいデータベース・パスワードを暗号化お よび保管して、jdbc.properties ファイルのバックアップ・コピーを作成しま す。このファイルは、Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin デ ィレクトリーにあります。
- encryptPasswords を実行して鍵ストアのパスワードを暗号化し、保管するには、 デジタル証明書を作成または入手して、鍵ストアのパスワードを知っておかなけ ればなりません。

その他の前提条件は、101ページの『Marketing Platform ユーティリティーについ て』を参照してください。

# 構文

encryptPasswords -d databasePassword

encryptPasswords -k keystorePassword

### コマンド

#### -d databasePassword

データベース・パスワードを暗号化します。

#### -k keystorePassword

鍵ストア・パスワードを暗号化して、pfile という名前のファイルに保管します。

### 例

 Marketing Platform のインストール時に、システム・テーブル・データベース・ア カウントのログインは、myLogin に設定されていました。インストールしてから しばらく経った今、このアカウントのパスワードを newPassword に変更しまし た。以下のように encryptPasswords を実行して、データベース・パスワードを 暗号化して保管します。

encryptPasswords -d newPassword

 SSL を使用するように IBM Unica Marketing アプリケーションを構成しています。デジタル証明書は、既に作成または入手しました。以下のように encryptPasswords を実行して、鍵ストア・パスワードを暗号化して保管します。

encryptPasswords -k myPassword

# partitionTool ユーティリティー

パーティションには、Campaign のポリシーおよび役割が関連付けられます。これら のポリシーと役割、およびそれぞれのパーティションとの関連付けは、Marketing Platform システム・テーブルに保管されます。partitionTool ユーティリティー は、Marketing Platform システム・テーブルにパーティションに関する基本ポリシー および役割情報のシードを行います。

### どのような場合に partitionTool を使用するか

作成するパーティションごとに、partitionTool を使用して、Marketing Platform シ ステム・テーブルへの基本ポリシーおよび役割情報のシードを行います。

Campaign に複数のパーティションをセットアップする方法について詳しくは、お使いのバージョンの Campaign のインストール・ガイドを参照してください。

### 特殊文字とスペース

スペースが含まれるパーティションの説明またはユーザー、グループ、あるいはパ ーティションの名前は、二重引用符で囲む必要があります。

その他の制約事項については、101ページの『Marketing Platform ユーティリティー について』を参照してください。

# 構文

partitionTool -c -s sourcePartition -n newPartitionName [-u admin\_user\_name] [-d partitionDescription] [-g groupName]

### コマンド

partitionTool ユーティリティーでは、以下のコマンドを使用できます。

- C

-s オプションを使用して指定された既存のパーティションのポリシーおよび役割を 複製し、-n オプションを使用して指定された名前を付けます。c では、これらのオ プションの両方が必須です。このコマンドは以下の操作を行います。

- Campaign の管理役割ポリシーとグローバル・ポリシーの両方で、管理役割を持つ 新規 IBM Unica Marketing ユーザーを作成します。指定するパーティション名 が、自動的にこのユーザーのパスワードとして設定されます。
- 新規 Marketing Platform グループを作成し、新しい管理ユーザーをそのグループのメンバーにします。
- 新規パーティション・オブジェクトを作成します。
- ソース・パーティションに関連付けられたすべてのポリシーを複製し、これらの ポリシーを新しいパーティションに関連付けます。
- 複製されたポリシーごとに、そのポリシーに関連付けられたすべての役割を複製 します。
- 複製された役割ごとに、ソース役割でマップされていたように、すべての機能を マップします。
- 新規 Marketing Platform グループを、役割の複製中に作成されたシステム定義の 最新の管理役割に割り当てます。デフォルトのパーティションである partition1 を複製する場合、この役割はデフォルト管理役割 (Admin) となります。

# オプション

#### -d partitionDescription

オプション。-c との組み合わせでのみ使用します。-list コマンドの出力に表示す る説明を指定します。 256 文字以内でなければなりません。説明にスペースが含ま れる場合は、二重引用符で囲みます。

#### -g groupName

オプション。-c との組み合わせでのみ使用します。ユーティリティーが作成する Marketing Platform 管理グループの名前を指定します。名前は、Marketing Platform のこのインスタンス内で一意でなければなりません。

名前が定義されない場合のデフォルトは、partition\_nameAdminGroup です。

#### -n partitionName

-list ではオプション、-c では必須です。32 文字以内でなければなりません。

-list で使用する場合、情報をリストするパーティションを指定します。

-c で使用する場合、新規パーティションの名前を指定します。指定するパーティション名は、管理ユーザーのパスワードとして使用されます。パーティション名は、 そのパーティションを(「構成」ページでパーティション・テンプレートを使用して)構成したときにパーティションに指定した名前と一致する必要があります。

#### -s sourcePartition

必須。-c との組み合わせでのみ使用します。複製するソース・パーティションの名前です。

#### -u adminUserName

オプション。-c との組み合わせでのみ使用します。複製されたパーティションの管 理ユーザーのユーザー名を指定します。名前は、Marketing Platform のこのインスタ ンス内で一意でなければなりません。

名前が定義されない場合のデフォルトは、partitionNameAdminUser です。

パーティション名が、自動的にこのユーザーのパスワードとして設定されます。

### 例

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
  - partition1 から複製する。
  - パーティション名を myPartition にする。
  - デフォルトのユーザー名 (myPartitionAdminUser) およびパスワード (myPartition) を使用する。
  - デフォルトのグループ名 (myPartitionAdminGroup) を使用する。
  - 説明を「ClonedFromPartition1」にする。

partitionTool -c -s partition1 -n myPartition -d "ClonedFromPartition1"

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
  - partition1 から複製する。
  - パーティション名を partition2 にする。
  - ユーザー名を customerA に指定し、partition2 のパスワードを自動的に割り 当てる。
  - グループ名を customerAGroup に指定する。
  - 説明を「PartitionForCustomerAGroup」にする。

partitionTool -c -s partition1 -n partition2 -u customerA -g customerAGroup -d "PartitionForCustomerAGroup"

# populateDb ユーティリティー

populateDb ユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブルにデフォ ルト (シード) ・データを挿入します。

IBM インストーラーは、Marketing Platform システム・テーブルに、Marketing Platform および Campaign のデフォルト・データを追加できます。ただし、企業ポリシーがインストーラーによるデータベースの変更を許可しない場合、またはイン

ストーラーが Marketing Platform システム・テーブルに接続できない場合は、この ユーティリティーを使用して、Marketing Platform システム・テーブルにデフォル ト・データを挿入する必要があります。

Campaign の場合、このデータには、デフォルト・パーティションのセキュリティー の役割および権限が含まれます。 Marketing Platform の場合、このデータには、デ フォルトのユーザーとグループ、およびデフォルト・パーティションのセキュリテ ィーの役割および権限が含まれます。

# 構文

populateDb -n productName

# コマンド

-n productName

デフォルト・データを Marketing Platform システム・テーブルに挿入します。有効 な製品名は、Manager (Marketing Platform の場合) および Campaign (Campaign の場 合) です。

# 例

•

Marketing Platform のデフォルト・データを手動で挿入します。

populateDb -n Manager

Campaign のデフォルト・データを手動で挿入します。

populateDb -n Campaign

# restoreAccess ユーティリティー

PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが誤ってロックアウトされた場合、 または Marketing Platform にログインするすべての機能が失われた場合には、 restoreAccess ユーティリティーを使用して、Marketing Platform へのアクセスを復 元できます。

# どのような場合に restoreAccess を使用するか

このセクションで説明する 2 つの状況では、restoreAccess を使用することをお勧めします。

### PlatformAdminRole ユーザーが無効になった場合

Marketing Platform で PlatformAdminRole 特権を持つすべてのユーザーが、システ ム内で無効にされる可能性があります。platform\_admin ユーザー・アカウントが無 効にされる場合の一例を説明します。例えば、PlatformAdminRole 特権を持つユーザ ー (platform\_admin ユーザー)が1 人しかないとします。「構成」ページで、「全 般 | パスワード設定」カテゴリーの「許可されるログイン再試行の最大回数」プロ パティーが3 に設定されているとします。この場合に、誰かが platform\_admin と してログインを試み、不正なパスワードを 3 回連続して入力したとします。これら のログイン試行の失敗により、platform\_admin アカウントはシステム内で無効にさ れます。

この場合、restoreAccess を使用することで、Web インターフェースにアクセスせずに、PlatformAdminRole 特権を持つユーザーを Marketing Platform システム・ユ ーザーに追加できます。

このようにして restoreAccess を実行すると、ユーティリティーは、指定されたロ グイン名とパスワード、および PlatformAdminRole 特権を設定したユーザーを作成 します。

指定したユーザー・ログイン名が、Marketing Platform 内に内部ユーザーとして存在 する場合、そのユーザーのパスワードは変更されます。

ログイン名が PlatformAdmin で、PlatformAdminRole 特権を持つユーザーのみが、 例外なくすべてのダッシュボードを管理できます。したがって、platform\_admin ユ ーザーが無効にされて、restoreAccess を使用してユーザーを作成する場合は、 platform\_admin のログインを設定したユーザーを作成する必要があります。

#### Active Directory の統合が不適切に構成されている場合

不適切な構成で Windows Active Directory 統合を実装したことにより、ログインで きなくなった場合には、restoreAccess を使用して、ログイン機能を復元します。

このようにして restoreAccess を実行すると、ユーティリティーは 「Platform | セキュリティー | ログイン方法」プロパティーの値を「Windows 統合ログイン」か ら Marketing Platform に変更します。この変更により、ロックアウトされる前に 存在していた任意のユーザー・アカウントを使用してログインできるようになりま す。オプションで、新規ログイン名およびパスワードを指定することもできます。 このように restoreAccess ユーティリティーを使用する場合は、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要がありま す。

## パスワードに関する考慮事項

restoreAccess を使用するときには、パスワードに関して次のことに注意してください。

- restoreAccess ユーティリティーは、ブランク・パスワードをサポートしません。また、パスワード規則を強要しません。
- 使用中のユーザー名を指定すると、ユーティリティーはそのユーザーのパスワードをリセットします。

### 構文

restoreAccess -u loginName -p password

restoreAccess -r

### コマンド

-r

-u *loginName* オプションを指定しないで使用する場合、「Unica」|「セキュリティ ー」|「ログイン方法」プロパティーの値を Marketing Platform に再設定します。 変更を適用するには、Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要がありま す。

-u *loginName* オプションを指定して使用する場合、PlatformAdminRole ユーザーを 作成します。

# オプション

#### -u loginNname

PlatformAdminRole 特権および指定したログイン名を持つユーザーを作成します。-p オプションと一緒に使用する必要があります。

#### -p password

作成するユーザーのパスワードを指定します。-u に必要です。

### 例

• PlatformAdminRole 特権を持つユーザーを作成します。ログイン名は tempUser で、パスワードは tempPassword です。

restoreAccess -u tempUser -p tempPassword

 ログイン方法の値を Unica Marketing Platform に変更し、PlatformAdminRole 特 権を持つユーザーを作成します。ログイン名は tempUser で、パスワードは tempPassword です。

restoreAccess -r -u tempUser -p tempPassword

# scheduler\_console\_client ユーティリティー

IBM Unica Marketing スケジューラーに構成されているジョブがトリガーを listen するようにセットアップされている場合は、このユーティリティーによって、それ らのジョブをリストし、開始できます。

# SSL が使用可能にされている場合の作業

Marketing Platform Web アプリケーションが SSL を使用するように構成されている 場合、scheduler\_console\_client ユーティリティーが使用する JVM は、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーで使用されている SSL 証明書と同じ証明書を使用する必要があります。

SSL 証明書をインポートするには、以下の手順に従います。

- scheduler\_console\_client によって使用される JRE の場所を特定します。
  - JAVA\_HOME がシステム環境変数として設定されている場合、この環境変数が指す JRE が、scheduler\_console\_client ユーティリティーによって使用されるものです。
  - JAVA\_HOME がシステム環境変数として設定されていない場合、
     scheduler\_console\_client ユーティリティーは、Marketing Platform インスト

ール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプト、また はコマンド・ラインのいずれかで設定された JRE を使用します。

Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書を、scheduler\_console\_client が使用する JRE にインポートします。

Sun JDK には、証明書をインポートするために使用できる、keytool という名前 のプログラムが組み込まれています。このプログラムの使用法について詳しく は、Java の資料を参照するか、プログラムを実行する際に -help を入力してへ ルプにアクセスしてください。

証明書が一致しないと、Marketing Platform ログ・ファイルに以下のようなエラーが 記録されます。

原因: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: 要求され たターゲットへの有効な証明書パスが見つかりません (Caused by: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: unable to find valid certification path to requested target)

### 前提条件

Marketing Platform がインストールされ、配置され、実行されている必要があります。

# 構文

scheduler\_console\_client -v -t trigger\_name user\_name

scheduler\_console\_client -s -t trigger\_name user\_name

### コマンド

- V

指定されたトリガーを listen するように構成されているスケジューラー・ジョブを リストします。

-t オプションと一緒に使用する必要があります。

### - S

指定されたトリガーを listen するように構成されているスケジューラー・ジョブを 実行します。

-t オプションと一緒に使用する必要があります。

## オプション

#### -t trigger\_name

スケジューラーに構成されている、トリガーの名前。

# 例

• trigger1 という名前のトリガーを listen するように構成されているジョブをリストします。

scheduler\_console\_client -v -t trigger1

• trigger1 という名前のトリガーを listen するように構成されているジョブを実行 します。

scheduler\_console\_client -s -t trigger1

# RCT スクリプト

このスクリプトは、レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) を実行した り、IBM Unica Hosted Services で RCT がホストされたメーリング環境に正常に接 続できるかどうかを判別したりするために使用されます。

このスクリプトは、eMessage インストール済み環境の bin ディレクトリーにあり ます。eMessage ディレクトリーは、Campaign ディレクトリー内にあるサブディレ クトリーです。

UNIX または Linux 環境では、このスクリプトを rct.sh として実行します。

Windows では、このスクリプトをコマンド・ラインから rct.bat として実行します。

## 構文

rct [ start | stop | check ]

### コマンド

start

```
RCT を始動します。
```

#### stop

RCT を停止します。

## オプション

#### check

RCT が IBM Unica Hosted Services に接続できるかどうかを検査します。

# 例

• Windows で RCT を始動するには、以下を実行します。

rct.bat start

• Windows で RCT を停止するには、以下を実行します。

rct.bat stop

 Linux 環境で、RCT が IBM Unica Hosted Services に接続できるかどうかを判別 します。

rct.sh check

RCT が IBM Unica Hosted Services に正常に接続できる場合、このコマンドは次のような出力を返します。

C:/Unica/emessage/bin>rct check Testing config and connectivity for partition partition1 Succeeded | Partition: partition1 - Hosted Services Account ID: asm admin

# MKService\_rct スクリプト

レスポンスおよびコンタクトのトラッカー (RCT) をサービスとして追加または削除 するには、このスクリプトを使用します。RCT をサービスとして追加すると、RCT をインストールしたマシンのオペレーティング・システムを再始動するたびに、 RCT が再始動されます。サービスとしての RCT を削除すると、RCT は自動的に 再始動されなくなります。

このスクリプトは、eMessage インストール済み環境の bin ディレクトリーにあります。

UNIX または Linux 環境では、root 権限またはデーモン・プロセスを作成する権限 を持つユーザーとして MKService\_rct.sh を実行します。

Windows では、このスクリプトをコマンド・ラインから MKService\_rct.bat とし て実行します。

## 構文

MKService\_rct -install

MKService\_rct -remove

# コマンド

-install

RCT をサービスとして追加します。

#### -remove

RCT サービスを削除します。

### 例

• RCT を Windows サービスとして追加する場合には、以下を実行します。

MKService\_rct.bat -install

• UNIX または Linux で RCT サービスを削除するには、以下を実行します。

MKService\_rct.sh -remove

# 付録 B. IBM Unica 製品のアンインストール

以下を行うときに、IBM Unica 製品をアンインストールしなければならない場合が あります。

- システムの廃棄。
- システムからの IBM Unica 製品の削除。
- システムでのスペースの解放。

IBM Unica Marketing 製品をインストールすると、アンインストーラーが Uninstall\_Product ディレクトリーに組み込まれます。ここで、Product は IBM Unica 製品の名前です。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラム の追加と削除」リストにも項目が追加されます。

IBM Unica アンインストーラーを実行すると、すべての構成ファイル、インストー ラー・レジストリー情報、ユーザー・データがシステムから削除されます。アンイ ンストーラーを実行するのではなくインストール・ディレクトリー内のファイルを 手動で削除すると、同じ場所に IBM Unica 製品を後ほど再インストールする場合に インストール結果が不完全なものになる可能性があります。製品アンインストール の後でも、データベースは削除されません。アンインストーラーはインストール中 に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成また は生成されたどのファイルも削除されません。

# IBM Unica 製品をアンインストールするには

システムから IBM Unica 製品を適切に除去するには、以下の説明に従ってください。

注: UNIX の場合、IBM Unica Marketing をインストールしたのと同じユーザー・ア カウントによってアンインストーラーを実行する必要があります。

- 1. IBM Unica Marketing 製品の Web アプリケーションを WebSphere または WebLogic から配置解除します。
- 2. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします。
- アンインストールする製品に関連する実行中のプロセスをすべて停止します。例 えば、Campaign または Optimize をアンインストールするには、その前にこれ らの製品のリスナー・サービスを停止します。
- 4. IBM Unica Marketing アンインストーラーを実行し、ウィザードの指示に従います。

アンインストーラーは Uninstall\_Product ディレクトリーにあります。 Product は、IBM Unica Marketing 製品の名前です。

無人モードを使ってインストールされた製品をアンインストールする際、アンイ ンストールは無人モードで実行されます (ユーザー対話のためのダイアログは表 示されません)。

# IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されている サポート窓口を通じて IBM Unica 技術サポートに電話することができます。このセ クションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができま す。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

### 収集する情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデー タ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した、製品およびシステム環境に関する情報。

## システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」 ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のア プリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「**ヘルプ」>「バージョン情報」**を選択することによ り表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM Unica アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある version.txt ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番 号を入手できます。

# IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm) を参照 してください。

# 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービス に言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能 であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を 侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用す ることができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの 評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM お よびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提 供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むす べての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっ ては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限 を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation 170 Tracer Lane Waltham, MA 02451 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があ ります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行 っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の 要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それら の製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行 価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を 例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されていま す。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラット フォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプ リケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式 においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを 経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、 利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。 これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるも のであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プ ログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示さ れない場合があります。

# 商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それ ぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リスト については、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。



Printed in Japan